

Interview ... バンドじゃないもん! MAXX NAKAYOSHI ヒトリエ angela 小松未可子 ネクライトーキー PERSONZ
Editor's Talk Session ... 『姫路Beta出身のバンドたちによる支援コンビ盤「VERSUS FATE」』 / music UP's Q! ... 『今、気になっている人』



TAKE FREE!!
2021.5.20
Vol.199

宮野真守





宮野真守

“こんな自由が待ってるなんて”と歌える日が必ず来る

自身が出演する映画主題歌であり、歌詞は坂本真綾が手がけた話題作「透明」。ピアノとストリングスの壮大な調べの中で歌われる長い旅の結末は、混沌の現代に生きる我々の状況にもシンクロし、大きな感動を与えてくれる。昨年12月に開催された初のスタジオライブ『MAMORU MIYANO STUDIO LIVE ～STREA MING! ～』もパッケージ化されて、エンターテインメントに対する彼の追求は止まらない。

——今回の新曲「透明」は『劇場版 Fate/Grand Order - 神聖円卓領域キャメロット - 後編 Paladin; Agateram』の主題歌で、作詞は坂本真綾さんが担当されていますよね。どういった経緯で坂本さんが歌詞を書かれることになったのでしょうか？
「今回タイアップをいただいた『Fate/Grand Order』というシリーズは今までたくさんアニメ化されていて、その主題歌の多くを坂本真綾さんが手がけられてきたんですね。今回は僕が声優として演じるベディヴィエールというキャラクターがメインになるお話が映画化されることになり、ありがたいことに作品側から後編の主題歌のお話をいただいたんです」
——おお。それは滅多にないことじゃありません？
「はい。なので、驚きましたし、すごく光栄なことだなと。どういった曲にするかとい

う方向性はお任せしていただけることになったんですが、同時に真綾さんに作詞をしていただく選択肢もあるというお話も聞いたんです。僕自身、真綾さんには10代の頃からお世話になっていて、初めて主役を務めた作品のエンディングを歌われていましたし、音楽の面でも大きな影響を受けた方なんです。そんな真綾さんに作詞をしていただけることは僕の人生の中でもとても特別でありがたいことだと思い、お願いさせていただくことにしました。それで、まずはどういった楽曲の構成にしようかと考えて、改めて映画のシナリオを読んだり、物語の世界観やベディヴィエールの本質…苦しみや孤独感を深く追求して、言葉にしていっただけなんです。そうしたことと歌に乗せていただけたらいいなと、真綾さんに伝えようとしたタイミングで、この映画の前編の主題歌であ

り、真綾さんが担当された「独白」を聴いたんです。そしたら僕が考えていたことは、ほぼ「独白」で表現されていて、それがものすごくカッコ良くて。前編の主題歌ということで物語への想いを掻き立てるようなエモーショナルな空気感があり、スローからアップテンポへ切り替わるなどの複雑な心情を描くような組曲的構成もあって、何よりも「独白」というタイトルの通り、問題提起で終わる曲だったんです。だから、それを聴いた時に、“じゃあ、後編の主題歌はその先にある曲になればいいな”と、問題提起の先にある解決という意味で言うと、“救い”だとか“希望”だとかっていう光のある方向性で、この作品を締め括る“赦し”を歌えたらいいなと思ったんです。で、曲調はスローテンポで祝福の光が差し込むような雰囲気のものにしたいと作曲の Jin Nakamura さんにも

お伝えしたら、タイトルに“祝福の光”という意味の英語がついたデモを作ってくださって。そこからイメージできたものもたくさんありました」
——つまり、タイトル“透明”とは罪が赦されて浄化された…みたいなイメージなんですか？
「そうですね。詳しく話すとネタバレになりますが、まさに“透明になる”っていう言い方がぴったりなストーリーなんです」
——個人的には《一瞬の永遠》という歌詞が印象的でした。そういった瞬間ってあるよなと。
「その一瞬のために生きてるんですよ、この物語のキャラクターは。そういったことを加味しつつ、真綾さんが本当にたくさんいろんなことを考えてくださって。歌詞が出来上がった際にも、“宮野くんが宮野くんとして歌った時に、ファンのみんなに届くような歌でもありたい”と強く言ってくださったんです。要是映画のストーリーと同時に、このコロナ禍で制作されるものという楽曲の立場を考え、“この先どうなるか本当に分からないけれど、諦めずに進んでいく”っていう決意と、歌詞の最後にあるように《こんな自由が待ってるなんて》と歌える日が必ず来るんだという希望を、この歌に込めてくださったんです。だから、この歌詞を初めて見て真っ先に思い浮かんだのが、自分がコンサート会場で歌っている姿でした。実際に映画の苦しい世界観と、現状の苦しさが重なるところが非常に多くて…。僕は今、足掻きながらエンターテインメントをやっている、そこで限られたものを届けられるものもあるとはいえ、やっぱりステージに立って満員の客席の前で歌い、大歓声を浴びて喜びを分かち合う瞬間は久しく見てないと思います。だから、それが叶ったら、まさに《こんな自由が待ってるなんて》っていう気持ちで歌えるでしょうし、今はその瞬間への想いがどんどん募っているんですね」
——そして、昨年12月に行なわれたス

タジオライブの Blu-ray & DVD も同時発売されますが、素晴らしいエンターティナーぶりに釘づけになりました。いつになくラフな感じで幕開けたかと思いきや、曲が始まって宮野さんがアップになった瞬間、“えっ、ここはアリーナ？”“みたいな。「こんなに照明を仕込んでんの？ カメラ多くない？”って(笑)」
——いや、一番驚いたのは、宮野さんのモードチェンジですよ。素からいきなりアーティストモードに切り替わって、この方は自宅でもアリーナやドームと同じテンションで歌えるのではないかと。「言わず、言わず！」(笑) ただ、緩いライブかなと思わせて、いきなりカメラ視線になるっていうミスリードは、今回あえて狙ったところではありますね。そういった観せ方もスタジオライブなら演出になるっていう、いわば状況を逆に取ったかたちです。初めてのスタジオライブということもあり、そういった発見は多かったですね。全部が演出になるんだと」
——「LIFE」曲中のロングトーンから急に黙り込んで感極まっているのかと思ったら、想定外にコミカルなトークが始まるというのもうまいなと。
「いや、あれは単純に笑ってほしかったんですねですよ(笑)。ただ、配信だと観ている人のレスポンスを直に感じられないから間を長く取りすぎてください、あれ？ マモ、本当に泣いた？」と言われてしまったので、あれは失敗したかもしれないです(笑)」
——いえいえ、それも結果的には好演出ですよ。スタジオライブにもかかわらず、ダンサー陣のパフォーマンスがしっかり入っていたのも想定外でした。
「苦肉の策を苦肉の策にたくないという想いがあり、6人もいるダンサーを狭いスタジオには入れられないので、別撮りで参加できる方法を映像監督が考えてくださいました。『Follow Me Now』では生のマモとコラボして踊らせてみたりとか、すごく頑張ってくれましたね。そもそも最初は初のスタジオライブということもあっ

て、セッションライブくらいの空気感でやれたらいいかなと考えていたんですよ。ただ、楽曲をリリースしたもののコロナ禍で披露できていない曲をセットリストに組み込んでみたら、意外と新曲祭りになってしまっ！(笑) いわゆる手動の音だけじゃ追いつかない部分もたくさんあったのでマニピュレーターさんを入れて音を作っていたら、結構フルライブに近いくらいの音使いになったんです。その音作りも今回はスタジオだからみんなで一緒に作っていったし、ギリギリに“やっぱり面白さは出したほうがいいよね！”ってみんなに無理を言ってアドリブのコーナーを入れたりもして。手探りであったけど、結果的にすごくエンタメ力の強いものになったと思います」

取材：清水素子



「透明」



Single 5/26 Release
KING RECORDS
KICM-2087
¥1,430(税込)

『MAMORU MIYANO STUDIO LIVE ～STREAMING!～』



Blu-ray & DVD
5/26 Release
KING RECORDS
[Blu-ray]
KIXM-455
¥6,050(税込)
[DVD]
KIBM-875
¥6,050(税込)

music UP's a!

今月のお題：「今、気になっている人」

■大貫勇輔

「『富豪刑事 Balance:UNLIMITED』というアニメで大貫さんが演じるキャラのパディ役で共演させていただいたのが最初だったのですが、本当に素晴らしい方で、その時がアニメ初挑戦だったから分らないこと多いと思うんですけど、現場での探究心というか、吸収率がすごいんですよ。ちょっとした台詞の言い回しから学ぼうとしている姿勢もうかがえて、とても勉強熱心で。ご本人のマインドのせいもあるのか、とにかく前向きだし、すごく真剣に取り組んでいらっしゃるんですね。そして、僕のことを気に入ってくださっていて…宮野真守の LINE スタンプも貰ってくれていて、メッセージを送ると僕の顔のスタンプが返ってくるんですよ！(笑) そうやって仲良くさせてもらっているのに、この状況下なんでもまだ一回も一緒に飲みに行けてなくて。ずっと“宮野さんと飲みに行きたいです”っていうラブコールを受けているので(笑)、僕自身も大貫さんのことをもっと知りたいと思っています。僕が以前に出演していたミュージカル役を大貫さんが今度演じられるという不思議な縁もあり、いろんな共通点もあるのですが、なかなかプライベートでは会える機会がないんです。なので、まあお仕事と一緒にしたり、ぜひ飲みに行きたいと思っています」

Reol

Installation Concert 2021 音沙汰

東京 6.26 (土) OPEN 17:00 / START 18:00
LINE CUBE SHIBUYA (渋谷公会堂)

大阪 6.27 (日) OPEN 17:00 / START 18:00
フェニーチェ堺

5/29(土)10:00よりチケット一般発売開始! 詳細は [ローチケ Reol](#) [検索](#)

ネクライトーキー FREAKリリースツアー 「ゴゴートーキーズ!2021」

全23公演の
全国ツアー
開催決定!

詳細はこちら



5/29(土)10:00よりチケット一般発売開始! 詳細は [ローチケ ネクライトーキー](#) [検索](#)

THE BEAT GARDEN

The Beat Garden
one man live tour 2021
「Afterglow」

5.22 (土) 1部 15:30
2部 18:30
兵庫 神戸 太陽と虎

5.29 (土) 1部 15:30
2部 18:30
埼玉 西川口Hearts

6.05 (土) 1部 15:30
2部 18:30
愛知 eLL.FITSALL

6.12 (土) 1部 15:30
2部 18:30
大阪 梅田 shangri-ra

6.19 (土) 1部 15:30
2部 18:30
宮城 仙台MACANA

6.26 (土) 1部 15:30
2部 18:30
長野ライブハウス

7.03 (土) 1部 15:30
2部 18:30
岡山 LIVEHOUSE image

7.10 (土) 1部 15:30
2部 18:30
静岡 浜松FORCE

7.17 (土) 1部 15:30
2部 18:30
香川 高松DIME

7.24 (土) 1部 15:30
2部 18:30
福岡 DRUM Be-1

8.07 (土) 1部 16:00
2部 19:00
東京 LIQUIDROOM

Lencore会員抽選先行 5/20(木) 23:59まで受付中! プレリクエスト抽選先行 5/23(日) 23:59まで受付中!

※受付対象:大阪/宮城/長野/岡山公演

公演の詳細、その他公演の先行、一般発売情報は

[ローチケ THE BEAT GARDEN](#) [検索](#)

公演・チケットの詳細は
ローチケ(webサイト)にて!

<https://l-tike.com/>

※公演が中止・延期になる可能性がありますので詳細は各公演の公式HPをご確認ください。

ローチケ
LAWSON TICKET

CONTENTS

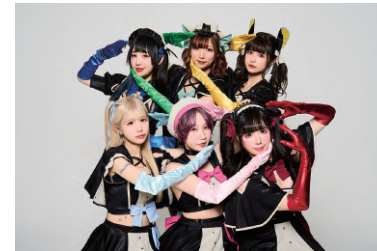
music UP's Vol.199 2021.5.20

■ Interview

music UP's Q! ... 『今、気になっている人』



宮野真守



バンドじゃないもん! MAXX NAKAYOSHI

- | | |
|--------------------------|------------------------------|
| 0 宮野真守 | 24 KOGREY DONUTS |
| 4 ヒトリエ | 40 港町ざんざろうとバスエのキャバレーズ |
| 6 angela | 42 GOD & SIZUKU |
| 8 ウォルビスカーター | 44 大柴広己 |
| 10 MORISAKI WIN | 46 Baby Blue |
| 12 前島麻由 | 48 B.O.L.T |
| 14 小松未可子 | 50 she9 |
| 16 内田 彩 | 52 Dizzy Sunfist |
| 18 PERSONZ | 54 ネクライトーキー |
| 20 THE COLLECTORS | 56 バンドじゃないもん! MAXX NAKAYOSHI |
| 22 the band apart(naked) | |

- 28 Pop'n'Roll Special Photo 城木玲亜 (イケてるハーツ)
- 30 『MUSIC SUPPORTERS』 愛はズボン 東京初期衝動 Star T Rat りゅうと
- 32 Editor's Talk Session 『姫路Beta出身のバンドたちによる支援コンビ盤「VERSUS FATE」』
- 34 Editor's Note & Listener's Voice & 読者プレゼント
- 37 全日本歌謡情報センター編集長 仲村 瞳の『スターの証明』 中森明菜
- 38 『Key Person』 松川ケイスケ (LACCO TOWER)

※ music UP's は毎月 20 日発行です(地域により多少遅れる場合があります)。全国 300 カ所以上のライブハウス・新屋堂・TOWER RECORDS・HMV・disk union・音楽スタジオなどで配布しています。配布店舗は music UP's の WEB をご覧ください。

© ジャパンミュージックネットワーク株式会社
本誌に掲載している記事、写真等の無断複写、複製、転載を禁じます。



■発行
ジャパンミュージックネットワーク株式会社
〒107-0062

東京都港区南青山 6-10-12 フェイス南青山
TEL: 03-6712-6490

※広告に関するお問い合わせ
TEL: 03-6712-6579 (music UP's)

【発行人】
今井 亮克
【JMN 統括編集長】
扇丸 哲也

【編集】
■ music UP's / OKMusic

・編集長
石田博嗣
・スタッフ
千々和 香苗 岩田知大

■ BARKS
・編集長
梶原 晴夫
・スタッフ
森本 智 星出 智敬
宮川直子 堺 涼子 服部 啓子
高橋ひとみ 井上 舞 安藤 沙耶佳

■ Pop'n'Roll
・編集長
鈴木 健也
・スタッフ
鶴岡 舞

■ 全日本歌謡情報センター
・編集長
仲村 瞳
・スタッフ
西角 郁哉 本多 秀

【営業】
小田 新

【WEB】
田中 功雄 瀬田 拓己 上月 悠平

【ライター】
阿部 美香 石川 真男 一条 浩太
金澤 隆志 キャベトンコ 黒田 隆太郎
齊藤 恵 清水 素子 竹内 美保
田中 隆信 土屋 恵介 フジジュン
帆刈 智之 村上 孝之 山口 智男

吉田 可奈 土内 昇

【印刷】
昭栄印刷株式会社

music UP's サイト
<http://music-ups.jp>



ヒトリエ

“3人で初めて作った曲”ということに大事にしたいと思った

3人体制になって初のアルバム『REAMP』から4カ月。続くニューシングル「3分29秒」の表題曲は、TVアニメ『86-エイティシックス-』のOPテーマとして書き下ろされた。“3分29秒”というタイトルに込めた想いも含め、制作の舞台裏を語ってもらった。

—ひょっとしたらはと思うのですが、“3分29秒”というタイトルの由来から教えていただけないでしょうか？

シノダ: ああ、これはですね…単純に曲の長さなんです。曲が3分29秒で終わるからって(笑)。

—やはりそうですね(笑)。

シノダ: 実を言うとこの曲は、今年2月にリリースした『REAMP』というアルバムをレコーディングする前には録り終えていて、

—えっ、そうだったんですか!?

シノダ: この3人で初めて作って、レコーディングした曲なんです。3人で初めてパッケージングした音源の長さが3分29秒だったから、それをタイトルにしようと思って。サブスクリプションによっては3分30秒とか、31秒とかになるんですけど、

—私のプレイヤーでは3分31秒でした(笑)。

シノダ: スタッフから“それでも大丈夫?”と訊かれたんですけど、“それでもいいから、これでいかせてください”って。

—つまり、その3分29秒という時間が3人にとってとても大事だったわけですね。

シノダ: 僕はそう考えています。“3人で初めて作った曲”ということに大事にしたいと思いました。

—イガラシさんとゆーまおさんは、この曲を最初に聴いた時はどう感じたのでしょうか？

イガラシ: めちゃくちゃシノダっぽいと思いました。

ゆーまお: 俺もそう思いました。

イガラシ: ヒトリエ以前にシノダが書いていた曲を聴いたことがあって、久しぶりにそれを彷彿させる“シノダ全開”みたいな曲を新曲として聴いたから、懐かしさもある

りつつ、すごく新鮮でした。

ゆーまお: Bメロにすごくシノダを感じるんです。

—そういうふうと言われて、シノダさんはいかがですか？

シノダ: そういうことなんですね(笑)。でも、ヒトリエの曲として世に出さなきゃいけないので、“ヒトリエみたいなものってどういうことなのかな?”というのが結構考えましたよ。

ゆーまお: あっ、ごめん! そこまで考えてくれたのにシノダっぽいと言って(笑)。

シノダ: 一蹴したよね(笑)。でも、そういうことでしょ。どれだけ俺が頭の中でこねくり回しても、結局出てくるものって、

—ヒトリエらしさを考えて変えたり加えたりした部分があるのですか？

シノダ: 速い曲を作るのがあまり得意じゃないんです。緩い曲のほうがバンバンで

きるんで、こういうハードな曲を作る時って“速い8ビートのロックって作る難しさがあるな”って思うんです。だから、そこを頑張ったというか、どうやらカッコ良くなるのが悩んだところがありますね。憧れみたいなものがすごくあるから構えちゃうんですよ。8ビートの速い曲こそがロックの一番の正義だと思っていて、結構信仰している節があって…だからこそ、作るならカッコ良いものを作らなきゃいけないっていう。レジェンドと言われる曲たちに並ぶようなものを作らなきゃいけない。ビビってるんでしょうね。そこに立ち向かうみたいな姿勢になっちゃうんです。

—そんな「3分29秒」に対して、イガラシさんとゆーまおさんは、どんなふうアプローチしたのでしょうか？

イガラシ: ベースはシノダからもらったデモに対して自由に弾き直しました。かなり変えたよね？

シノダ: 要所要所だね。

イガラシ: 自由にして良さそうなところは自由に弾いて、キメはデモを生かして…みたいにやりましたけど、これまでと地続きのアレンジを加えたいと思ったから、wowakaとやってきた中でよく使ってきたアプローチを足したんです。

ゆーまお: 僕はイガラシとは逆で、シノダが作ってきたデモをトレースしました。シノダは器用にドラムやベースのフレーズも作れる人なんです。最初は崩してもいいのかなと思ったんですけど、シノダが作ったデモのフレーズを叩いてみた時、そのままやってほしいんだろなってなんとなく分かったんです。キメがすごく多いってこともあるんですけど、そのキメも含めフレーズが決め打ちとして曲に組み込まれていることが分かったので、これはそのままやろうと思いました。

—「3分29秒」を作った経験がその後、『REAMP』を作る時に活かされたわけですね？

シノダ: そうですね。「3分29秒」がほん

とにスタートだったので。だから、サウンドメイクを考える上で、メンバーとどういディスカッションをすればいいのかも含め、僕がディレクションしなきゃいけない。もちろん「3分29秒」で全てを学べたわけではないですけど、『REAMP』の制作ではかなり役に立ちました。「3分29秒」をいったんかましておいて、マジで良かったと思います。

ゆーまお: で、カップリングの「Milk Tablet」は最近録ったんですよ。

—そうなんですか。ということは…

ゆーまお: 3人になって最初に録った曲とアルバムを挟んで一番最近録った曲が入っているシングルになったので、個人的には面白いと思っています。

—「3分29秒」の歌詞はTVアニメの世界観にどれくらい寄り添っているのですか？

シノダ: ほぼ100パーセントですね。原作を読んで書いたんですけど、作品の世界って本当に深刻なものなんです。ちょっとやそっとじゃ、もはや覆りようのない現実！に立ち向かわなきゃいけない主人公たちの状況が前提としてあって、その覆りようのない現実！は僕らには身の覚えがあるものなので、そこをシンクロさせながら書きました。

—《安心しなよ、／僕達みんな終わるまで／やることは同じさ》という歌詞が、この曲のパンチラインなのかと思ったのですが。

シノダ: 主人公が考えていることでもあるでしょうし、僕らもこうだなって。曲を作ってる時やレコーディングスタジオに入った時、僕らがやっていくことは何も変わらないって思ってたんです。世の中的には新型コロナウイルスが蔓延してたり、そのせいでライブができなくなったり、僕たちも3人体制になってしまったりとか、いろいろなことが重なってますけど、それでもバンドとしてやっていくべきことは何も変わらない。レコーディングスタジオに入った時、バ

ンドとしてこれからもこうやってやっていくんだなと痛感したんです。

—それは大袈裟な言葉になっちゃいますけど、ヒトリエをこの3人で続けていくという覚悟、決意と言ってもいいものですか？

シノダ: どうなんだろうね？ 覚悟とか、決意とかって言葉はあんまりなあ…“ここまでやっておいて、まだ断言できないのか!?”って話ではあるんですけど(苦笑)。

ゆーまお: でも、止まるつもりはないってことだね。

シノダ: ああ、そうだね。

イガラシ: ちゃんと達観している感じが、俺はしましたよ。もはや事実として受け止めているというか、演奏をやめられるわけはないと思うんです。だってね、一年ライブができなかっただけであれだけ具合が悪くなっちゃうんだから(笑)。この歌詞は純粋な事実として、俺にはかなり響きましたね。

取材: 山口智男

okmusic

このインタビューの全文を公開中!▶

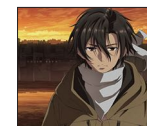


「3分29秒」

Single 6/2 Release
非日常レコース
/ Sony Music Associated Records

【完全限定生産盤】
(CD+Blu-ray)
AICL-4064 ~ 5
¥6,050(税込)

【期間生産限定盤】
(CD + Blu-ray)
AICL-4066 ~ 7
¥1,980(税込)
※描き下ろしイラスト
デジパック仕様



music UP's a!

今月のお題: 「今、気になっている人」

■シノダ…山あまね

「サブスクで知ったんですけど、宅録でひとりで活動しているアーティストです。尖った音楽をやっている、構成というサウンドが一度聴いたら離れないんですよ。どうやって作ってるのか分からないくらいだから、そこにも惹かれてしまって、ぜひ彼の音楽に触れてみたいですね」

■イガラシ…倉敷保雄

「サッカーのスペインリーグを主に担当しているフリーアナウンサーで、この人の実況には芸術を感じますね。国によって実況の色が違うんですけど、都市の特色を織り交ぜながら話なんです。スペインのメディアはアーティストックな表現が多い中、日本人でその感覚を表現できるのは本当にすごい!」

■ゆーまお…ミルクティー飲みたい

「都市伝説系 YouTuber の方です。本も出しているくらい有名で、寝る時に動画を観ています。寝れなくなるんじゃないかと思うかもしれませんが、意外と同じ意見の人が多いんですよ(笑)。彼はロックが好きみたいで、動画では結構ロックバンドのTシャツを着ていて。いつかヒトリエのTシャツも着てくれないかな?」

L → R イガラシ(Ba)、シノダ(Vo & Gu)、ゆーまお(Dr)



L → R atsuko (Vo), KATSU (Key & Gu)

angela

どんな“バトル”の中でも、 やっぱり自分の“メッセージ”を発信したい

約3年半振りとなるアルバム『Battle & Message』。バトル属性のangelaが新型コロナウイルスと戦う人類に想いを馳せ、メッセージを注ぎ込んだ全12曲は、遠藤正明とデュエットを果たした表題曲を筆頭に音楽も物語もバラエティーに満ちている。人間の表と裏を映した哲学すらエンタメに昇華する彼らの夢と希望は途方もなく大きい。

——今回のangelaの楽曲には戦いとメッセージが詰まっていると感じました。“Battle & Message”というタイトルは、まさにぴったりだなと。

atsuko: このタイトルはコロナ禍真っ盛りの頃に私が提案させていただいたんですけど、そもそも我々はバトル属性なんですよ。戦いのアニメの曲を作る機会が多いですし、おまけに今は誰もがコロナと戦ってるじゃないですか。ライブができない、劇場に立てない状況になっても、みんなSNSで自分の歌や作品をアップしたり、YouTubeチャンネルを開設したりしているのを見て、やっぱり何か物を作る人はどんな手を使っても自身のメッセージを発信したいんだと。それは我々も一緒だっていう複合的な想いから生まれ

たのが、“Battle & Message”という言葉なんですよ。そういったメッセージを受け取る場のひとつということで、ジャケットは映画館で撮らせてもらいました。

——アーティスト、クリエイターにとって、“伝えたい、吐き出したい”という欲求は全ての源ですよね。

KATSU: 今回のアルバムも当初は昨年の12月にリリースされる予定だったのが、コロナ禍で延期になり、このタイトルが出てきて。それに伴って“自分たちが伝えたいメッセージって何だろう？”っていうところから曲も派生していったんですよ。

——しかし、アルバムの幕開けを飾る表題曲がデュエット曲というのは予想外でした。どういう経緯でJAM Projectの遠藤正明さんと歌われることに？

atsuko: 私、ずっと前からデュエット曲をやりたいかったです！デュエットの根本って男女の歌だから、やっぱり男感と女感をブツッと出したい。その点、遠藤さんって男の象徴みたいな感じじゃないですか。反面すごく色気があって、過去にイベントやテレビ番組と一緒に歌った時も、すごく楽しくてシビれたんですよ。だから、絶対に遠藤さんと歌いたかったんです。簡単に言うと、令和の「3年目の浮気」が作りたかったんですよ。40代以上の世代にしか伝わらないと思いますけど(笑)。

——そんな表題曲と対照的なのが、同じくアルバムのために書き下ろされた「夢と希望に殺される」ですけど、これは…かなり痛いところを突いた曲ですね。

atsuko: プロデューサーからの「ものす

ごく暗い曲を作ってはどうか？」という、ざっくりとしたオーダーから生まれた曲なんです。私、“夢を持って”とか“希望を持って頑張れ”みたいなメッセージが本当に正しいのか分かんないなって思うことが何度もあるんですね。自分を振り返ってみても、“歌手になる”という現実味の無い夢を追いかけてきたおかげで傷ついたことがたくさんあった。よく専門学校のパンフレットとかに“夢は叶う！”みたいなキャッチコピーが書いてありますけど、専門学校に行ってプロのミュージシャンになれる人ってほとんどいないじゃないですか。でも、そういうキャッチコピーを掲げてくるわけで。本来、私もそう言わなきゃいけない立場だと分かってはいるんですよ。でも、人には表と裏があって、その両方ともが真実なんですよ。なので、この曲ではそんな裏の部分を曝け出したかったんです。

——叶うとは限らない夢や希望を追いかけて、追いつめられていく心情を語った歌詞が本当に生々しいのですが、夢を叶えたatsukoさんがそれを歌っているというのが若干不思議に感じなくもなく…

atsuko: いや、叶ってないんですよ。客観的に見れば“十分に叶ってるじゃん！”って言われるのは当然だろうけど、自分の思い描いていたところには辿り着けてないし。“それは我々の曲のせいなのか？”若くないからいけないのか？”と悩んでしまう時もある、歌手になりたいなんて夢を持っていないけれど、そんなことは考えなくても済んだのと思ってしまっただけです。

KATSU: ライヴの規模で言うとな、さいたまスーパーアリーナが目標です！”って何年も言っているのに、まだ全然届かない場所にいるし。だから、僕は、これは自分の歌だととらえていたんで、傍からは“夢を叶えた人”に見えてることに初めて気づきました。だから、ひとりの根柢な少年の嘆きを歌ってる「夢と希望に殺される」を、僕は自分自身の曲だと思えないんですよ。

——「Battle & Message」と「夢と希望に殺される」以外にもアルバムのために3曲の新作が書き下ろされていますが、アラビアンな「I'll be...」に陽気な「パーティーチューン「Do it!」、和テイストの「君想う」と、見事に世界観がバラバラですね。

atsuko: 相変わらず統一感がなくて、ファンになりづらいという(笑)。すでに出ているシングル曲や『革命機ヴァルブレイヴ』のバチンコ用の楽曲が味付けが濃くて、背脂系のラーメンみたいだったから、もうちょっとあっさりした塩味のラーメンみたいな曲が欲しかったんですよ。そういう視点で残りの新曲を作っていて、「I'll be...」に関しては私が昔からやりたかったワンコードを実現しました！KATSUさんはなるべくやりたくなかったみたいですよ(笑)。

KATSU: ひとつしかコードを使えないと、メロディー展開に限界がある分、アレンジの技量が問われるんですよ。今回のタイトル通り、もう自分との戦いで。ヴォーカルを26本録った「君想う」でも、すでに録った自分の歌を聴きながら2本目を録って、3本目を録って…っていう工程に、“こんなやったことない。殺される！”って思いました。

atsuko: あははは！ここ数年はアルバムに和風テイストなものを入れるのが恒例になっていて、和風の曲って私の声質にも合うんですけど、普通に歌ってみたら民謡みたいになっちゃったんですよ。それだとしつくりきすぎて面白みがないから、とにかく歌をいっぱい重ねてみようってことであったんですよ。それでメインの歌だけで10本、上下のハモリで8本ずつ重ねて、声というよりは弦楽器が10本まとめて鳴ってるみたいな聴こえ方にできたらしいのと、ただ、プレスの位置とかコブシとかが全部揃ってないと濁るので、そういった細かいところのジャッジは私も難しかったです。

——「君想う」に続く「THE BEYOND」での締め括りも、まさに「Battle & Message」だなと、『蒼穹のファフナー』というバトルアニメのオープニング曲でありつつ、『お前が信じたそこに居る「今」を照らせ』というメッセージは、特に今の時代にはグッと響くんです。

KATSU: おー、カッコ良い！atsuko: カッコ良いよね！…って、私が書いたんだって(笑)。最初は「君想う」がラストだったんですけど、「君想う」から「THE BEYOND」の流れのほうが、歌い出しが民謡チックできれいだから逆にしようって、KATSUさんが言い出したんです。

KATSU: 正直な話、次のアルバムをCDという形態で出せるかどうかなんて、今の時代は分からないじゃないですか。前回のアルバム「Beyond」が2017年の末だったから、次が3年後になるとして、もうCDというパッケージは存在してないかもしれない。曲順だったり、曲と曲の間みたいなものを味わえるのはCDだけだから、今回は曲順を決めるのにめちゃくちゃ時間をかけて、いろんな並べ方をしてみました。そうすると「君想う」から「THE BEYOND」の流れは崩したくないし、同じように「乙女のルートはひとつじゃない！」から「Do it!」のパーティー感も変えられない。そういうのを積み上げていって、最後はやっぱり『蒼穹のファフナー』で締めるのもangelaっぽくてありがた。

取材：清水素子



このインタビューの全文を公開中!!▶



『Battle & Message』



Album 5/19 Release
KING RECORDS

【初回限定盤】
(CD+Blu-ray)
KICS-93995
¥4,070(税込)
※外箱付き仕様



【通常盤】(CD)
KICS-3995
¥3,300(税込)

music UP's Q!

今月のお題:「今、気になっている人」

■atsuko…愛美

「レベルメイトなんですけど、まだお会いしたことがなくて。SNS上でフォローしているから活躍はいつも拝見しているんですけど、とても元気なイメージがあるんで、会えたらいろいろ話してみたいなって思っています。いつ会えるかな? 楽しみですな!」

■KATSU…庵野秀明

「ずっと気になる人ではあるんですけど、映画「シン・エヴァンゲリオン劇場版Ⅲ」を観てからより一層、庵野監督の頭の中を知りたくなっちゃいました。「エヴァンゲリオン」はどこまで彼の構想なのか? 僕はそれを紐解ける日が来るのか? 本当に何年か気になりますよな!」

ウォルピスカーター

いろんなジャンル、さまざまな色…聴いて飽きさせない構成になっている

圧巻のハイトーンヴォイスがネット上で話題の男性ヴォーカリスト、人呼んで“高音出したい系男子”ことウォルピスカーターが 1st EP『Overseas Highway』を完成させた。TV アニメ『デジモンアドベンチャー:』タイアップ曲他、ジャジーかつファンキーなナンバーや、ダークな曲、壮大なバラードまで、彼の新たな魅力が詰まった一枚に仕上がっている。

——今作は初の EP ということでフルアルバムとはまた違った臨み方だったのではなかったかと想像しますが、実際のところはどんな気持ちだったのでしょうか？
「今回の EP はちょっと特殊な制作だったというか…。僕は普段、EP にしてもアルバムにしても“作りますよ”という企画があってから録り始めたり、制作が始まったりするんです。今回はもともとどこにもパッケージ化されていない楽曲が 2 曲ほどあって、“それらの楽曲を出すタイミングをどうしようか？”と話し合った時に、“じゃあ、その楽曲と一緒にまとめて、新曲も何曲か足して EP として作っちゃおうよ”という企画で動き出したんです」
——録音済みの楽曲に新曲を足して EP にしたと。
「そうですね。TV アニメ『デジモンアドベ

ンチャー:』のエンディングテーマを担当させていただけるお話があって、当初はその一曲のシングルを出すという選択肢もあったんです。でも、それと同時にまだ音源化していない曲もあるということで、シングルから EP にバージョンアップさせたというかたちです」
——今回新たに作った曲というのは？
「3 曲目の「シ・シ・シ」と、5 曲目の「シオン」ですね。「オーバーシーズ・ハイウェイ」はアニメの放送スケジュールもあったから結構早い段階で出来上がっていて、なので、今回はスケジュール的には“すごく苦しかったな”みたいなのがあんまりなかったというか、納期も余裕を持って…でしたし、いつもみたく体調を崩すわけでもなく(笑)」
——なるほど。その「オーバーシーズ・ハ

イウェイ」は社長(ウォルピスカーターの呼称)がおっしゃられた通り、『デジモンアドベンチャー:』のエンディングテーマとなっているわけですが、これに関してはどんなふうにとらえたのでしょうか？
「誰もが知っている TV アニメというか、僕はギリギリ世代じゃなく、僕よりちょっと上くらいの人たちが子供の頃にどっぴり…という世代だと思うんですよ。そんな僕でもアニメを観たことがあって、ゲームもやったことがあるタイトルなので、“僕で大丈夫かな？”とは思いましたね」
——歌詞先行で作られたそうですね。
「そうですね。僕と作曲してくれた Orangestar さんとの共作になるんですけど、Orangestar さんから“先に歌詞をいただきたい”という提案をいただいて、というのも、僕は曲より先に歌詞を作り始めた

ことが今まではなかったので」

——基本的には曲先行ですか？

「はい。メロディーもあって、譜割りがある程度決まった状態で歌詞を書くことが多かったんですよ。だから、“どうしたものかな？”というか、“歌詞が先になると譜割りのこととかをどう考えたらいいんだろう？”と思って。しかも、普段聴いている Orangestar さんの歌詞には作風があって、キャラクターが特に強く出る方なので、それが僕の歌詞で崩れるのも嫌だったので、“何なら思い切り変えてくださいな”っていうのを前提に小説を書いたんです」

——小説…ですか？

「とは言っても、原稿用紙一枚分、400 字くらいの短編小説みたいなものなんですけど。それをもとにさらに歌詞を書いて、“僕はこういうプロットで歌詞を書きましたけど、好きに使ってください！ どう変えてもらっても大丈夫です！”と伝えました」
——でも、社長的にもこの歌詞は納得されていらっしゃるわけでしょうか？

「もうびっくりだと思いましたが。それが Orangestar さんらしさだと思ったので。あと、めちゃくちゃキーも高くて、最初はワンコーラスでデモをもらって、それも十分高かったんですけど、“頑張れば何とかできるかな？”とは思っていたのが、フル尺はそこから 1 オクターブくらい上がっているような気がして(笑)。でも、それは僕を信頼してくれているのになって嬉しいさがありました。それも込みで“もうばっかりです！ 最高です！ (キーが高くて) ありがとうございます！”と」

——このキーの高さが「オーバーシーズ・ハイウェイ」のさわやかさに結びついているところは圧倒的にありますよね。
「やっぱり高ければ高いほど、さわやかに聴こえると思います(笑)」

——この歌詞の前向きさは社長に備わっていたものと想像していましたが、お話をうかがったところでは Orangestar さんから前向きさを引き出してもらったという感じなんですね。

「僕ひとりでは無理でした。この清らかさというかパワフルさみたいなものは、Orangestar さんと一緒に作ったからこそ出してもらえたと思います」

——そういう意味では、ウォルピスカーターとして新たなところへ来た感じでもあるんですね？

「もちろんそうですね。他の人と一緒に作る方法が今回でまた増えたという。それもポジティブですけど、“またひとつ自分のキャパシティが広がったな”という気持ちはあります」

——「口なしの黒百合」はメロディーも歌詞もダークなのですが、もともと社長はこういうタイプがお好きなんですか？

「好きです。なので、かなり自然体ですね(笑)」

——この曲にはどんなモチーフがあったんですか？

「ざっくりとしたテーマだけをまず決めて…「口なしの黒百合」は“すごいヤンデレのストーカー”というテーマで(笑)。ちょっと愛のかたが歪んでいる女性をテーマに、それっぽいキャラクターを検索して。そういうキャラクターって悪役だったとか、漫画だったり、いろんな作品にちょいちょい出てくるじゃないですか。それを参考にしてどんどん自分の中で架空のヤバいキャラクターを作り上げて(笑)。“このキャラクターが好きになる男になってきこうだよな”って組み上げましたね」

——「止まない雨って言わないで」はリズムが少しラテンっぽい箇所もあって、聴いて楽しいポップなナンバーですね。

「僕がやっている“嘘 CM”の企画で“嘘タイアップ曲”として作った曲なんですよ。僕の名前と似ている飲み物が偶然にも存在するんで(笑)、その CM を参考にそれっぽい青春 CM を毎年作っている企画がありまして、嘘のタイアップ曲…だから、僕っぽさみたいなものは一切度外視して、青春 CM っぽさを僕と作曲の Kent Kakitsubata さんとふたりで作り上げました」

——最後の「シオン」。社長は以前のインタビューで“バラードは苦手”とおっしゃっていましたが、この曲はバラードであり、しかもかなり迫力のあるナンバーですよ。『すごく大変でした。バラードは好きなんですけど、求められる技術力が高いので勝手に僕の中のハードルがかなり上がっちゃって、録音に時間がかかってしまうんですよ。そうなってくると、だんだんと自信を失ってくるし、苦手意識もありましたけど、この「シオン」を書いてくれた郡 陽介さんのメロディーがすごくいいので、一回寝て起きたらまた歌いたくなっているというか、“早く録りたいな”って気持ちになる曲でしたね」

——そういう意味では、今作は「オーバーシーズ・ハイウェイ」のインストを除くと 5 曲入りという少ない曲数の作品ではあるものの、ウォルピスカーターの新たな面を見せている音源ということが言えるのでは？

「それは間違いないと思います。いろんなジャンル、さまざまな色というか、聴いて飽きさせない構成になっているので、自分で通して聴いても曲数が少ないとは思わなかったです」

——バラエティー豊かで濃いという。「濃いです！」

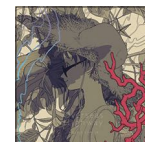
取材：帆刈智之



このインタビューの全文を公開中!!▶



『Overseas Highway』



EP 5/26 Release
日本コロムビア
COCOA-41481
¥2,200 (税込)

music UP's α!

今月のお題:「今、気になっている人」

■伊原大貴

「恋するワンピース」という「ONE PIECE」のスピノフギャグ漫画を描かれているんですけど、「ONE PIECE」とは全然関係のない内容なんです。麦わらの一味のキャラクターも出てこないし。でも、アングラ的な人気があって、「ONE PIECE」ファンにもギリギリ許されているみたいな状況で(笑)。「ジャンプ+」と「ワンピース.com」で連載が続いているんです。それが破天荒でいいなと思って、すごく気になっているんです。昨年の夏くらいかな？「ONE PIECE」の新刊が出た時に…僕、電子書籍で読んでるんで、関連書籍に「恋するワンピース」が出てきたんですよ。“何だこれは？”と思って見てみたら「ONE PIECE」と少しは関連してるとはいえ、現代の高校生の話だし、“大丈夫なのか？”と思って調べてみたら公式で、しかも「創造主・尾田栄一郎先生も絶賛！」っていうキャッチもあって、これはすごいなと。だって、あの「ONE PIECE」を題材にしているわけですからね。大御所の作家さんでも気が引けるような題材だと思うんですよ。それを突っきってやってるからこそ許されてるんでしょうね。参考にしたいです(笑)」



MORISAKI WIN

僕のパーソナルに近い部分が漏れ出したアルバム

昨年7月にメジャーデビューした MORISAKI WIN の1st アルバム『Flight』が完成！ 出発感あふれるアシッドジャズチューン「Fly with me」、先行配信された初のラブソング「Love in the Stars - 星が巡り逢う夜に-」、自身が歌詞やトラックメイクを手がけた「Midnight」などクオリティーの高い楽曲が揃っている。WIN の新たな一歩目が刻まれた作品について語ってもらった。



——まずは、昨年7月のメジャーデビュー以降の話を聞かせてください。
「音楽をやりながら役者をやっていたんですけど、まずメジャーデビューできたことに本当に感謝してます。初ライブを配信で行なって(2020年8月29日の『MORISAKI WIN SCREEN LIVE ~ Parade to the WonderLand ~』)、そこでやっとスタートが切れたって気持ちです」
——その配信ライブの感想は？
「純粋に楽しかったです。正直言ってお客さんがいない物足りなさはありましたけど、やりたいことも見つかりましたし、次が見えるライブだったと思います。その頃から今

回のアルバム制作に動き始めてたんです」
——今作は時間をかけて制作されたのですね。
「8月から9カ月くらいの期間をかけて作りました。メジャーデビューした最初の頃は右も左も分からず、勢いだけで乗り切ってたところがあったんですが、前作のEP『PARADE』(2020年8月発表)を作って、今後自分がどんなアーティストになっていくか、どんなアルバムを作りたいかがいろいろ見えたんです。本当にこの9カ月は大きな変化の波の中にいる感覚でした」
——完成した1st アルバム『Flight』ですが、どんな作品を目指したのですか？

「まず選曲会議の時に自分が歌いたい曲をファーストインスピレーションで選んで、そこから始めていったんです。最初に「Love in the Stars - 星が巡り逢う夜に-」を仕上げて、それをベースにアルバムを組み立てていきました。アルバム全体のテーマを決める際に、「Love in the Stars - 星が巡り逢う夜に-」も空だし、空や飛行機をテーマにしていこうってなったんです。プラス、夜中に自分がひとりであることとかを入れたものにしてくて。コロナ禍で当たり前が当たり前じゃなくなっちゃった中、これ以上壊れてほしくないし、みんなでお互いに壊し合うのはやめようっていう気持ちがアルバム全体に込め

られています」

——世の中に広くメッセージするというよりも、すごくパーソナルな気持ちを届けたいって感じがしますね。
「それはありますね。『PARADE』にも僕のパーソナルが少し出ていたので、だったらそれを作品にしちゃって感じもありました。ただ、パーソナルすぎるのはちょっと違うので、そこは曲の雰囲気に合わせて物語性を持たせたりしたっていうのはあります」

——では、曲に触れながら話を進めましょう。リード曲の「Fly with me」はアシッドジャズ感がたっぷりのナンバーですね。
「これは宮野弦士さんに作曲していただいて、歌詞はSWEEPさんに僕が好きなエアバスA380について書いてほしいってお願いしたんです。エアバスA380は総2階建ての今一番大きい旅客機で、乗り心地がすごく良く好きなんです」
——まさにWINさんがここから出発するイメージがありますね。歌でこだわった部分は？

「アルバム全体的にそうなんですけど、日本語を崩しながら言葉の切り際を意識してリズム感を出しつつ、ちゃんと伝えたい意味を乗せていくってことをやってます」
——いわゆるブラックミュージック的なノリの歌い方ですね。そして、「Love in the Stars - 星が巡り逢う夜に-」はミディウムテンポの初のラブソングで。

「テンポはゆったりめだけど、その分、言葉を超詰めてるので、歌が速くてめっちゃ難しかったです。曲的には、夜は家にいることが多い時期だからこそ王道的な曲を届けたいってことで作っていったんです。歌詞にある3000マイルは東京からマンマまでの距離なんです。作ってる時はクーデターが起きる前でしたけど、新型コロナウィルスの影響もあって帰れない状況だったんです。なので、自分にとって大事な人…家族だったり、ファンの人なんかもそうですし、会えない人たちに届けたいなって想いで歌いました」

——広い意味でのラブソングであると。「JUST GO」は夜感たっぷりなナンバーですね。

「まさに「JUST GO」は「夜のドライブ」というイメージで選んだ曲なんです。これも歌が大変でした。サビはミックスヴォイス寄りのファルセットなんですけど、すごく抑えながらも張らずにギリギリの地声で歌うっていう。Bメロがすごく難しかったです」

——「START IT OVER」は《孤独な夜の先で また出会える様になって》歌詞がとても響く曲ですね。しかも、音数少ない中での歌の表現が特に際立ってるなど。
「僕が今、何を思ってるのかをもとに作家のEIGOさんが歌詞にしてくださったんですけど、歌詞が本当に最高で！ ただ、レコーディングは難しさを越えて勝負でした(笑)。完成版にはちょっと上モノが入ってますけど、レコーディングの時はギターのみだったんです。リズムに注意して、全力でニュアンスを出しましたね。終わり方も決まらなかったんで、ノリでフェイクしたり」

——それは確かに勝負ですね。ご自身が作曲で参加された「UNBROKEN WORLD」はベース押しのグループ命の曲ですね。
「メロディーのサビを作っただけなんですけど、この曲、超カッコ良い！ サビは自分が作ってるだけあって、自分のツボのメロディーなので歌ってて気持ちいいですよ」

——サーフ感のある「Midnight」は作詞をされてますが。
「実は曲のほうも僕が叩き台を作って、メインのメロディーをSWEEPさんに考えてもらったんです。トラックはビートをSWEEPさんが打って、上モノは僕が全部やりました。トラックに自分の作った音が入るのは初めてなんです。いやー、トラック作りも難しかったです。これも頑張りました！」
——トラックメイクまでチャレンジしたと。この歌詞のテーマは？
「たまに夜中の12時前くらいに、ふと考

えることがあるんです。一日を振り返って“もっとうまく伝えられたらな”とか反省して落ちる時があるんで、それを歌詞にしてみたんです。あえて誰に向けたとかを明確にせずに書いてみました」

——想いを伝える難しさはあるけど、伝える努力は続けたって気持ちが描かれていますね。

「はい！ やっぱ自分の根底には諦めない”っていうのがあるんで。きっとそれがあるから毎日頑張ってるんだって気づけました。それで、最後にちょっと前向きさを出したかったんです」

——なるほど。では、完成したアルバムの今の手応えは？

「ミックスのファイナルで全曲を通して聴いた時、素直にカッコ良いアルバムができたなって思いました。一曲一曲に僕が思ったことが込められているし、ちゃんと自分の血が通ってる感覚がすごくあります」

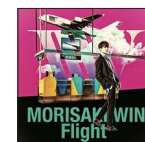
取材：土屋恵介



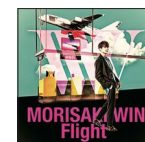
このインタビューの全文を公開中!!▶



『Flight』



Album 5/26 Release
コロムビアインターナショナル
【初回限定盤】(CD+DVD)
COZB-1749 ~ 50
¥5,500(税込)
※ フリンジW ジャケット
特殊パッケージ仕様



【通常盤】(CD)
COCB-54330
¥2,200(税込)

music UP's a!

今月のお題：「今、気になっている人」

■松田聖子

「先日、お仕事を一緒にする機会があったんです。やっぱりレジェンドじゃないですか。僕らの世代からすれば、それこそポップ・ディランみたいなすごい存在だし。だって、普通にクインシー・ジョーンズとレコーディングした時の話をしてくれるんですよ！ “もう20年くらい可愛がってくれて～”って。“会えて良かった”って思いましたね。松田聖子さんを生で見たってだけで、もうすごい財産になりますから(笑)。やさしいし、気さくだし、ご自身も歌われるので同じシンガーとしてすごく気遣ってくれるんです。アドバイスをくれる時も全然上からじゃなく、“ここはこうしたほうがいいんじゃないかと思うんだけど、どう？”とか、僕が“こうしたらどうですかね？”って訊いたら“やってみよう！” “やってみよう！”とか。とても貴重な時間を過ごさせていただきました」



前島麻由

答えが出ないことを動と静で表現した

現在放送中の TV アニメ『究極進化したフルダイブ RPG が現実よりもクソゲーだったら』の OP テーマ「ANSWER」を歌う前島麻由。スピードに乗って次々に英詞が繰り出されるこの曲を歌いこなすのに、彼女は久々にある方法を取ったという。自由自在に歌詞を操れるようになるまでの過程、さらに彼女の信念が反映された歌詞について訊いた。

——「ANSWER」はゴリゴリのロックナンバーですね。今回、こういった楽曲になった背景を教えてくださいませんか？
「私は中高と軽音楽部で、ルーツにロックがあるんです。ソロで出したアルバム『From Dream And You』(2019年9月発表)もベースはロックでしたし。前シングル「Long shot」(2021年2月発表)が EDM も混じったようなアプローチだったので、次はもう少しロックにしたいと作曲を ANCHOR さんにお願ひしました」
——マシンガンのように言葉が畳みかけてくるナンバーだし、ほぼ英語なので、歌いこなすのが非常に難しいのではないかと考えたのですが、曲を聴いて最初はどんな印象を持たれましたか？
「これはまた大変なものが来てしまった」と思いました(笑)。ロックは私のルーツな

のですが、スピード感があったり、言葉数が多かったり、ちょっとラウドっぽい感じが入っているロックというのは、歌ってきたジャンルではなかったんです。ルーツどころか、新境地をやるような状態でした。聴いた段階からすごく不安になって、「大丈夫かな？ 歌えるんだろうか？」というハラ感しかなかったですね(笑)」
——前島さんにとって新境地だったのですね。
「はい。スピードは速いし、言葉数も多いから、口を回すのも大変な部分があって。「これはまず、口を回すところからやらなくてはいけない！」という感じでした。頭の回りの部分が口を回すのが一番速い部分だったので、私が小学生の頃に洋楽を完璧に歌えるようにになりたいと思ってやっていった手法を久しぶりにやりました」

——それはどんな手法なのでしょう？
「耳で聴いたままの言葉をカタカナで書くんです。例えば一番頭の『This world's always』という部分だと、単語読みで「ディス・ワールズ・オールウェイズ」と書くのではなく、「ディスオーゾエス」と聴こえたままの言葉で書いて、ひたすらそれを言うまで言う。そして、言うようになってきてから、ひとつずつの単語をちゃんと意識する。『This world's always』だから『world's』の発音が入っているの、カタカナで「ディスオーゾエス」と書いていたものを「ディスワールゾエス」に変えて、しっかりひとつずつ単語にしていく…ということをやっていました。でも、最近はその間に口が回らない曲を歌ってなかったから、「この作業、久しぶりだな」といった感じで。時間もあまりなかったし、カ

タカナで言えるようになるまで移動中もひたすらずっと聴いていましたね」
——すごい！ 英詞の歌を歌いたい人には、とても参考になるお話ですね。そして、作詞はシンガー、ラッパー、ナレーター、作詞作曲家、プロデューサーなどマルチに活躍されている AIJ さんが担当されているという。
「AIJ さんは英語をネイティブに話せる方なので、英語はリズムの言語であるというところをきちんと踏まえた上で、歌詞を書いてくださっている印象がありますね。私自身は内容の前にリズム感に注目しまして…韻の踏み方、そして今回は特に速いメロディーで言葉数が多いから普通の洋楽みたいな乗せ方は難しいと思うんですけど、その中でしっかりリズムが立つような言葉選びをしてくださっているので、そこが歌としての魅力だなと感じました」
——なるほど。
「そして、内容に関しては、私の印象としてアニメのオープニングは頭から1番が終わるまでのワンコーラスの中に、起承転結がある歌詞が多い気がするんです。例えば主人公のキャラクターがもがいたり迷いながら歩いてるシーンから始まり、バトルになり、B メロくらいから徐々に光が差ってきて、サビでは答えが見つかったり、「それでも前に進むんだ」と決意したりする。そして、最後にタイトルかロゴがバーン！と出て、他のキャラも登場して終わる…という。でも、私は前に進めないからこその歌や言葉にしている人間なので、正直言うところ起承転結はいらないんです。迷ったり、つらかったりしても、そのまま終わっていい。それは AIJ さんにお伝えしました。悩んだからって答えが見えてくるわけではないし、「何でもいから答えを教えて」と少し投げやりなのですが、そのほうが人間らしいと思うんです。個人的にはいい意味でグルグル回った状態のままで終わっているところが好きですね。なので、私の思考回路に沿っていただけている気がしました」
——確かにオープニングだと盛り上がる内容にしようとするのが一般的だと思

うのですが、そのアプローチでなくても表現方法はあると。
「曲の展開にドラマが十分あるので、内容と一緒に解決しなくていいなと。日本語詞の場合は聴いていると自然に内容も頭に入ってくるから、曲自体も絵も盛り上がっているのに内容だけずっと解決できないでグルグルしている感じだと、多少の違和感が生じてしまう方もいらっしゃるかもしれない。でも、「ANSWER」は英詞がメインなので、いい意味で内容が伝わりにくいから、解決できずに答えを探し続けて葛藤しているという内容の歌詞であって、音楽としてはいいのではないかなと思っていて。どちらかと言うと、最初に言った英語のリズム感や言葉が立ってる感じで、純粋に音楽を楽しんでいただけるから、それで歌詞が気になったほうが、内容を知った時に「こんなに葛藤しているままの曲だったんだ!？」という驚きがあったら、それはそれで新鮮な楽しみ方にもなるんじゃないかという気がします」
——カップリングの「bleed」は静かだけど、次第に感情があふれ出していく楽曲になっていますね。
「A 面は結構ハードだけど、B 面は逆にガラッと印象が変わるという。表題曲と反対のものをやりたい」と思ったところから始めました。あとは、私のルーツでもある洋楽的なエッセンスをより前に出した楽曲がやれるといいなって。歌詞に関しては AIJ さんと一緒に作らせていただいたので、私の考えていることや思っていることをそのまま歌詞にできました。だから、メロディーも内容も、それに合わせて歌い方も、よりエモーショナルな一曲になったと思っています」
——静かな楽曲の中で前島さんの凛とした歌声がとても印象的でした。
「この歌は自分の中にあるものをそのまま言葉にしているので、そういった意味では非常にエモーショナルなのですが、例えば1A、2A 頭の『My future is burning』と『My dream is falling』は「未来が燃えていく」と少し情景的なところもあって」

——それはどういったことでしょうか？
「自分の中で夢や未来が燃えたり落ちていつているのではなくて、自分が見ている目の前で燃えたり落ちたりしている感覚があるんです。例えるなら「冬になって葉っぱがどンドン枯れて落ちているのを見ているだけ」みたいな感じで。だから、自分が今まで歌ってきた歌の中でも、特に情景的な要素が大きいんです。『bleed』はそういった情景的なところもあるので、今までのエモーショナルな感じとはまた違った、別の種類のエモーショナルな声につながっているといいなと思いながら歌っていましたね」
——今作は「ANSWER」も「bleed」も前島さんのヴォーカル力のすごさを体感できる2曲ですね。
「ありがとうございます。『答えが出ない』とか『ずっと自分の中にあるんだ』みたいなものを動で表現したのが「ANSWER」で、静で表現したのが「bleed」ですね。対極的な曲調ではありますが、そこを楽しんでいただけたら嬉しいです。歌詞のほとんどが英語なので内容というより純粋に楽曲、メロディー、リズムといった音楽的なところを楽しんでいただけたらと。ただ、その先に「どんなことを歌っているんだろう?」となった時、「こんなことを歌っているんだ!？」や「意外とネガティブなんだな」とか、「自分もすごく共感できる!」と感じてもらえたらと思います」

取材:キャベトンコ



このインタビューの全文を公開中!▶



「ANSWER」



Single 5/26 Release
株式会社 KADOKAWA
ZMCZ-14785
¥1,320(税込)

music UP's a!

今月のお題:「今、気になっている人」

■ ISSA

「今」ではなく、常に気になってます! DA PUMP の大ファンなので(笑)。両親が DA PUMP とプロデューサーの m.c.A・T さんが好きだったから、常に曲がかかっていたんです。ずっとそれを聴いて育ったので、私も気がついたら(笑)。特に ISSA さんが好きで…母が好きだったから、もう遺伝的に大好きなんです。それこそ見た目から全く! もちろん歌声も好きだし、とにかく最高です!! ISSA さん以外の人にハマったり、ファンになることがなさすぎて…本当にもう…言葉が出てこないです。あまりに好きすぎて、ずっと周りにも言えなかったんです(笑)」

小松未可子

“私ってこういう感じだったな”と改めて思わせてもらえた

TVアニメ『さよなら私のクラマー』EDテーマとして書き下ろした表題曲と大人の雰囲気漂う新境地となるナンバーが並ぶ、約2年半振りのシングル「悔しいことは蹴っ飛ばせ」。初回生産限定盤には2018年に開催した『小松未可子 TOUR 2018 "Personal Terminal"』の様相を収めたBlu-rayを同梱する、ボリュームたっぷりの一枚について話を訊いた。

——久々のリリースにあたり、今の率直なお気持ちを聞かせてください。

「配信曲やフィーチャリング曲はあったんですが、自分名義としては久々のシングルなんです。今回はタイアップというかたちで作品を背負わせていただくことができたとともに、声優としても出演させてい

ただいているので、いろいろな側面でTVアニメ『さよなら私のクラマー』にかかわり、お力添えできるのが嬉しかったです。キャストという立場でアニメ制作の内側からかかわることができたので、また見え方も違いましたね。アフレコに携われたことでアニメ制作の指揮を見られたり、監督と

もお話させていただく機会も多かったりと、制作側の雰囲気や出演陣の熱量を目の当たりにしたことが、すごく自分のモチベーションにつながりました」

——「悔しいことは蹴っ飛ばせ」がEDテーマとなる『さよなら私のクラマー』の原作やアニメから感じたイメージは？

「原作を読ませていただいて、漫画のタッチからエネルギーを感じる作品だと思いました。サッカーの試合の描写もインパクトや躍動感、生命力が感じられました。でも、その荒々しい試合の描写とは打って変わって、キャラクターたちがすごく可愛いんですよ。根性が据わっていたり、融通が利かない頑固さを持っていたり…そういう女の子たちがそれぞれの夢を持ちながら切磋琢磨して人とかわっていく上で、サッカーを通して自分自身も成長していくのが魅力的で。女子サッカーの今と未来を考えられるような、すごく重要な作品だと思いました。アニメは色使いがとてもポップで、観ていて本当に気持ちが良いですね。サッカーの動きが分かりやすく描かれているから女子サッカーを知る入口としても入りやすいと思います。毎話続きが気になる作りになっているので、これからどんな試合が描かれていくのか楽しみです」

——「悔しいことは蹴っ飛ばせ」は、疾走感のあるさわやかなギターロックチューンに仕上がっていますね。

「例えばアニメのOPテーマがアップテンポで勢い良く引き込む曲としたら、EDテーマはしっとり緩やかなテンポになることが多い印象でしたが、この作品のエンディングはとても“動”で。だから、次につながるという意味合いが大きいのかなと思いました。初めて楽曲を聴いた時、“これはOPテーマなのでは!?”という驚きがあったぐらいで(笑)。楽曲にも“私ってこういう感じだったな”と改めて思わせてもらえたというか、ある意味で自分も原点に立ち返れたような感覚がありました」

——背中を押してくれそうな前向きな歌詞も印象的ですね。

「まさしく応援歌になっていますよね。お気に入りには、2番の《まっすぐに伸びた道などないから/迷いながら飛べそう》というフレーズです。スポーツをしている人じゃなくても、自分の今の心情に置き換えるとグッとくるいい表現だと思います。“こんなにも自然にネガティブをポジティブに変えてくれるなんて”と思わせてくれる楽曲と言いますか。何をするにしても個人の葛藤や戦いはあると思うのですが、成長ってやっぱり他人がいなくてできないと思うので、仲間や家族、先輩後輩…聴く人それぞれの周りにいる人を意識させてくれて、シチュエーションとして広がりのある歌詞になっていますよね」

——今作のMVはどんな仕上がりになりましたか？

「ロケ地が学校で、まさに“青春!”みたいな感じです。“青春期って、こういう空間で過ごしてたな”と思い起こされるような作りになっていますね。初めてバンドのみなさんと一緒にMVに出演したのも嬉しかったです。校庭や屋上で歌ったりしていて、それが不思議な感覚でした。合間に実際の学生さんたちの部活の描写も盛り込まれているから、アニメの世界観ともリンクした仕上がりになっています。ですが、実は校庭で撮影したバンドの演奏シーンは砂埃がすごく、撮影が終わった頃には私の白いスニーカーもビンテージものみたいな色合いになっていました(笑)」

——カップリングの「永遠と言ってみよう」のポイントは？

「約2年半振りのシングルで、私自身の変化もあったので、“小松未可子の新境地って何だろう?”を出発点にQ-MHzの田代智一さんが汲み取ってくれたんだと思うのですが、“新しい小松未可子像”のイメージとして送ってくれたのが、チャカ・カーンの楽曲だったんです。聴いてみたら本当にとても渋いジャジーな楽曲で、“こういうの、歌えるかな?”という気持ちは若干ありました(笑)。ですが、今までにないタイプの楽曲だったからこそトライすることになったんです。そこからQ-MHzの

みなさん流に楽曲をアレンジしていただき、私のエッセンスも加えていただいています。今までのQ-MHzさんとの楽曲では高音を活かしたり、ポップな部分が大きかったり、ライブでも楽しめる曲が多かったのですが、この曲は自分の中でひとつ大人になったような感覚のあるものになりました。私が思う“大人”なニュアンスがないと説得力がないかもと思い、意識しながら仕上げていきました。また、音数が多くて、畑 亜貴さんが書いてくださった歌詞も音遊びみたいで楽しかったです。でも、レコーディングでは多少苦戦しましたね(苦笑)。あと、これまでの楽曲の中でもキーが低めなんです。最近、自分が演じる役も低音のキャラクターが多くなってきたので、そういう自分の側面も考えて、今作のMVはどんな仕上がりになりましたか？

「ロケ地が学校で、まさに“青春!”みたいな感じです。“青春期って、こういう空間で過ごしてたな”と思い起こされるような作りになっていますね。初めてバンドのみなさんと一緒にMVに出演したのも嬉しかったです。校庭や屋上で歌ったりしていて、それが不思議な感覚でした。合間に実際の学生さんたちの部活の描写も盛り込まれているから、アニメの世界観ともリンクした仕上がりになっています。ですが、実は校庭で撮影したバンドの演奏シーンは砂埃がすごく、撮影が終わった頃には私の白いスニーカーもビンテージものみたいな色合いになっていました(笑)」

——改めて映像を観ると懐かしすぎて、“私、こんな感じだったっけ!?”という想いにもなりました(笑)。また、ライブってこんなに素晴らしいものだったんだと体感したりもしましたね。その反面、3年前の自分の映像を観て、今もこのテンションでライブができるのか不安になったりもして(笑)。あと、映像を観たことで、改めてこの一年は自分もそうですけど、世間がライブを求めていると感じました。私自身も他の方のライブに行った時にお客さんの反応を観て、“そうだよね。この場所に来て分かち合って、一体となって初めてライブになるよね”としみじみと感じましたね」

——改めてご覧になって思い出したツアーのエピソードはありますか？

「確か、この時すごく体調が悪かったんです(笑)。だから、記憶がない部分もあって。後日、その時は体調が悪かったというお話もさせていただいたんですけど、人間ってアドレナリンが出てたら何とかなるんだと思うぐらい、“このライブを絶対

にやる!”という謎の自分のエネルギーを感じました(笑)」

——そんな小松さんが音楽活動ですと変わらずに大切にされていることは？

「今の自分を投影することだと思います。本当に少しずつなんですけれど、環境が変わったり、自分が務めるキャラクターが変化していったり、声優業も音楽業もさせていただいているので、いい意味で相互で行き来できていたらいいなと。そういう環境の変化も音楽にフィットできていたら面白いなと思います。この一年はみなさんとしても大きな変化のあった日々が続いていて、ちょっとずつ新たな日常を作っていく作業だったと思うんですよ。その中で私たちも新しくどうしていこうか、どうやって楽しいものを作っていこうかと切磋琢磨しながら考えていて。そのひとつの始まりとしての楽曲を、ぜひみなさんに聴いていただけたら嬉しいです。そこから、より音楽を共有できるやり方を模索しながら、またみなさんに会える日に向けて頑張るので、楽しみにしていただけたらいいなと思います」

取材：齊藤 恵

okmusic

このインタビューの全文を公開中!!!



「悔しいことは蹴っ飛ばせ」



Single 5/26 Release
TOY'S FACTORY

【初回生産限定盤】
(CD+Blu-ray)
TFCC-89707 ~ 8
¥6,050(税込)



【通常盤】(CD)
TFCC-89709
¥1,400(税込)

music UP's Q!

今月のお題：「今、気になっている人」

■料理研究家のリュウジ

「Twitterで知ってハマったんですけど、レシピ本を全部持っているぐらいのファンです。YouTubeで動画を観ていると、リュウジさんって絶対に酔っ払いながら料理をするんですよね(笑)。4本振りの4本目とか、なぜか酔うほどに手際がいいんですよ。料理を毎日するようになってからリュウジさんのレシピに本当に助けられています。おからのナゲットが簡単で美味しくて、100回くらいは作っています(笑)」

内田 彩

“今を楽しく生きているなら大丈夫”と、ありのままを認めてくれる一曲

自身も出演している TV アニメ『やくならマグカップも』ED テーマを含む 5th シングル「Pale Blue」。表題曲の歌詞は自分とリンクすることも多いようで“全部が私じゃん！”と話すほど。本誌初登場となる彼女に音楽活動に対する気持ちの変化やファンへの想いも訊いた。

——音楽活動を始めてから6年以上経ちましたが、アーティストとして活動する上で大切にしていることは何ですか？

「自分の気持ちに嘘はつかないことです。作家さんに楽曲を作っていた以上、全ての歌詞が私の経験にもつくわけはないので、新しい曲を歌う前には自分なりにストーリーを考えているんですよ。最近、ようやくしっかりと曲を自分の中で消化して、“演じながら歌う”ことができるようになってきました」

——その変化には何かきっかけがありそうですね。

「きっかけは、4th アルバム『Ephemera』(2019年11月発表)ですね。この作品から制作チームが新体制になったことで、歌詞の一人称に“僕”が使われ始めたんです。それまでの楽曲は“私”で統一してきた

ところを、新しいスタッフさんから内田さんの楽曲を聴いた人の感情が“僕”という言葉がきっかけに動かされた。それはとても素敵だと思いますよ”とご提案をいただいていた。これまでは“私とみんな”というような向かい合うイメージで歌詞を届けることにこだわっていたものが、“僕”にすることで私を含めて“みんな”という一体的な感覚を持って伝えられるようになったことが大きかったですね」

——そうした成長を経て、シングル「Pale Blue」が発売されます。表題曲は TV アニメ『やくならマグカップも』ED テーマに起用されていますが、内田さんも出演しているんですね。

「そうなんです。このアニメは女子高生4人による陶芸部での活動をテーマに、それぞれの想いや成長を描いた青春群像劇

になっていて、私は真土泥右衛門というマスコットキャラクターを演じています。今回のアニメ版では原作と少し違って、次回予告のナレーションを担当しながらメインキャラクターたちを見守り、“このあとはどうするんだ!?”とツッコミを入れたりしていますね」

——私も観ましたが次回予告も面白いですね。楽曲としてはどのような仕上がりにになりましたか？

「プロデュースをしていただいた作家の hisakuni さんに、アニメの内容をうまく汲んでいただけて、タイトルの“淡く蒼い”色が思い浮かぶ、さわやかなものになりました。アニメを視聴されている方には彼女たちの想いと通じる部分を、そうでない方には淡い恋愛や友情からうっすらと懐かしさなどを感じていただけたと思います。私自身も

高校時代を懐かしむ気持ちになりましたね」——この曲を歌う上で意識したことはありますか？

「全体的に柔らかく、ほんわかとした雰囲気の中で楽曲がまとまることを目指しました。実はアニメ監督の神谷 純さんとレコーディング当日にお話をする機会があって。当初はエンディング映像が出来上がってなかったので、どんなふうに歌うか自分の中で悩んでいたんですけど、映像のイメージを監督に教えてもらえたんです。“真土泥右衛門などのマスコットたちが出てくる、可愛くてほのぼのするような映像になるよ”と。そのお話を先にかがえたから、歌唱のイメージもしっかりと持って歌えました。この話を聞けずいたら、もう少し感傷的でエモーショナルに歌っていたかもしれないですね」

——確かに、歌詞の中で登場人物たちの関係性の変化を予感させる描写もあります。そうした方向性の理解もできそうですね。

「今回の制作にあたり、hisakuni さんから“こういう曲にしたいです!”というメッセージもいただいたんです。そこには、青春をテーマにしたつづの女子高生が恋心を抱きながらもすれ違うかも…といった内容が書かれていて」

——作品の裏テーマのようにも思えますね。そんな hisakuni さんとは 2nd アルバム『Blooming!』(2015年7月発表)の収録曲『with you』に始まり、これまでに数多くの楽曲でタグを組まれていて、内田さんに対する hisakuni さんの理解度も相当かと思われますが、「Pale Blue」の歌詞にも共感できるポイントは見当たりましたか？

「それが、もうめっちゃくちゃあって。今までも“どこかで私を見てたの?”と思うほどだったところが、今回は“全部が私じゃん!”って(笑)」

——その中で特に好きなフレーズはどこでしょう？

「2 番 A メロの『好きなモノ 好きなコト／恥ずかしがらず好きと言える／君が好き』から始まる部分です。すごく私っぽいなって」

——内田さんなら絶対にそこを選ぶだ

ろうと確信していました(笑)。それこそ、2014年8月まで遊みますが、代々木アニメーション学院名古屋校の体験入学イベントへ出演された時に、学生のみなさんへ“笑われても、バカにされても、自分の夢と自分を信じて進んでこよう!”と伝えていた姿を印象深く覚えています。今回の歌詞にも通じそうなメッセージですね。

「確かに! すごく懐かしいですね(笑)」——今でも当時の想いは変わっていない? 「ちょっと…変わっちゃったかもしれない(笑)。声優になったらなつたで悩みが10倍くらいに膨らんじゃうこともあるし…」

——とはいえ、そうした夢に向かって努力する人さへ、「Pale Blue」は温かく見守ってくれそうですね。

「それで言うところ『やくならマグカップも』第3話では、真面目に陶芸に取り組む青木十子ちゃんと、賑やかに部活動を楽しみたい久々梨三華ちゃんが喧嘩をしちゃったんですよ。原作を読んだ時から感じていたんですが、十子ちゃんが抱えている先輩らしい考え方は自分の中にも存在しているなと」

——内田さん自身に重なる部分があるんですね。

「例えば、大好きな歌を素直に楽しめばいいのに、最初はアーティストデビューを嫌がってたし、大人っぽい歌を歌えるほうがいいと考える自分と、可愛い歌が大好きでいるもうひとりの自分がいたり。最近だと、アーティストとして早くライブを開催したいと周囲に発信すべきと考えているんですけど、コロナ禍ということもあって、私の決断でひとりでもつらい思いになってしまおう方がいるのなら、それは望みたくないという…。複雑なところですね」

——こうした状況下だと、なおさらに二律背反が生じてしまうと思います。

「人生って常に理想と現実を行き来するものだと思うんです。その上で『Pale Blue』を歌っていると、周囲に対しても自分なんですが、むしろもうひとりの自分自身と向き合える気がしていて、そこに心をグッと掴まれるんですよね。自分を俯瞰で見えて包み込んでくれるようで、“今を楽しく

生きているなら大丈夫”とありのままを認めてくれる一曲だなって。最後には自分に意味が返ってきてくれる言葉ばかりだから、私が hisakuni さんの歌詞に一番癒されているかもしれないです」

——そんな「Pale Blue」の MV について、注目ポイントはありますか？

「今回は室内撮影だったんですけど、監督さんが限られた空間の中でいろいろな面白い仕掛けを考えてくださいました。アニメの内容に合わせて、ろくろを思わせるレコードやマグカップも登場します」

——全体的に可愛らしいモチーフが多いですね。

「そうなんです! 1st シングル「SUMILE SMILE」(2016年11月発表)の MV でお会いした大好きなデザイナーさんにご協力をいただきました。今回も小物などを作っていたんですけど、本当に可愛い世界観をお持ちなんですよ。ファンのみんなには“少しでも昔の可愛い路線に戻った?”と思われそうですが、私自身がそもそも可愛いものが大好きなので。楽曲タイトルもほわんとしたイメージのある「Pale Blue」だから許してくれるかな? (笑)」

取材：一条皓太

okmusic

このインタビューの全文を公開中!! ▶



「Pale Blue」

Single 6/2 Release
日本コロムビア
【限定盤】(CD+DVD)
COZC-1753 ~ 4
¥2,090 (税込)

【通常盤】(CD)
COZC-17883
¥1,430 (税込)

music UP's a!

今月のお題:「今、気になっている人」

■有賀 薫

「スープが大好きで、学生時代から『Soup Stock Tokyo』にもよく行っているんですけど、コロナ禍でなかなか行けないし、家で作ることが増えまして、いろんなレシピを見たけど、スープ作家さんということもあって有賀 薫さんのレシピが最高なんですよ。レシピ本も買って、いっぱい試しながらスープを楽しんでいます。実は今晚もほうれん草とブロッコリーのカレースープを作る予定なんですよ(笑)」



L → R 藤田 勉(Dr)、本田 毅(Gu)、JILL(Vo)、渡邊 貴(Ba)

PERSONZ

“バンドであることの意味”みたいなものも含んだ行為

過去作を最新の状態にアップデートして蘇らせる“RELOAD PROJECT”の第四弾として、1986年と1987年にインディーズでリリースした『ROMANTIC REVOLUTION』と『POWER-PASSION』を“RELOAD”！ 今回の制作背景について訊くとともに、この2作品からうかがえる初期 PERSONZ のロックバンドとしての革新性について、メンバー4人を深掘りした。

——今回が第四弾となるわけですが、この“RELOAD PROJECT”(以下、“RELOAD”)をスタートさせたきっかけというのは？
JILL:第一弾だった『PERSONZ』(2016年11月発表)の前年に日本武道館公演がありまして、その武道館を達成するまでに4年くらいかかってしまったんで、公演を無事に終えたあと、ちょっと抜け殻みたいになってしまったんですね。で、“次に何をやらしたいのかな？”と考えていた時に、ある方から“アナログレコードを作らないか？”という企画をもらったんです。アナログレコードだったら過去のものをもう一度蘇らせても面白いかも。ただ、『PERSONZ』というのは1stアルバムで、当時はアナログレコードでしたから、それをそのままやっても面白くないので、一発録りのライブでレコーディング

するのはどうだろうか…というような経緯だったと思います。
——『PERSONZ』を皮切りに、2017年に7thアルバム『The Show Must Go On』と3rdアルバム『NO MORE TEARS』の過去3作品を“RELOAD”されてきましたが、そこから少し期間が空いて、今回は第四弾として PERSONZ のもっとも古い音源である『ROMANTIC REVOLUTION』『POWER-PASSION』を“RELOAD”されました。これはどういう経緯だったのかを教えてください。
JILL:今回はコロナ禍で身動きが取れなかった…昨年と今年はツアーが全部中止になり、この先もライブができない状態がどこまで続くのか分からない中、“でも、何か作品を作らないといけなくない”というところで、“あ、これだったら！”と案が出てき

た感じですね。
渡邊:他の候補もいろいろとあったんですけど、これまでの“RELOAD”もいつも同じようなやり方をしていたわけじゃなくて、いろいろとかたちを変えていたんです。でも、その中で今回は一発録りというカテゴリーの中でやれることを考えたんです。このご時勢だったから、収録場所が CLUB CITTA' であることを考えると、インディーズの2枚をやるのが一番いいんじゃないかということで選ばせていただきました。
藤田:僕は“今回はどのアルバムを料理しようか？”という時から話し合いに参加していたんですけど、他にもいくつか候補があったんですよ。でも、他の作品に手をつけるとなると“じゃあ、ここの打ち込みの部分をどうする？”とか“ダビングはどう

する？”とか、結構作り込む作業が発生してきちゃうので、みんなで集まって“セーの”ですぐにかたちになるものかと考えると、このインディーズの頃の曲が一番適当なんじゃないかと。
——今の状況下でやれることを考えると、『ROMANTIC REVOLUTION』と『POWER-PASSION』が相応しかったという感じでしょうか？ とはいえ、一発録り自体は何度もご経験があると思いますが、その緊張感は凄まじいものがあったのだからと観察しました。
渡邊:お客さんが誰もいない中、音と映像と一緒に録られるというのはかなり厳しい作業でしたね。こういう経験はないし…本当に最初の2曲くらいは何をやっていたのかよく覚えてないんです(苦笑)。レコーディングでは演奏に集中するじゃないですか。どんな顔をして弾いているとか、あんまりそういうのは関係ない。だから、“観られているという体裁をどういうふうに自分の中で解釈したらいいのか？”というところで、ただ演奏しているだけではいけないし、あんまりカッコつけてると間違えちゃうし(笑)。
——眼前にお客さんがいないというのが大きかった？
渡邊:今回、それに気づいたんですけど、誰かに観られている前提があると、それはそれで割り切れるというか、吹っかれるというか、諦めがつくというか(笑)。観客がいないとインナーにプレッシャーが向いてくるんですよ。
——その辺、JILL さんはいかがですか？
JILL:緊張感はまったくなかったですね。私には“こういうふうにはパフォーマンスしよう”というプランがあったし、歌は普段のライブと一緒に一発で歌えたいと思ってたんで、何もこだわることなかった。ただ、ちょっとプロモーションビデ

オ的なイメージを入れようと思ったから、それが今までの『RODEO DRIVE』(無人のライブ会場での一発録りを収録したDVDアルバム)とは少し違いますね。今、Instagram にアップしていますが、昨年11月から自分でもショートMVを作ってたからイメージはしやすかったというのはありましたけど、10曲分の着替えをしなくちゃいけなかったので緊張する暇がなかったという(笑)。
——本田さんはいかがでしたか？
本田:今回はちょっとアレンジされてて…イントロダクションがついたりして、昔と違ってたりしているところがあるんですよ。その部分はアドリブ性があるというか、インプロビゼーションみたいな感じだったりますんですよ。演奏陣はアドリブプレイ的に始まって、そのあとで本編に入っていくんだけど、“アドリブがうまくいったとしても、次のイントロで俺が間違ったらどうしよう？”とか“出だしはカッコ良かっただけに、そのあとで俺が失敗したらヤベえな”みたいな変なプレッシャーはありました(笑)。
——同じ質問ですが、藤田さんはいかがでしょう？
藤田:僕も渡邊くんの感覚とほぼ一緒ですね。スタッフの人たちは周りにいっぱいいたけれど、お客さんに観せているわけではないので、やっぱり意識が内々に向くんですよ。演奏しながらでも“こうしなきゃいけない”“あしなきゃいけない”という気持ちが悪い方向に回り始めていたような気がします(笑)。あとは、まるまる一年間、まともにライブができていないというのをぶつけようとしていたところもあるんじゃないかと。それが固さとか、力みに向かってしまった反省点はちょっと感じますね。お客さんがいないというのは、気持ちをフラットにするのがなかなか難しい

状況でした。
——みなさんの発言からはかなりストイックに臨まれたことがうかがえますが、逆に言いますと、それをやるだけのバンドの力量であり、プライドを感じたところではあります。
JILL:1986年や1987年にこれやれと言われてもできないですね。ただでさえ『ROMANTIC REVOLUTION』はレコーディングが初体験だったので。そう思うと、一度も活動を止めることなく、長年やってきたことが表れているのかなと思います。
渡邊:ただ演奏することだけなら若いバンドでもできるんじゃないけれど…何でしょうね？ それだけじゃないんですよ。“バンドで一発録りをしよう”というところに至る気持ちというか。ただ演奏を一発録りでやるということだけじゃない、もっと複雑なものがあって…ある種の集大成と言っちゃうと大袈裟ですけど、“バンドであることの意味”みたいなものも含んだ行為というか。そういうものがあるんですよ。
取材:帆刈智之



このインタビューの全文を公開中!!▶



『ROMANTIC REVOLUTION / POWER-PASSION』



CD+DVD 6/9 Release
ZOE CORPORATION
ZOE-033 ~ 4
¥5,000(税込)

music UP's a!

今月のお題:『今、気になっている人』

■JILL…SHINeeのデミン

「最近韓国ドラマにハマったんですけど、そのまま音楽も好きになりました。娘も韓流ファンなので、師匠になってもらって教えてもらっています。バックボーンにマイケル・ジャクソンがいるようで、パフォーマンス力とカリスマの取り方や間合いが素晴らしいので、私のロールモデルにもしたいくらい！毎日欠かさず動画を50回くらい観ています」

■本田 毅…ローコストコスプレ

「Instagramでローコストコスプレさんというタイのコスプレイヤーをフォローしているんですけど、いろんなものを使ってアニメキャラクターのコスプレをするんですよ。例えば『鬼滅の刃』の煉獄杏寿郎だったら黄色と赤色の唐辛子を使って髪型を表現していて、身の回りのものを使った発想が本当に面白くて気になっています」

■渡邊 貴…羽生善治

渡邊:音楽以外の趣味だと将棋が好きなんですよ。羽生善治さんがテレビのドキュメンタリーでクローズアップされることが多くて、それを観ているとたくさんいらっしゃる棋士の中でも本当にすごい人なんだなって。いつか対局してくれないかなと思ってます。
JILL:何の話よ(笑)。
本田:夢を語るコーナーじゃないですよ！(笑)

■藤田 勉…日本の政治家

「特にこの人っていうのはないんですけど、やっぱり気になるのはコロナ禍に絡んだ政治の話ですか、オリンピックに絡んだお話とかで。次はどんな方がどんな発言をしてくれるのだろう？」と日々とても気になっています。どんな突拍子もないことを言い出すのかなと(笑)」

THE Collectors

シブい THE COLLECTORS より、弾けてる THE COLLECTORS

盤を汚さないようにそっと取り出してプレイヤーに乗せ、慎重に針を落とす。その瞬間に広がる、かけ替えない愛しい時間。THE COLLECTORS の鳴らす珠玉のポップミュージック&ロックンロールが結成 35 周年記念 7 インチシングルレコード BOX『13 VINYL SINGLES』に。この加藤ひさし (Vo) の言葉を参考に、じっくり聴くもよし、DJ 気分で弾けるのもまたよし！



左から 山森「JEFF」正之 (Ba)、古沢「cozi」岳之 (Dr)、古市コータロー (Gu)、加藤ひさし (Vo)

—— 7 インチシングルレコードの BOX セットというのは、いかにも THE COLLECTORS らしいアイテムですね。

「30 周年記念の BOX セット (2016 年 9 月発表の『MUCH TOO ROMANTIC! The Collectors 30th Anniversary CD/DVD Collection』) がそれまでリリースした全てのオリジナルアルバムとアウトテイクの CD、ヒストリー DVD をパッケージした豪華絢爛なもので、それから 5 年が経って「じゃあ、次はアナログ BOX を作る？」って話になった時に、アナログの 7 インチシングルは「太陽はひとりぼっち」(1988 年 6 月発表)しか出していないから、アルバムから代表曲をメン

バーが一曲ずつ選んで、それを 7 インチにして BOX セットにしたら面白いものができるんじゃないかということで、このアイテムに達しました」

—— 意外な曲がセレクトされていたり、シングル盤としての組み合わせの妙もいろいろあったりしますね。

「そこが一番のミソなんです。各アルバムからシングル盤を出したかったよな」という想いもありましたし。だから、「このアルバムだったら、この曲をシングル盤で出したかったよ」というのが作れたのが最高だったし、面白かったですね」

—— 「Thank U」なんてこの企画がなければ 7 インチで出ることにはなかったでしょ

うね。

「出てないよね。『ロック教室〜THE ROCK'N ROLL CULTURE SCHOOL〜』(2006 年 7 月発表)という 20 周年記念でリリースしたアルバムの一番最後の曲っていう印象になってしまっているからね。でも、自分の中ではかなり気に入っているし、カッコ良いと思っているので、これがシングルになることで「あっ、こんなオリジナルナンバーもあったんだ！」って思ってもらえたらいいですね。あとは、THE COLLECTORS の魅力のひとつでもある「あてのない船」みたいな壮大なバラードは、The Beatles の「ザ・ロング・アンド・ワインディング・ロード」のシングルを

買った時みたいな気持ちで選びました」
—— 7 インチシングルになることで再確認できることもいろいろありそうですね。

「アルバムって 10 ~ 12 曲入るわけじゃないですか。だから、聴いていくと多かれ少なかれ、前の曲から影響されたりとかするんだけど、シングルだとその一曲にスポットがくっきりと当たるので、自分でもかなり印象が変わったというのもありました」

—— アナログ盤だと、ひっくり返して B 面の曲を聴く作業も楽しいですね。

「そうですね。で、針を乗せると数分後に止まるわけじゃないですか。止まったら針を上げないといけないから、すごく集中して聴くんですよ (笑)。ながら聴きができない！そこが僕みたいなレコードで育った世代には懐かしさがめちゃくちゃ込み上げてきたり」

—— 盤を傷つけないように、そっと針を落としたりとか。

「そうそう。まさに！」

—— そして、やっぱり「ヒマラヤ」の「揺れる恋はスマレ色」という新曲 2 曲が 7 インチになっているというのも嬉しいですね。

「それは僕もすごく嬉しいです」

—— しかも、タイトルからしてもう… (笑)。『別世界旅行〜A Trip in Any Other World〜』(2020 年 11 月発表)からの発想の転換みたいなものはあったのですか？

「発想の転換というよりは…「お願いマシー」(『別世界旅行〜A Trip in Any Other World〜』のリード曲)の一曲で 2020 年を歌いきっちゃったんですよ。だから、これ以上はコロナ時代のことを歌うことができない…今も 2020 年の延長だしね。この不自由な毎日というのは、日本はどんどんひどくなっているし、そんな中で「何を歌おうかな？」って思った時、沸々と湧いてきたのが「The Beatles ごと」だったんですよ (笑)。もうね、プラモデルを作っているのと一緒にだね！「俺、サイケが好きだったなあ」「まったく意味の分らないことを歌っている時代があったよな」みたいな。で、「この悩みも神秘的の里に行き解き放つ！」ってというようなエセ宗教的な歌って面白いかもと。だから、「ヒマ

ラヤ」なんですよ。もう何よりも、ヒマラヤ〜って歌った時のメロディーラインと歌詞がぴったりとくる感じがね」

—— イントロのシタールの音色なんて最高の遊び心ですね。

「あのエレクトリックシタールは僕の私物なんですよ。そうそう登場する機会ってないので、こういう時に見せびらかすわけです (笑)。今ってほんとに外に出れない現状なので、最高の大人の遊びをやったっていう感じです」

—— でも、一応ググっちゃいました。ヒマラヤの壮大さを改めて確認しよう。

「ヒマラヤ山脈って国を跨いでいるし、広いんですよ。そこで「チベットあたりを意識して政治的なことを歌いやがって」って思うのも勝手だし。だから、そういった意味でも「ヒマラヤ」というワードが何よりも良かったんです」

—— B 面の「揺れる恋はスマレ色」ですが、このタイトルで曲が書けるのは、今や加藤さんしかいないのではないかと。

「まあね。やっぱりそこは年齢が出るよね。Betsy & Chris の「白い色は恋人の色」やヴィレッジ・シンガーズの「亜麻色の髪の乙女」、桑名正博の「セクシャルバイオレット No.1」、一風堂の「すみれ September Love」…そういうのを凝縮してフォークロックみたいな曲を作りたいと思ったら、そういうエキスが全部出ちゃいまして (笑)」

—— この甘酸っぱさがまたいいんですね。

「実は違うテーマで書こうとしていた歌をヒントに作ったんです。当初は「プライマリーカラーズ」というタイトルで…「原色」という意味なんですけど。例えば、青に赤を入ると紫になるし、青と黄を混ぜると緑になる。その原色がひとりひとりの個性だとすると、ふたつの色が混ざると新しいきれいな色が生まれる。でも、人間って欲張りだから「もっともっと他の色を」ってなるでしょ？ そうするとどんどんグレーになって、最後は黒になっちゃう。そういう歌を書こうと思ってたんですよ。で、最終的に青と赤が紫…スマレ色になるっていう

春の歌を書くことに決めたんです」

—— この BOX は 7 インチシングルのワクワク感を久しぶりに味わえた感じがします。

「シングル盤ってそういう役目ですよ。実は「ヒマラヤ」を作る前に、すごくフォークなアコースティックの曲ができたんです。それはギターのコータローが「シングルっていうのは粋で軽快なポップチューンがずっと続くから、最新シングルは少しフォークでシブい感じでもいいんじゃない？」って言うんで、そういうのを作ったんだけど、みんなに聴かせたら「まあ、ありっちゃありだよな」という反応でさ。で、プロデューサーの吉田 仁さんから「やっぱり最新シングルも弾けるよな！」というのはないのかって言われて、それで新たに作ったのが「ヒマラヤ」なんですよ。そしたらみんなも「うわっ、これいいじゃん！」となって、こっちをレコーディングすることになったんです」

—— 仁さんの THE COLLECTORS 愛の振りきりってありますよね。

「俺たちは「35 年の歴史があるんだから、ちょっとシブがってもいいんじゃない？」とどこかで思ってるんですけど、仁さんは「シングル THE COLLECTORS より、やっぱり弾ける THE COLLECTORS でしょ！」というのが永遠にあるんじゃないかな。そっちが正しいんだと思います」

取材：竹内美保



このインタビューの全文を公開中!!!



『13 VINYL SINGLES』



7inch BOX 6/2 Release
日本コロムビア
COZA-1755 ~ 68
¥25,300 (税込)
※ 13EP+DVD
※ 生産限定商品
※ シリアルナンバー入り

music UP's a!

今月のお題：「今、気になっている人」

■ MIX NUTS HOUSE

「ラジオ番組の「NACK5」を聴いていたら彼らの「鳥獣トッナイト」という曲が流れてきたんだよね。冒頭に「仁義なき戦い」のテーマが流れて、バブルガムイントロにサビは陽気な TUBE 風っていう。確かにロックチューンなのに、なんかいい意味で薄気味悪くて、Pink Floyd の初期を感じさせられましたよ。気になりすぎて YouTube で MV を観たんだけど、夢にまで出てくるくらいのインパクトだね (笑)。もし、フェスに出ていたらライブを観てみたいな。ライブを観てこのモヤモヤした気持ちを早く晴らしたいですね」

the band apart(naked)

エレキとは違う難しさがあるけど、それがすごく面白い

the band apart のアコースティックユニット・the band apart(naked) が新曲 3 曲を含む全 8 曲を収録した、約 3 年半振りのアルバム『3』を完成させた。彼らの絶妙なアレンジセンスはもちろん、新たなチャレンジが詰まった新作について木暮栄一(Dr)に話を聞いた。

—— 昨年のコロナ禍以降の the band apart(以下、パンアパ)の動きから聞かせてもらえますか？

「結成 20 周年を記念した板橋での野外音楽フェス『AG FES』を筆頭に、いろいろなものが中止になりました。もともと 2020 年にパンアパとしてアルバムを出そうとしてたんですけど、こういうムードで出すのもどうかってことで、8 月から 4 カ月連続シングルリリースってかたちに方向転換したんです。あと、我々は事務所兼スタジオがあるので、月イチで配信ライブやトークをやっていました。この状況ばかりはどうしようもないので、いち早く配信に切り替えて活動してましたね」

—— そんな中、the band apart(naked) (以下、ネイキッド) の 3 枚目のアルバム『3』が制作されたわけですが、どんなきっかけでスタートしたんですか？

「昨年、組んでたツアーが全飛びしたんですね。自分らで会社をやってるので、今年はコロナ禍に配慮しながらでもライブをやっていきたいとヤバいって話になってたんです。ただ、ツアーをやるにしても音源をリリースしたほうが分かりやすいし、ネイキッドのほうが時節柄フィットするかなってというのは考えましたね」

—— 今作ではネイキッド用に新曲も作ってたそうですが、

「実はネイキッド用の楽曲っていうのは、前にも会場限定 CD で作ったことがあったんです。もともとは最近やらないうちらの古い曲に光を当てるみたいな側面から始まったけど、それ以上にネイキッドなら縛られるものが少ないことに気がついたんです。パンアパは 4 人だけでがっちりやるって感じだけど、ネイキッドはもう少し風通し良くやれるなって。アコースティックと

いう縛りがあるだけで、鍵盤とかストリングスを入れてもいいし。そういうのもあって、過去曲だけじゃなく新曲があっても面白いと思ってやることにしました。「ラブレター」と「夢太郎 (Acoustic)」最後の曲の「Where the light is」が新曲です」

—— あとの選曲はどのように選んだのですか？

「『The Sun (Acoustic)』と『Snow Lady (Acoustic)』は、もともと 2011 年に震災のチャリティーシングルとして会場と通販限定で出した曲なんです。僕らも思い入れのある曲だし、今までのアルバムにも収録されてないから、10 年ってタイミングを機にネイキッドでやろうと。あと、『Cosmic Shoes 2』は、それこそネイキッドの原型みたいな感じなんです」

—— 『Cosmic Shoes 2』がネイキッドの始まりだったんですか？

「そうなんです。まーちゃん(原 昌和の愛称)が一時期身体を悪くしてバンド活動ができなかった時、俺と荒井がカホンとアコギでライブをやってたんです。その時、最初に原曲をリアレンジしたのがこの曲だったんです。でも、なぜか今まで収録してなかったの、今回やることにしました。「プリテンダー (Acoustic)」は月イチで配信ライブをやっているうちに、だんだんやる曲がなくなってきてシリア曲を掘り出してみたんです。で、いい感じだったからそのまま入れました。「Foresight」は、さっき言ったネイキッド用の楽曲として会場限定で出した曲です」

—— なるほど。では、新曲に触れながら話を進めていきましょう。「ラブレター」はファンキーなアップチューンですね。

「これは荒井が書いた曲なんですけど、キャッチーでいい曲だと思っていましたね。最近の荒井の感じというか、「夜の向こうへ」(2013 年 4 月発表アルバム『街の 14 景』収録)のネイキッド版なのかなって思ってます。最初は歌詞がちよっとフワッとしてたので、荒井とふたりで分かりやすくしてキャッチーな言葉があったらいいんじゃないかって話してる時に「ラブレター」って言葉が出たんです。言ってみたら、ラブレターって死語じゃないですか。若い子はもう告白を手紙で送らないでしょ？(笑) あったとしても、ギリギリ俺ら世代までかなと思うので、そういう世代感が出た言葉が面白くて入れたんです」

—— 歌詞は直接的じゃないですけど、「続く long long distance」《また会えればその時は言えるかな》とあり、コロナ禍以降にできたような印象を受けました。最後のフレーズの《いつか辿り着ける》ももどかしさの先にある希望を見る感じがします。

「荒井が書いたので僕は分かりませんが、そうかもしれないですね。聴く人にそういうふうを受け取ってもらえたら嬉しいです」

—— ネイキッドを始めてしばらく経つ中で、エレキとは違うアコースティックでの表現の面白さはどんなところに感じてますか？

「やっぱりアコースティック楽器なので、演奏のタッチがすごく出るんです。エレキだとこまかせるけど、アコースティックはすごくシビアだから、それがやって面白いですね」

—— より繊細なニュアンスが大事になってくると。

「そう。"the band apart(naked)"って名前は原がつけたんですけど、なかなか言い得て妙だったなと。やってて生々しいんですよ。気楽にやれるんだけど、エレキとは違う難しさがある。でも、それがすごく面白いし、楽しいんです」

—— 挑んでる感覚もありますか？

「ありますね。今回の曲で言うと、「夢太郎」は相当挑んだ感じが出てます」

—— そんな「夢太郎」について聞かせてください。

「これは俺が作った曲ですね。普通はアコースティックでやらないだろうってノリの曲を、あえてアコギでやったら面白いと思ったんです。洋楽ってどこかサビがはっきりしない曲が多いですけど、「ここがサビなのかな？」って塊でできる曲を作りたい。コンセプトとしてあったのは、うちの 5 歳の子供とコロナ禍になって遊ぶ機会がすごく増えて…女の子なんですけど、公園に行くとき清々しいほど無鉄砲なんです。見ていて「お前、そこまで木登るのか！ 降りれないぞ」と思ったり、滑り台を横から飛び降りようとするとか(笑)。それに感動したんですよ。そういうのって、歳をとればとるほどなくなるじゃないですか」

—— 安全を考えちゃいますからね。

「そういう今の自分と真逆な感じを音楽に変換できないかなと思ったんです。イントロの無鉄砲な感じだったり、洗練されてないダサカッコいいものにならばいいなと」

—— 歌詞も「狂ったレインボウ」とか無鉄砲感がありつつ、前向きさを感じますね。

「そうですね。今ってひどいニュースには事欠かないじゃないですか。そこにシリアスに向き合ったものより、俺が 5 歳児の無鉄砲さに感動したような清々しいバカばさのほうが活力になる気がするんです。これもふざけてるっぽい歌詞ですけど、根

本的には子供が希望の塊みたいなのと同じように、ほっこりしつつも明るくなれるものになったらいいなと思って言葉を選びました」

—— では、温かいメロディーが響く「Where the light is」は？

「荒井が作った曲で、ももとのデモにはピアノが入ってたんです。最初はギターで弾くって言ってたけど、ネイキッドは何をやってもいいし、「ピアノを入れちゃおう」って三浦康嗣(□□□(クチロ□))に弾いてもらったんです。歌詞は日本語で作ってたけど、ちょっと内容がエモい感じなんですよ」

—— 困難が教えてくれる大切なものというメッセージが詰まっていますね。

「それをまんま歌うとクサイ感じになっちゃい、恥ずかしいない日本語にしたいことがぼやけちゃうんです。なので、英語で作り直しました。英語は耳慣れしてるし、興味ある人は歌詞カードを見れば意味も汲めやすしね」

—— では、アルバムが完成しての手応えは？

「かなりあります。特に新曲は 3 曲とも新しい試みが入ってるし、まとまりがある感じになったなと。アルバムの的にも過去曲半分と新曲半分ってバランスで、曲数も 8 曲っていう謎の単位が聴きやすいと思いました。そういうサイズ感も含めて、ネイキッドでのいいバランスが見つかったと思います」

取材：土屋恵介

okmusic

このインタビューの全文を公開中！▶



『3』



Album 5/19 Release
asian gothic label
ASG-052
¥2,400(税込)

music UP's a!

今月のお題：「今、気になっている人」

■多井隆晴

「日本にも麻雀のプロスポーツ化を目的とした、競技麻雀のチーム対抗戦のナショナルプロリーグが 2018 年にできたんですよ。以前はトーナメントに参加するにもお金がかかったんですけど、それが年俸制になったりとガラッと環境が変わって、多井隆晴さんはプロの雀士なんですけど、環境が変わってからの「チャンス逃すまい」とするバイタリティーが M リーグの選手の中でも一番にあると思っていて、ご本人のキャラクターもすごく面白いので気に入っています」

KOGREY DONUTS

ちょっとでも好きって曲があれば 俺と波長が合うと思う

the band apart(以下、バンアパ)のドラマー・木暮栄一が、KOGREY DONUTSとして初のアルバム『NIKKI』をリリースする。バンド内での作詞作曲にとどまらず、DJや楽曲提供、リミックスも積極的にこなってきた木暮が、バンアパともまったく違う、ブレイクビーツ感たっぷりの作品を作り上げた。



——ソロ活動はいつ頃から始まったんですか？

「2015年の『RECORD STORE DAY』限定で7インチ(HKWDI City)/eiichi kogrey)を出した時が最初ですね。もともとバンド用のデモを作ってる時に煮詰まって、現実逃避する感じでサンプリングをチョップしたり、完全に趣味で音源を作ってたんです。なので、趣味で作ってたものが世に出たって感じが始まりでした。で、2016年の『RECORD STORE DAY』でもシングル「Little Spring/Madder」を出したんです」

——当然ソロとバンドでは曲を作る上で違いが出てくると思うんですが、どんな立ち位置で制作されていますか？

「バンアパの場合は楽器的な縛りがあるし、自由度のあるthe band apart(naked)(以下、ネイキッド)にしても荒井が歌って、

他のメンバーが演奏して面白く成立させるって枠は決まってるんです。でも、ソロの場合は、ほんと外の目線を気にしてないです。ほぼ100パーセント自分の趣味で作って。そこはすごく違いますね。サンプリングもするし、どんな楽器の音色を使ってもいいし、何をやってもいいので本当に自由にやります」

——なるほど。今回のソロアルバムを作ろうと思ったきっかけは？

「そもそもは、2015年以降の自分の曲をひとまとめにしてもいいのかなって思ったことですね。出していた曲が6曲あったし、今回入れてないものもあるんですよ。すでにある曲をリアレンジして、新曲を足したらアルバムサイズになると思ったのがきっかけです。で、新曲を作り始めて」

——新曲は何曲入ってるんですか？

「『音楽町ライン』『Memory Lane』『ささ

らぎ団地』『鎮守の森ミュージアム』『春夏秋冬』の5曲です。でも、新曲を作り始めたら前の音源が全然気に入らなくなり、やり直す羽目になって(笑)。以前のまま収録してるのは『Madder』だけで、それ以外はリメイクと新曲です」

——ほぼ全部作った感じですね。『音楽町ライン』はブレイクビーツ感がたっぷりで。これは自分が青春期に聴いてた、90年代～2000年代のサンプリングオリエントだった頃のヒップホップの感じを、自分なりに作ったらどうなるのか興味があって作り始めたんです。そのために機材も買って、結構楽しんで作りました」

——自分のルーツが出てると。『ルーツのオマージュですね。自分が初めて出した『HKWDI City 2020』も、クラブに行き始めた頃にかかった1990年代のR&Bみたいなノリが発想のもとだったんです。今回、その上モノとビートを部品交換して、歌詞も今のコロナ禍を具体的に言葉として残したくて『亜塩素酸水飲み干して』とか入れてみました(笑)」

——(笑)『Memory Lane』はフルカフユタカさんのギターがフィーチャーされていて、メランコリックなサイケ感のあるナンバーですね。

「もともと作ってたピアノのループに、枯れたドラムの感じを入れたかったんです。今の世の中の音楽って、だいたい音圧が高いじゃないですか。それと真逆のベクトルの、叩き方も音もやる気がないような感じにしたいなと思って。あと、ピアノのサンプルをピッチシフターで動かして音階を作ってるところがあるんですけど、聴く人が聴くと気持ち悪く思うかもしれないです。でも、それが俺の中のヒップホップ感なんですよ。そういうふうで作ってきたトラックに、一見フィットしなさそうな正統派の激ウマギターが乗ったらどうなるのかと思って、フルカフユタカに弾いてもらったんです」

——結果的にKhuangbinみたいにな

りましたね。『まったく狙ってないですけど、そうなったのなら良かったです」

——話をうかがっていると、かなり実験感がありますね。あと、楽器の音色の面白さで楽曲を構築してる感じがすごいです。

「100パーセント、そこですね。バンドだったら歌とメロディーに重きを置いて、フレージングだったりリズム展開を考えていくけど、作り方がまったく違うんです。この音色が好きだからこういうフレーズがいいな」って、音色に導かれるような変な作り方をしてるんですよ」

——作業はどのように進めるのですか？

「『NATIVE INSTRUMENTS Komplete』ってソフトの膨大な量のバンクから音を探すんです。いいのを見つけたら嬉しいじゃないですか。これを使ってやってみよう”っていう楽しみ方をしながら作りましたね」

——膨大な音色からいいと思うものを選ぶというのは、今の時代感っぽいですね。話が逸れますが、情報があふれてる中からいかに自分が選択してかたちにしていっていかか、今の世の中なのかなと思ったりするんです。

「そうですね。だから、自分としてもこのアルバムを出す意味があるとは思いました。本当に音色選びから曲から何から、超個人的な作品なんです。だから、自分の中ではタイミングとしていい時に世に出せたいと思います」

——あと、今回こだわった部分はどこですか？

「自分はドラマーだし、生ドラムでやるというのが今回のメインテーマだったんです。…と言いながら、1曲目から全然生ドラムじゃないんですけどね(笑)。で、リメイクする時に一番苦戦したのが『So Good 2020』でした。原曲はクラウドラップみたいな感じで、リズムが808の音だったんです。でも、生ドラムで作り直したら曲として成立しなくなっちゃって、生ドラムのほうへ無理やり寄せていったらまったく違うアレンジになっていきました(笑)」

——打ち込みと生ドラムで曲のアレンジ全体が変化したと。あと、『鎮守の森ミュージアム』もかなり不思議なビート感のナンバーですね。

「昔、『箱根 彫刻の森美術館』のCMってよくやってたじゃないですか」

——あのCMは、何とも言えない感じがすごく印象に残ってますね。

「シュールでちょっと怖いけどノスタルジックでもある。あの微妙な感じを音楽に変換してみたいと思ったんです。『箱根 彫刻の森美術館』のCMの妙なムードが、自分の中でおじいちゃんの家に行った時のことと結びついたんですよ。近くに鎮守の森があって、木が生えすぎていて、中に入ると暗くて怖かったっていう幼少期の思い出と、CMの感じが結びついて曲にしていきました。5連譜のちょっとつんのめったビートの上に、使いたい音色でフレーズ作ってあって、ある程度できた時に村田シゲ(□□□(クチロロ))にベースを好きなように弾いてもらうように頼んだんです。そしたらベースのフレーズをたくさん送ってきてくれたので、ベースのトラックを何本か入れました」

——最後に収録されている『春夏秋冬』はピアノをフィーチャーしたメランコリックなポップソングで、木暮さんが初ヴォーカルを務めているという。

「ソロアルバムだし、一曲くらい歌ってほしいかなって。これ、最初はバンアパ用のデモとしてピアノの打ち込みで作ったんです。でも、ピアノをギターに変換したら全然良くなって、バンドのネタとしてはボツになったんで、そのピアノをもとに構成とメロディーをつけて作ったんです。ムード的にもあまりバンアパにない感じになりましたね」

——歌詞はどんなイメージですか？

「ネイキッドの『夢太郎』(『3』収録)でも話した、無鉄砲な子供と遊んでる時に感じたこと、記憶に残ってる何気ない風景を書いた感じですね。人に自分の想いを100パーセント正確に伝えるのが難しいじゃないですか。その微妙な気持ちを歌詞にしたんです」

——なるほど。では、今回ソロアルバムを作っていく中でどんなことを感じられましたか？

「普段いかにバンドメンバーに助けてもらってるかが分かりました。例えばネイキッドの『夢太郎』も僕が作った曲だけど、もしひとりで作ったらあんな仕上がりににはならない。アウトプットが違うとまったく違うものになるんだなって。だから、やっぱり『NIKKI』は自分の趣味だと思います。作ってる時は夢中だったし、自分の中で完結してる作業って感じでした。これを世に出して否定されたら、バンアパの時よりも落ち込むかもなって(笑)。趣味が合わないのはいいけど、これが嫌いと言わ

れたら自分の全人格を否定されてる気持ちになるのかも…とは思いましたね(笑)」

——それだけ、木暮ネイキッドの作品である。『そうだと思います(笑)。2020年までのものはうまくまとまったら、のちに振り返った時に後悔しないものができたと思います。次はこういうのも作りたい」とかも出てきましたね。これがどういうふうに響くのかまったく分からないんですけど、ちょっとでも好きって曲があったら俺と波長が合うと思うんです。相当「俺」って曲ばかりなので」

——これ聴いて木暮さんと仲良くなりよう(笑)。

「そうっすね(笑)。アルバムを聴いて、俺と仲良くなりましょ！」

——ソロでの活動でこれからやってみたいことはありますか？

「音楽は好きなので、ソロはソロで永久にやると思うんです。バンドもですけどね。あと、昨年何個か違う畑の仕事をしたんですよ。さあ〜ずのライブとDVD用のオープニングとエンディングを作ったり、サントリオンって声優アイドルグループに楽曲提供をしたんです。人から注文されたものに自分が持っているものをフィットさせて作っていくっていうのが結構面白かったんですよ。それは自分でも意外でした。そういうのもガンガンやっていこうかなと思ってます」

取材：土屋恵介



このインタビューの全文を公開中!!▶



『NIKKI』



Album 5/19 Release
HKWDI Soundz
HKWDI-001
¥2,200(税込)
※CDはタワーレコード
渋谷・新宿店、FLAKE
RECORDS、物販オンラインストア「Donut Jazz」にて販売
■「Donut Jazz」
<https://donutjazz.thebase.in/>

Roselia

BanG Dream!
Episode of Roselia I :

約束

劇場版公開記念

POP UP SHOP IN TOWER RECORDS



©BanG Dream! Project / ©Craft Egg Inc. All Rights Reserved

劇場版「BanG Dream! Episode of Roselia I :約束」の
公開を記念して、タワーレコード限定グッズを期間限定で販売中!

詳細はコチラ▶



TOWER RECORDS



Music is Love

JAPAN MUSIC NETWORK
japanmusicnetwork.jp

BARKS

okmusic

全日本歌謡情報センター

Pop'n'Roll

イケてるハーツ 城木玲亜

アイドルメディア「Pop'n'Roll」のグラビア企画「from ワンルーム」のアウトテイクカット。記事では、1年越しの7ヵ月連続ワンマンライブに挑んでいるイケてるハーツの城木玲亜が健康的な美ボディをお届け。ちょうどこの時期に見頃を迎えるネモフィラカラーのランジェリー姿は必見！

撮影：曾我美芽
ヘアメイク：清水深優



MUSIC SUPPORTERS

インディーズシーンを引っ張るアーティストの情報を、インタビューで紹介していきます。
music UP'sのWebでは、インタビューの拡大版や過去の記事がまとめてご覧いただけます。
「MUSIC SUPPORTERS」で、あなたの運命のアーティストを見つけよう！



「MUSIC SUPPORTERS」
https://okmusic.jp/ups/music_supporters

愛はズボーン



Ｌ→Ｒ 白井達也 (Ba&Cho)、GIMA☆KENTA (Vo&Gu)、金城昌秀 (Gu&Vo)、富永遼右 (Dr)

アイハズボーン：2011年7月に結成、大阪・アメリカ村を中心に活動。高揚感を生み出すシーケンサーによるトランストラックと、ディストーションギターのロックサウンドによるアップテンポなサウンドを奏でる。結成10周年を迎えた21年5月に2ndアルバム「TECHNO BLUES」をリリース。メンバーは音楽のみならず、アート、ファッション、ゲーム配信など多岐にわたる発信をしている。 <https://wzbn.com/>



Album 5/19 Release
『TECHNO BLUES』
TOUGH&GUY RECORDS
TGUY-013
¥2,750(税込)

自由を謳歌する痛快なニューアルバム

新作アルバム「TECHNO BLUES」は、愛はズボーンのアイデンティティを決定的なものにした作品だ。GIMA☆KENTA (Vo&Gu)が「ジャンルにとらわれない愛はズボーンらしさをまとめることができた」と語るように、結成10周年を迎えて作られた2作目のフルアルバムには、彼らの自由なクリエイティブが詰まっている。顕著な変化はシーケンスを多用した音作りで、シンセポップやテクノからの影響が顕在化したところ。The Chemical Brothersからの影響を感じるダイナミックなサウンドや、開放感のあるサビのメロディーには、これまでになかったスケール感が備わっている。

「大きなステージで映える曲にしたい」と思いました。近距離のお客さんをびっくりさせる音楽はいっぱいやってきたけど、その集客では自分の求める景色が見えなくなってきたので、ホールで流れた時にドカン！と聴こえるものに挑戦しました」(金城昌秀)

音楽の変化だけではなく、彼らの精神性がストレートに伝わってくる作風も印象的だ。作品の冒頭と真ん中に配された「ぼくらのために」という楽曲は、彼らの活動のモットーであり、リスナーに伝えたいメッセージでもある。

「アルバム全曲のテーマとして「ぼくらのために」っていうのがあると思いますし、最近ライブのセットリストひとつとっても「ぼくらのために」がキーになっている気がします。全ての行動はまず自分のためであって、結果的にそれが人のためになったらいってだけなので」(GIMA☆KENTA)

「青春映画のサクセスストーリーみたいなのを求めてバンドをやっていたんですけど、やっぱり年齢やキャリアを重ねていくうちに現実がドン！って入ってきて…。だんだんバンドの見方が変わっていったんですよね。で、最後の最後にコロナ禍ですよ。4人それぞれ自分の生活を守らなあかんし、まずは自分の足元をどう固めるかを考えるようになりました」(金城昌秀)

キャリア10年、ロックンロールに夢を見て、理想と現実の狭間で転がって続けた彼らにしか鳴らせないサウンドが詰まった本作。「FLASH BEATS & JUMP」や「ぼくらのために part 2」の開放的なコースに、懐の深さを感じるのは気のせいではないだろう。

取材：黒田隆太朗

Star T Rat



Ｌ→Ｒ RIKI、ぽっつん、TAKUMI

スタートラット：2013年5月に結成された、RIKI、ぽっつん、TAKUMIの幼馴染み3人からなるヴォーカルグループ。16年4月よりStar T Ratとして活動始める。現在は関西を中心に、名古屋・四日市などでもストリートライブを行ない、精力的に活動中。17年3月に1stシングル「オレンジの雨」、18年9月に2ndシングル「ポジティブファイター」、19年9月ミニアルバム「STARTTRACKS」、21年4月に3rdシングル「暁」をリリース。
<http://d-promotion.com/str/>



Single 4/28 Release
「暁」
ニンクレコード
NKCD-015
¥1,500(税込)

今の僕らのリアルな気持ちを伝えようと思った

関西を中心に活動する幼馴染み3人からなるヴォーカルグループ・Star T Ratが3rdシングル「暁」をリリースした。聴く人たちの笑顔にするのが身上の彼らだが、新曲「暁」は初めて「自分たちに向けたもの」だという。

「昨年は新型コロナウイルスの影響で、本当に何もできない状態だったんですよ。でも、このままではいけないと思って、クラウドファンディングでご支援をいただいて、作品を作ろうと決めました。その時に、今の僕らのリアルな気持ちを伝えようと思ったんです。昨年は春・夏・秋・冬と4回やる予定だったワンマンライブが全部なくなってしまって、もう希望がなくなっちゃって、それこそ「解散するかも」っていうところまで追い詰められたくらい…。そんな僕らが、苦しんでいる人に無責任に「頑張れ！」とは言えないから、だったら自分たち自身に向けた応援歌を作って、それを聴いてくれた人が元気になってくれればいいなと」(RIKI)

「応援してくださっている方々にまだ何も返せてないのに、こんな状態で終わるのはいけないと思ったんですよね」(TAKUMI)

「4回のワンマンライブって、僕らの中でも人生を懸けてやろうとしていたことだったんですよ。それがなくなってしまったことが「傷」となり、でも諦めきれない「夢」もあった。それでまた頑張ろうと。その夢が「雲の切れ間に見えた暁 なんです」(ぽっつん)

カップリングには「OSAKA PARTY POP」というジャンルを掲げる彼ららしいEDM「DANCE DANCE」。(とにかく笑え)と煽るポップで親しみやすい「WA-HA-HA!!!」を収録。いずれも明るく楽しいナンバーだが、「暁」で自らの「弱さ」を吐露しているからこそ、この2曲での「踊れ」「笑え」というストレートなメッセージが説得力を帯びてくる。

「どんな客層であれ、どれだけの人数であれ、僕らはそこで思いきりパフォーマンスするんで、お客さんには笑顔になってほしいっていうだけなんですよね」(RIKI)
「僕らもずっと笑える状況ではなかったんですよ。でも、そういう状況だからって、いつまでも悲しんでられないじゃないですか。笑っていればいいことが起こるっていうことを伝えたいです」(TAKUMI)

「とにかく笑え」っていうことですね！」(ぽっつん)

取材：石川真勇

今までの作品で完成したのは『Second Kill Virgin』だけ

昨年11月にベースのあさかが加入し、第二章が幕開けした東京初期衝動。新体制第一弾となる3rd ED「Second Kill Virgin」は、夏への期待感やバンドの明るいムードも表れた「さまらび♥」とメンバーもイチオシのバラード曲「blue moon」、悲しい気持ちから吹っきてできた「春」の3曲を収録する、とことん自分たちの音楽に向き合った清々しい一枚だ。メンバーの満足度も高い作品に仕上がったそう。

「あさかが入って、今はこの4人でやっていくぞ！」という前向きな気持ちです」(まれ)
「アルバム「SWEET 17 MONSTERS」(2019年11月発表)は今も録り直したいと思ってんですけど、「Second Kill Virgin」はこれで完成です。今までの作品で完成したのはこれだけなんです。今回はあさかのバイスが最高なと、うちのメンタルの状況が良かったから達成感があるんだと思います。あさかはレコーディング中もケツの時間を気にしないで、自分の納得がいくまでずっと曲に向き合ってたんですよ。その姿勢がすごく良かったから自然とみんな真剣にレコーディングして、こんなの初めてでした」(しーな)
「自分のパートを録ってる時はしんどいと思うから、一緒にいたほうがモチベーションも上がるし、私は普通にやったつもりだったんですけど、みんなはいい方向に変わったなら良かったです」(あさか)

前作「LOVE&POP」(2020年4月発表)収録の「SWEET MELODY」では「壊れてしまふ僕の音楽」「壊れるくらいなら壊そうよ」と歌っていたが、一年かけて歌詞を書き直した「春」は「もう壊れたってかまわないよ」という力強い歌い出しが痛快だ。

「私はこの言葉を歌うまでに一年費やしたんです。レコーディングの前直前で歌詞を粘って、今までの東京初期衝動のことを数々詰めた曲です」(しーな)

ジャケットの黄色い背景はしーなの躁状態を表し、1st ED「ヴァージン・スーサイズ」(2019年4月発表)に共通するブルーや目が隠れている構造も取り入れ、「東京初期衝動は今で生き返る」というメッセージが込められている。

「あさかちゃんが入ってからの一作目だから…タイトルには「Second」って入ってるけど、第一歩目の作品です。この4人で新たな東京初期衝動を作り上げていきます」(なお)

取材：千々和音苗

東京初期衝動



写真左上から時計回り、まれ(Gu)、しーな(Vo&Gu)、あさか(Ba)、なお(Dr)

トウキョウシヨキショウドウ：2018年4月に結成。7月になお(Dr)が電撃加入し、ライブが本格始動する。19年11月に12曲入りの1stアルバム「SWEET 17 MONSTERS」を発表。20年には初の全メンバー「東京初期衝動の全国巡ナツツアー」を実施し、ファイナルの恵比寿LIQUIDROOMを会場に全公演のチケットが完売した。同年11月にあさか(Ba)が加入し、21年5月に現体制で初の音源となる3rd ED「Second Kill Virgin」をリリース。 <http://東京初期衝動.com/>



ED 5/12 Release
『Second Kill Virgin』
チェリーヴァージンレコード
CVR-0007
¥1,320(税込)
※初回生産限定盤

恋愛中の赤裸々な想いを綴ったラブソング

TikTokで250万人以上のフォロワーを持ち、ABEMAオリジナル恋愛リアリティーショー「恋とオオカミには騙されない」に“ちょこ”として出演し、話題を集めているりゅうと。彼は中学生の頃に清水翔太の歌声に出会い、シンガーを志したと話す。

「中学生の頃の自分は反抗期がひどくて、学校にもちゃんと行っていなかったんです。でも、そんな時に「ずっと味方だから」と言ってくれた担任の先生にだけは、唯一心を開いていたんですよ。その先生とは交換日記を通じて本音を話していました。それをきっかけに自分の感情を言葉にして、メモすることを始めたんです。同じ時期に清水翔太さんがカバーしている尾崎 豊さんの「Forget-me-not」を聴いて自分の心情と重なり、グッと心が動きました。その時に自分もいつか誰かの心を動かす曲を歌いたいって思ったんです」

その後、高校生となった彼が始めたTikTokは大きな話題を呼び、必然的にアーティストデビューへの道へとつながっていった。そして、中学生の頃から書いていたメモが新曲「My Only One」の種となった。

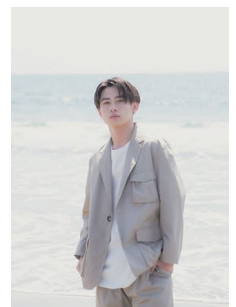
「僕が今までの恋愛で感じてきたことを書いたメモをプロデューサーのLinusさんに共有して作っていきました。恋愛中って、つらい想いや好きな人に望むもの、あの時、本当はこう思ってたんだよ」ということがたくさんあるんですよ。それらを赤裸々に歌詞にしました。『恋とオオカミには騙されない』が終わるタイミングでリリースされるので、きっと番組の恋愛と重なって聴こえる人も多いと思います。厳密に言うところ、そのことを歌っているわけではないんですが、重ねて盛り上がってもらえたら嬉しいですね(笑)」

アーティストとしての活動も始め、さらに新たな一歩を踏み出したりゅうと。今はさらなる希望に満ちている。

「芸能界に入っている人々とお出会う中で、自分に自信をなくしたりもしたんですが、「オオカミには騙されない」に出演し、いい仲間とお出えて一歩前進することができました。今後はアーティスト活動はもちろん、モデルの活動もしっかりしていきたいし、俳優業にも興味があるので、どんどんマルチに活躍できたらいいなと思っています」

取材：吉田可奈

りゅうと



りゅうと：ABEMAオリジナル恋愛リアリティーショー「恋とオオカミには騙されない」に出演し、TikTokのフォロワーは270万人を超える。2020年10月からは「Porteen」専属メンズモデルとしても活躍し、同年12月にLINE RECORDSから1st配信シングル「Day by day」でアーティストデビューを果たした。21年5月に2nd配信シングル「My Only One」を発表。 <https://ryuto-music.com>



Digital Single 5/19 Release
「My Only One」
LINE RECORDS

ライブハウス・Betaの支援のために、姫路のビジュアル系シーンを作った MASCHERA、ILLUMINA、TRANSTIC NERVE、DEVELOP FRAME、Psycho le Cémuの音源を収録するコンピレーションアルバム『VERSUS FATE』が制作された。第18回目となる今回の座談会企画は、同作をプロデュースする seek (Psycho le Cému)、姫路のシーンに欠かせない michi。(MASCHERA / ALICE IN MENSWEAR)、そして Beta Music 社長の田中克典氏を招いてお届けする。

A person in a blue and red costume with a mask featuring large, pointed ears, posing dramatically. The costume has a blue hood and a red, textured bodysuit. The mask is blue with large, pointed ears and a red band across the eyes. The person is holding their hands near their face in a dramatic pose.

A person in a pink and white costume with a matching hat, holding a small object.



Dr. Y. Kikuchi



music UP's 33

■ 宮野真守 ■

シングル「透明」のカップリング曲「残照」の話の中に出てきたということで（カップリング曲についてはWEB版で！）、取材後は編集部石田と太宰 治について議論を交わした宮野真守。「自分を卑下しつつも自分のことが大好きな人なんだというのは、『人間失格』を読むだけで分かりますよね」という話を入口に、「実はいろいろ計算されて書かれていて、自叙伝ではないそうなんですけど、絶対に自分のことを書いていると思うんですね」など、最後に意外な話で盛り上がった取材でした。

■ バンドじゃないもん！MAXX NAKAYOSHI ■

メンバーが語ってくれた「music UP's Q!」の「今、気になっている人」は、コーナー枠に入りきらなかったお話がいっぱい！鈴姫みさこはひとりに絞られず、女性でAV監督をしている真咲南朋さんも挙げており、Creepy NutsのR-指定が「AVで泣いた」という話を聞いてから作品を観るようになったそう。恋汐りんごはバーチャル YouTuberの兎田べこの話をきっかけに、以前から自分自身をバーチャル化することに興味があることも口走っており、「恋汐りんごを保管しておきたいけど、生身の身体だと限界があるからバーチャルに保管する方法を考えてます」と、面白そうな話をしてくれた。さらには、ななせくみが気になっている管理人さんとの仲良くなったきっかけは「部屋に大きいバツが出た時に管理人さんをお呼んだら、袋に入れて持って行ってくれた」ことも教えてくれて、ミニコーナーでありながらも充実した回答をいただきました！

■ Baby Blue ■

メンバーはフィリピン在住ということで、リモートで行なわれたBaby Blueの取材。言語も英語となるため、インタビューは帰国子女でもある金澤隆志さんが担当。ルックスは厳ついのだが（失礼！）、3人とフレンドリーにコミュニケーションをとって、アットホームな雰囲気な話を進めてくれた。そんな中、原稿には入らなかった質問に「好きな日本語の言葉」があったので、ここで紹介したい。COLEENは響きが好きなということで「コンニチハ」、JANは「カッコヨクナリタイ」と日本語で答えてくれた「カッコイイ」、AMYは日本のファンのみんなに直接会って伝えたいということで「アイシテル」のこと。コロナ禍が収束したら、ぜひ日本に来て、その言葉を使ってもらいたい。そして、ツナマヨのおにぎりも！（その理由はWEB版で）

■ angela ■

取材で遠藤正明をゲストヴォーカルに迎えた「Battle & Message」についてうかがっている時、atsukoが「令和版「3年目の浮気」を作らなかった」と話していると、ライター清水素子さんから「3年目の浮気」には次作があって、「5年目の破局」があるんですよ」とangelaの取材恒例の豆知識が飛び出した！atsukoもKATSUもびびくりしながら「えっ！結局は破局するんですか!?全然知らなかった(笑)。どんな感じの曲ですか?」と大いに脱線するひと幕が。インタビューでも「じゃあ、もう一曲作ろかなあ」とatsukoが語っていたが(WEB版に掲載！)、「Battle & Message」の続編として「令和版「5年目の破局」」が届けられることを期待したい。

■ Dizzy Sunfist ■

ZOOMでの取材だったDizzy Sunfist。まずは「music UP's Q!」の質問をあやべた→いやま→moAiの順に答えてもらったのだが、いやまが話している時にmoAiがなぜか笑いを堪えていた。そして、moAiに順番が回ってくると「石田さんの背景の画像が「徹夜の部屋」になっているのが可笑しくて(笑)。めっちゃジワジワくる。いやー、招かれている感があるんです！(笑)」と話す、も「ほんまや！めっちゃ面白い(笑)」と他のふたりも大爆笑。いい感じに場が和んだところから取材が始まったのでした。

■ 前島真由 ■

「music UP's Q!」でISSAへの想いを語ってくれていたが、本編のインタビューの冒頭でライターのかべとんさんがISSAのエピソードを紹介したことで、さらにその愛が爆発！「自分が歌うようになると、歌えば歌うほど尊敬でしかなくて。それまでは純粋に見た目と歌声とダンスが好きだったんですけど、もはやファンという感覚ではないですね。どうやったらそんなふうになれるの?」とてと音楽専門誌的な発言も。なので、そこはこのコーナーで取り上げさせてもらいました。

Vol.200は6月20日発行予定。お楽しみに!!

TK from 凛として時雨のインタビューはEP「yesworld」に込められたTKさんの感情的な想い、あからさまな想いなど、世の中の現実を聞き手へ突きつけるように表現されていて言葉に力があり、深く心に響きました。楽曲を聴きながら記事を何度も何度も読ませていただきました。

(30代女性恋するペンギン)

W表紙で特集されていた上坂すみれさん目当てで冊子を入りました。最新シングルの歌詞について、上坂さん特有の「話の飛躍」がうまく表れていて良かったです。また、シングル3曲目の歌詞についての「なんだかエッチな歌に聴こえました」というインタビューの感想に対して、「単にあなただの心が濁っているからです」と切り返していたのには笑いました。ライブでは乙女のように黄色い歓声をおじさんの多いファンにあげていただきたいということが分かったので、鋭意努力したいと思います。

(30代男性むじろし)

長いキャリアを重ねたZIGGYのニューアルバムインタビューは、最強で最強であることがとても伝わる素敵な内容になっていて、とても読み応えがあり、面白く、そして嬉しかったです。これがフリーペーパーだなんて驚きすぎるって思いました。

(40代女性MEGU)

SATO さんのインタビューは人柄とMUCCやファンへの想いがとても伝わってきて、読んでて胸がアツくなりました。自分はまだSATO さんがMUCCからいなくなってしまうことに気持ちの整理ができていないところもあるのですが、SATO さんが吹切れているなら、これからのSATO さんが笑っていられるなら、これで良かったのかもしいないと少しずつ気持ちを切り替えていきたいと思います。

(30代女性エリザベス)

奥井雅美さんのインタビューをありがとうございます。アルバムについてたくさんのお話が読めて嬉しかったです！JAM Projectとして、ソロとして、いろいろな一面を見ることができてとても素敵な内容でした。

(20代女性なよ)

内田雄馬さんのインタビューは、楽曲の話から子供の頃の話まで話題が広がって、アーティストのことをより理解できる記事でした。

(20代女性カンソヨン)

ナノさんのインタビューはセルフプロデュースで作ったミニアルバムについてアツク語っている様子が目に浮かぶ内容でした。新しいナノさんという印象がとても強く出ているアルバムなので、好きすぎて購入後は毎日聴いています。読者へのサインに虹を描くあたりもナノさんらしくてクスクスとしました。

(40代女性YOKO kerako)

すーと好きなのですが、未だ謎の多い清 竜人さんの今のマインドについて知れました。清 竜人第2章、楽しみです！

(40代女性こしね)

畠中 祐さんの記事は曲に対する思いがしっかり伝わってきて、声優さんとしての一面とアーティストさんとしての一面とまったく違うけれど、どこかにしっかりと彼の人間性に通っているのが感じられ、とても興味深かったです。購入済のCDが届いたら、今回のお話を思い出しながらゆっくり聴きたいと思いました。

(40代女性こしね)

堀込泰行さんインタビューはアルバムの作り方やコンセプトは他の媒体でも訊いているが、4人での共同プロデュースを「プロジェクトチーム」とか、今回のアルバムを「屈託がない印象」とか、他では出てこないワードで分かりやすく置き換えてくれていることで話も膨らみ、読んでいて「そうそう」「や」「そうなんだー」となりました。聞き手がいいんでしょね。そして、冊子版をもらってきたら、WEB版にはなかった「今、ハマってること」が読めてすごい得した気持ちです。頑張ってるショップに行くと良かったです。こういうのが実は一番楽しみなもので。

(40代女性すすかけ)

石原夏織さんの記事は「Plastic Smile」やカップリング曲「君に空とクローバー」のお話だけでなく、ジャケットやアニメについてまで質問していただけて嬉しかったです。

(10代女性もな)

それでも世界が続くならの記事に、ただただ勇気づけられた。

(10代女性Yuuri)

KitriのHinaさんの「music UP's Q!」の回答にクスクスとなりました。Hinaさん、お菓子は正義ですのでやめられませぬ。

(40代男性よしゆき)

林原めぐみさんの「Key Person」、自分の世代には懐かしい斯波重治さんのエピソードに感銘を受けました！

(40代男性Kenji)

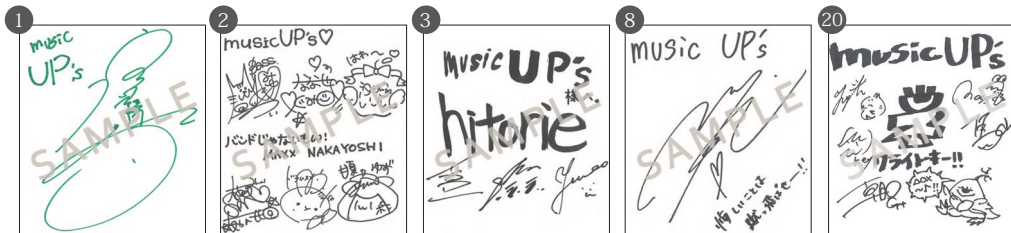
電子で読ませていただいたのですが、今回は好きなアーティストが多くて紙媒体でも欲しくなりました。そして、推しである内田雄馬さんの記事はもちろん良かったのですが、初めてmusic UP's さんを読ませていただいて一番面白い！と思ったのは、「スターの証明」のページでした。工藤静香さんは言わずと知れたすごいアーティストさんですが、著名人の視点から語られることで、改めて彼女のすごさが分かるのは面白いコーナーだと思いました。

(20代無回答・11月生まれの忍者)

「Editor's Talk Session」を読んで、現代の世論が求める音楽の在り方と「音楽は、レーベル会社はこうであるべき」という概念を追った今の業界の動きを知ることができました。コロナ禍である現在、どの業界も悶々として滞っていますが、やっぱり音楽の力は無限大だと活力をもらえました。

(20代女性なぎさ)

music UP's 読者プレゼントコーナー



直筆サインを
各1名様に
プレゼント!!

- | | | |
|-----------------------------|---------------------------|-------------------|
| 1. 宮野真守 | 8. 小松未可子 | 14. GOD & SIZUKU |
| 2. バンドじゃないもん！MAXX NAKAYOSHI | 9. 内田 彩 | 15. 大柴広己 |
| 3. ヒトリエ | 10. PERSONZ | 16. Baby Blue |
| 4. angela | 11. THE COLLECTORS | 17. B.O.L.T |
| 5. ウォルビスカーター | 12. the band apart(naked) | 18. she9 |
| 6. MORISAKI WIN | 13. 港町ぎんざろうと | 19. Dizzy Sunfist |
| 7. 前島麻由 | バスエのキャパレーズ | 20. ネクライトーキー |

Vol.199の締切は6月19日。当選者の発表は発送をもって替えさせていただきます。

▶ 読者プレゼントの応募やコメントはTwitter & 読者プレゼント専用フォームから ◀

★ Twitterからの応募

- music UP'sのTwitterアカウント (@music_ups) をフォロー。
- 希望のアーティストの直筆サインプレゼントについてのツイートをリツイート。

※いただいたコメントは「Listener's Voice」内でご紹介させていただきます。ご了承ください。
※当選者にはDMにてご連絡させていただきます。

music UP's Twitterアカウント ▶
https://twitter.com/music_ups



★ 読者プレゼント専用フォームからの応募

music UP's 読者プレゼント記事よりご応募ください。コメントもお待ちしております。

※いただいたコメントは「Listener's Voice」内でご紹介させていただきます。ご了承ください。
※当選者にはメールにてご連絡させていただきますので、予め「@music-ups.jp」のドメイン解除をお願いいたします。

music UP's 読者プレゼント記事 ▶
https://musicups.page.link/2105_present





6/19 (SAT) 6/19 (SUN)

OPEN / START 11:30

O-EAST / O-WEST / O-nest / O-Crest
duo MUSIC EXCHANGE / clubasia
LOFT9 Shibuya / 他

<第一発表>

DJ やついいちろう

エリ片 / 阿佐ヶ谷姉妹 / アップアップガールズ (仮) / illiomote
小沢一敬 (スピードワゴン) / Kaede (Negicco) / Calmera / 吉川友 / ザ・ギース
奇妙礼太郎 / ゲッターズ飯田 / GOING UNDER GROUND / Cody・Lee (李)
佐藤千亜妃 / サニーデ・サービス / 浅さ知らず特別編 / 曽我部恵一 / THE ティバ
でんぱ組.inc / ばいばいであめ / ばってん少女隊 / # パパバパンビ / PARADISES
PIGGS / 扇村あき / ラブレターズ / れいちょ / ワンダフルボイス
※Kaede (Negicco) は新潟よりオンライン参加予定

Ticket VIP ¥35,000-[D代別] / 通常 ¥7,000-[D代別]



※新型コロナウイルス感染拡大状況や、政府や自治体からの要請によっては、中止・延期となる場合や、公演内容が変更になる可能性があります。最新情報は、各公演のお問合せ先やホームページ等でご確認ください。

TSUTAYA O-EAST TSUTAYA O-WEST TSUTAYA O-nest TSUTAYA O-Crest

INFORMATION

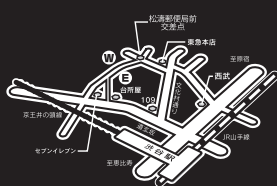
公演に関するお問い合わせは直接各店舗までお願いします。

TSUTAYA O-EAST TEL:03-5458-4681

TSUTAYA O-WEST TEL:03-5784-7088

TSUTAYA O-nest TEL:03-3462-4420

TSUTAYA O-Crest TEL:03-3770-1095



全日本歌謡情報センター編集長 仲村 瞳の スターの証明

歌謡界のスーパースターと称される人物を取り上げ、さまざまな資料から、その人物の“すごさ”を浮き彫りにする証言集。今回は昭和を代表する歌姫・中森明菜をフィーチャー。彼女のオーラとパフォーマンスは、超大物スターたちをも刺激した！ まさに生きる伝説の数々だ。

「カッコ良かったよ、中森明菜ちゃんって。…俺が感動したのは、凄いい声援やねんね、『明菜！セーの、明菜！』って<中略>それで歌を歌う時に、明菜ちゃんが客席から登場するんやねんけど、『静かに。イントロ聴こえない』って、ファンに怒りよってん<中略>「カッコええなあ、こいつて思っ(笑)。ちゃんと歌いたいから。声援でイントロちゃんと聴こえないからって言って、注意しよった<中略>それを見て「カッコええなあ、この子。プロ中のプロやな」って思ったのは覚えてるな」



コメディアン・明石家さんま
「livedoor NEWS」
(明石家さんまが語った中森明菜のエピソード
「俺が感動したのは…」
／2015年11月16日公開)より

「中森明菜は『少女A』を歌いたがらなかったといひます。このAは明菜のイニシャルでしょう！？と。それもあって内容が彼女にはリアルすぎたのです、不良っぽい主人公ということを含めて。僕は彼女についていっさい知らなかったのですが、期せずして彼女の私小説を書いってしまったようです。奇蹟めいてますね。<中略>それでマネジャーが『レコーディングの一回だけでいいから。あとは歌わなくていいから』と説得し、明菜はふてくされて歌った。このふてくされ感がよかった。『少女A』は見事に大ヒットし、この後、僕は多くのアイドルの作詞を手がけることになります」



作詞家・売野雅勇
「週刊朝日」
(作詞家・売野雅勇インタビュー
「80年代のアイドルブームは
詞がキャッチコピーになって生まれた」
／2016年7月12日公開)より

「小さい頃から大好きで、よく歌っていた曲(1/2の神話)」です。当時は意味もわからず、ただかっこいいと思って真似てしまいたいけど、(半分だけよ 大人の真似)って、大人に向かって歌っていて、毒づき方も本当におしやれですよ。どうせ反抗するなら、ってエンターテインメントにしてしまう愛が、女性をも惚れさせてしまうのかなと思うんです。これはたぶん、大人が歌っても響かなくて、10代のあどけないボーナールで歌うからこそ響く。それを演じられる中森さんすごいし、その刹那のきらめきみたいなものにみんな惹かれるんですよね」

シンガーソングライター・家入レオ

「S.M.」(THE ONE I LOVE

「10代のあどけないボーナールで歌うからこそ響く、

家入レオが「愛」を感じる曲

「1/2の神話(中森明菜)」

／2018年3月1日公開)より



音楽家・小倉ラージ
「Real Sound」(中森明菜はなぜ「かけがえのない存在」であり続けるのか
小倉ラージ氏の証言とともに
ライブ映像を振り返る
／2020年6月11日公開)より



「僕が作品を提供した頃の中森明菜さんは、すでにヒット曲も多数で、圧倒的な存在感があったわけです。そこからのオファーですから、プレッシャーがありました。<中略>康珍化さんがつけてきた曲名はミッドナイトフライト)だったので、中森明菜さんが考えた「北ウイング」というタイトルに変えることには反対したんです。でも、振り返ると、あの時に「北ウイング」と名付けた中森明菜さんのアーティストとしての直感はわかりますね」

第24回／中森明菜



なかもりあきな：1965年7月13日生まれ、東京都出身。歌手、女優。1982年、シングル「スローモーション」で歌手デビュー。同年の2ndシングル「少女A」が大ヒットし、一躍トップアイドルとなる。

1985年の「ミ・アモーレ(Meu amor é...)」と1986年の「DESIRE -情熱-」で2年連続となる日本レコード大賞を受賞。今もなお、幅広い世代を魅了し続ける、真正正銘の歌姫である。



作曲家・林 哲司
「出典：「日本テレビ音楽株式会社」
(作家インタビュー・林哲司さんインタビュー
／2020年12月9日取材)より

完全生産限定盤
「ANNIVERSARY COMPLETE
ANALOG SINGLE COLLECTION
1982-1991 [30枚組]」

2021年6月9日発売



WPZL-31821/50 ¥48,400(税込)
※1982年5月1日、「スローモーション」のデビューから40周年目を迎え、アニバーサリー企画第1弾としてリリースされる、全シングルの2014年リマスターによる30枚組7インチ/12インチ/カセットボックス！

全日本歌謡情報センター

この記事と他の証言を掲載中▶

Key Person

自分たちをカッコ良く見せられるのは 自分たちしかない



J-ROCK & POP の礎を築き、今なおシーンを牽引し続けているアーティストにスポットを当てる企画『Key Person』。第 14 回目は 2002 年の結成から来年で 20 周年を迎える LACCO TOWER の松川ケイスケ (Vo.)。長年バンドをセルフプロデュースする中で自分が強くこだわっている部分と、それでも“周りの人に育てられた”と語る真意に迫った。

“カッコつけすぎて”と 引かかった部分を突かれた

— 2001 年に結成した前身バンドを経て、02 年 7 月に渋谷 CYCLONE で LACCO TOWER としての初ライブが行なわれましたが、当時はどんなお気持ちだったのでしょうか？
「その結成日までにいろいろあったので、僕は普通に集まって渋谷 CYCLONE でライブをしたわけではないんですけど、バンドではなくアイドルっぽい売り出し方に少し疑問を感じていて。それを経て、お世話になっていたライブハウスの店長さんをはじめ、周りの方の力を借りて、なんとか初ライブの日を迎えたから、“ようやくライブができる”って気持ちでした」

File 14, LACCO TOWER 松川ケイスケ (Vo.)

ソールドした時は本当に嬉しかったです。バンドとしてもそれが初めてのソールドだったんじゃないかな？ 高崎に移転したあとも思い出があって…演奏中にバタが飛んできたこと(笑)、先輩方と対バンしたのもそうだし、思い出のひとつひとつに FLEEZ が入ってます」

— 結成時からライブハウスとのつながりは大事だったと思うんですけど、特に背中を押してもらった人はいましたか？

「仙台の長町にある LIVE STUDIO RIPPLE に僕らの 2、3 個年上の店長がいるんですけど、初めてのツアーでライブをした時に“お前は明日解散すると思ってライブをやらない”と言われたのをずっと覚えてます。普段は本当にちゃんぽんな人なんですけど(笑)、“だから、解散ライブをするバンドには勝てないし、いいライブができないんだ”と言われて、“明日解散するわけじゃなくて、来ているお客さんにとってはそれで終わりがもしれないし、一回一回の出会いはそのでしかないから、それくらいの気持ちでやらないといけない”って思い直しました。あとは、音楽仲間と先輩なんですけど、back number を 2 年くらいツアーに連れて行った時、清水依与吏に急に呼び出されて“ケイスケさんはカッコつけすぎて”って夜に説教をされたことがありました。あいつも酔っぱらってたんですけど、それすごく記憶にありますね」

— 後輩なんですよ？ (笑)

「はい。今考えてもどついたらなあかって思いますけど(笑)。そのふたつの言葉は誰かが言ってくれそうでも言ってくれなかったことだったので、すごく心に残ってます」

— 松川さん自身も気を張ってた時期だったのでしょうか？

「そうですね。どう魅せるかっていう部分でも気を張ってたし、自分の中でも引かかった部分を突かれたので奮いたんだと思います」

— LACCO TOWER の歴史をおうかがいする上で、13 年に塩崎啓示 (Ba) さんが代表取締役となって株式会社アイロックスを設立したことも重要な出来事

だと思うのですが、そこにはどんな決意があったのでしょうか？

「もともと DIY が染みついていたバンドではあったので、社会的にも認められるようなカタチでやっていこうっていうのが一番大きかったから、全然違うステージに行こうとしたっていうより、暑いからクーラーの温度を下げるみたいな感じでしたね(笑)。やるならちゃんとやるかって。啓示をリーダーに指名したのは僕なんですけど、彼の人柄もあって周りの反対もなかったです」

— 自分たち合ったバンドのスタイルを見つけていく中で、松川さん自身が先ほどの気を張っていた状態から変わっていった感覚はありましたか？

「毎日変わっている気がするんですよ。思い返してみても“ここで変わった”というのがなくて、本当に徐々に変化してます。昨日は正しいと思ってやったことが今日は違う気がしたり、“ここがターニングポイントだ”って言えるほど自分が成長できてないのかもしれないですね」

LACCO TOWER の活動が ひとつの生き方になったら

— LACCO TOWER がこだわってきたことのひとつに“セルフプロデュース”があると思いますが、そこにこだわる理由は何ですか？

「こだわってた言うて聞こえがいいんですけど、たぶん“自分たちをカッコ良く見せられるのは自分たちしかない”ってどこかで意図地になってたんですよ(笑)。それって、猛烈な自信と、猛烈な無知識が備わっていたからこそ、そう思っていたんじゃないかなと。今では仲間のバンドがやっていることや、音楽に触れたり、年齢を重ねていく中で、改めていろんなものを取り入れることの大切さも感じてます。でも、一周回った今でも“自分たちのことは自分たちが一番よく見られる”って思ってるところはありますね。前ほど“こうじゃなきゃいけない”という感じではないんですけど、例えば“自分にはこの髪型が似合う”ってあるじゃないですか。でも、美容室に行ったら意外と“これもいいかも!?”ってなる感覚もある。だけど、そのために美容室に行くことをそんなに大事には思っていないというか」

— 言葉にすると LACCO TOWER のそのスタイルは孤高のバンドのように聞

こえるかもしれませんが、2014 年から開催している自主企画『I ROCKS』でたくさんバンドとライブを作り上げていることもあって、LACCO TOWER に対して一匹狼なイメージはまったくないです。ご自身では LACCO TOWER をどんなバンドだと思ってますか？

「面白いバンドだなんて思います。いよいよ結成 20 周年を迎えて、こんなに素直なバンドは珍しい気がするし、まだ伸びしろがあるように感じるのもすごいことだと思いますね。孤高なバンドって、たぶん男の子として憧れていた部分はあるんですけど、それになれなかった僕らの弱さというか(笑)。よく言えば、そのへんの可愛らしさもあって変なバンドだなと。〇〇っぽい”っていうのがあまりないので、LACCO TOWER の活動がひとつの生き方になったらいいなと思います」

— 孤高になれなかった弱さというより、いい意味で頑固すぎなかったのではないですか？

「全然頑固じゃないですね！ いや、頑固なのかな？ (笑) 自覚はないんですけど、周りから見たら頑固なバンドかもしれないです。自分の中に譲れない部分があるというか、何をしても“どういう意味合いを持ってそのことをやるのか？”にはこだわりがあると思います。その行動が合っているかどうかではなく、どんな想いがあるってやつのかをちゃんと答えられるかどうか」

— 21 年 3 月にリリースしたアルバム『闇夜に烏、雪に鷲』がベスト盤ではなく、“黒白極楽曲集”であることもそうですね。

「そうですね。そういう“なぜこれをするのか？”という部分ではメンバーとも喧嘩します(笑)。決まる時にフツツとしてても、そこにもちゃんと想いがあるはずだから話したいっていう面倒くさい性格ではありますね」

— ひとつひとつの行動に対する意思をしっかりと確認している中で、LACCO TOWER がメジャーシーンで音楽活動をしていくことをどう受け止めていますか？

「メジャーとインディーの違いというより、気の合う仲間と一緒にやって楽しい人たちがメジャーにいたというか。バンド活動でいろんな人と巡り会ってきたけど、最初から腹の中まで見せることはできないし、仕事上の話であればそんなことは起こり得ないのかもしれない。それでも“この人を喜ばせたい”と思える人であるかどう

かが僕の中ですごく大事で、その喜ばせたい人たちと一緒にやっていける環境がたまたまメジャーだったのかなと。結果論ですけど、そう思います。バンドにとっても大きい出来事で、“メジャーデビューしなせ！”みたいな若い気持ちもありましたけどね」

— バンド結成時から自分の気持ちだけでなく、周りの人との意思疎通もすごく大事にされていますよね。

「そうですね。所詮は楽器しかできない 5 人っていうのもあるので、人の支えがないと何もできない。このコロナ禍の中で、自分ができないことをやってくれる人が周りにいるのはすごく幸せなことだなんて感じました。自分たちでは分からないこと、気づかないことを与えてくれたり、今までに意思疎通ができなかった人もいましたけど、それでまた周りの人に育てられたと思っています」

— そんな今までの活動も振り返って、松川さんのキーパーソンとなる人物はどんな人ですか？

「音楽面で言うと、僕は TULIP が好きなので財津和夫さんなんですよ。歌詞を書くというルーツを作ってくれた人なので。でも、生き方だったり、大事なタイミングで思い出すことがあるのは依与吏かもしれないですね。最前線で活動し続けていて、“だからこそ”って思ってる僕らもいるし、自分の気持ちを奮い立たせてくれたり、当時言われたことが心に残っているっていうものもあるし。10 年振りくらいに会った時、白い服にワインをこぼされましたね。後輩だから 2 発分どついたらなあかんと思うんですけど(笑)。んー、あいつをキーパーソンにするのはちょっとしゃくやな…」

— あははは。ちなみに他にも思い浮かんでる方は？

「一回バンドを辞めようと思った時に助けてくれた SUPER BEAVER の渋谷龍太だった…あと、同い年でいつも悩みを聞いてくれるのが中田裕二で。まあ、やっぱりあいつのおかげで頑張ってる場所もあるので、キーパーソンは back number の清水依与吏ですね」

取材：千々和香苗



港町ぎんぢろうと バスエのキャバレーズ

“港町ぎんぢろう”は空想のキャラです！

年齢国籍不詳のハードボイルドシンガー・港町ぎんぢろう率いる、港町ぎんぢろうとバスエのキャバレーズが2nd アルバム『ウォンチュー！』をリリースする。歌謡曲や黒人音楽をベースとしたビッグバンドの豪華サウンドに乗せた甘くハードボイルドな歌声と、昭和テイスト漂う怪しくお洒落な世界観に酔いしれる！

——まずは“港町ぎんぢろうとは何者なのか？”というところからお聞きしたいのですが。

「“港町ぎんぢろう”とは僕の空想の中のキャラクターなんです。昔からそういう空想をするのが趣味で、僕の中に設定や物語があり、そこから生まれたキャラクターなんです。あとは、僕が幼少期から経験したことや育った環境、周りの人から受けた影響がリンクして、港町ぎんぢろうというキャラを作り上げています」

——現実をもとにした架空の人物なんです（笑）。港町ぎんぢろうはやっぱり横浜生まれ、横浜育ちなんですか？

「港町ぎんぢろうは横浜生まれですけど、僕は北海道出身です（笑）。ぎんぢろうは

横浜で生まれて、お爺ちゃんが港龍会という任侠団体の伝説の組長なんです」

——すみません！反社的な話は今のご時世はNG なんですが（笑）。

「あっ、これは空想の話ですから大丈夫です（笑）。で、お父さんというのが任侠の道から外れた、義理人情よりお金のために生きるようなどうしようもない人間で。ぎんぢろうはお爺ちゃんに大きな影響を受けていて、お父さんのことが嫌いだったの、任侠の道から離れて世界へ放浪の旅に出るんです。で、世界中のブラックマーケットで名を馳せるんですけど、イタリアで女性とベッドにいる時に電話がかかってきて。横浜の子分から“アニキ、横浜が大変です！”って知らせを受けまして、白鳥

の足漕ぎボートに乗り、日本に向かって漕ぎ出します」

——あははは。面白くなってきました（笑）。

「それで何日もかけて横浜に到着するんですけど、ずっと漕いでいたから漕ぎながら寝てしまい、子分が“アニキ、お帰りなさい！”ってサングラスを取ると寝ている…ってところから物語が始まるんです。ぎんぢろうがいらない間に横浜をめちゃくちゃにした、お父さんを倒すという壮大な物語が幕を開けるんですよ」

——面白いです！今回のアルバムも「ぎんぢろう物語」から始まり、夜のいかがわしい世界を歌った「キャバレー」のような曲から、ぎんぢろうの人間味の部分が垣間見える「地図読めない」のような曲と、まるで

映画を観ているようにさまざまなシーンがめくめく展開していきますね。

「僕は曲を作るのはすごく得意なんですけど、歌詞を書くのが苦手で。歌詞を書く時も“これを伝えたい”とか“これを表現したい”って書くんじゃないで、何を書くのかな？”って、普段考えてるようになっていないことからテーマを見つけるんですね。テーマさえ浮かべば5分で書けちゃうんで、やつつけ仕事で書いてるから伝えたいことは何もないです」

——曲はどうですか？歌謡曲、ソウル、ジャズ、ロックといろんな要素を取り入れた、すごくオリジナリティーのあるサウンドになっていますが、ぎんぢろうさんの音楽ルーツというのは？

「最近ブラックミュージックばかり聴いているんですが、子供の頃はディスコミュージックが流れていたり、ピンクレディーが大好きだったり、多感な時期にはロンドンパンクとかロカビリーを聴いて、ハードロックに行き、ブルースやロックンロールに帰属して、20代中頃からブラックミュージックばかり聴くようになったんです。Jamiroquaiとか、The Style CouncilとかHIGH REDとか、ロックをやった人…特にヨーロッパの人がやるブラックミュージックが好きでよく聴いたり…でも、音楽は何でも好きですね」

——曲のテーマは作っていく中で見えてくるものなんですか？

「完全に曲先なので、歌詞はあと回して感じですね。「キャバレー」は20年前に作ったんですけど、サビのメロディーと歌詞が同時にできるっていう初めての経験をした曲で、“降りてくるっていうのはこういうことか！？”って未だ不思議なんですよ」

——へえ！でも、そういう曲が20年経ってリリースされるアルバムでも、ひとつ象徴的な曲になっているというのは面白いですね。

「ぎんぢろうの持ってる世界観を一番表してる曲なのかもしれないですね。歌詞に“マイルドセブン”って出てきますけど、もう今はないですから（笑）」

——そこは昭和テイストを出したんじゃ

なくて、当時のままの歌詞だったんですね（笑）。僕は昭和生まれですけど、昭和の雰囲気漂うネオン街とかは大人の世界だったし、「キャバレー」みたいな世界観はいつまでも憧れとしてあるんですよ。

「ムード歌謡風の「ドッグラン」でMVを撮ったんですけど、MVも昭和テイストにしたかったので、古い映画なんかを観て衣装や画質を研究しました。やっぱりいいんですよ。昭和っていい時代代になって」——でも、「シャバは最高!!」や「URA!! CASINO」とか、創作でも規制がうるさい昨今、ぎんぢろうさんはなかなか攻めてますよね。

「自分で聴きたい音楽をやってるだけなので、あんまり規制がどうとか考えずに作ってます。で、できたあとに“さすがにこれは怒られるかな？”と思って、歌詞を変えた部分もあったりするんです」

——カッコ良いサウンドでお洒落な言葉を並べただけだと、あまり面白みを感じなかったり、興味がなかったりするんですか？「素晴らしい歌詞がちゃんと書ければいいんですけど、思いつかないの。どうしても、ぎんぢろうのキャラに寄せちゃうんですよ…。「HOT SPRINGS」なんかは僕がスーパー銭湯が大好きだから書いた歌詞だし」

——スーパー銭湯が好きで、「地図読めない」って曲もあるし、人間味がありますよね。

「地図が読めない人は女性に多くて、“なぜ読めないんだろう？”とずっと疑問だったので、“歌詞にしたら面白いかな？”と思って書きました。「UFO」は“UFOを見たいな”と子供の頃から思っていたことを曲にして、それをみんなで歌ったら出現するんじゃないかと（笑）。全部の曲の中で、唯一伝えたいことのある歌詞かもしれないですね」

——メッセージ性ですか？《UFO お願い出てきて》はメッセージ性って言わないですよ（笑）。でも、「月焼け」みたいな美しい歌詞も書けるんですよね？

「「月焼け」は10年くらい前に書いた曲で、リアレンジして収録しました。その頃はちゃんと書こうと思ってたんです」

——前のアルバム（2017年11月発表の「スマッシュ イット」）にも収録されているし、大事な曲なんだろうなと思いました。「いや、そんなに大事ではないです（笑）。ライブで演奏しているうちにアレンジがかわってどんどん良くなっていったので“これでも入れよう”と。でも、いざレコーディングを始めたらしその通りにはならず、“ドラムを打ち込みにしてみようか”と変えてみた、り、“だったら、BTSみたいなサウンドにしよう”って、さらに変わっていきました。それをきっかけにBTSの曲を解明していったらすごく作り込まれていて！今は時間があるからそんな研究ができたのも良かったですね」

——では、改めてですが「ウォンチュー！」完成しての感想はいかがですか？

「しっかり時間もかけたけど、“まだやりたかったな”って気持ちはどうしてもありますね。歌も含めて完成度を上げられたので、そこは次の作品でできたらと思うのと、前作よりもぎんぢろう感が確立してきたと思います。港町ぎんぢろうのライブは刺激みたいなこともやって、半分以上は演技の練習してたりするんですけど（笑）、それを通じてぎんぢろうのキャラクターが確立していき、それがアルバムに活かされているなって。なので、港町ぎんぢろうの世界がしっかり出たアルバムになりましたね」

取材：フジジュン



このインタビューの全文を公開中!!▶



『ウォンチュー！』



Album 6/2 Release
Yumeya
SRYM-001
¥3,300(税込)

music UP's Q!

今月のお題：「今、気になっている人」

■MV撮影に協力してもらった学生

「僕がお願いしているエンジニアの方が専門学校の講師をやっているんで、「ドッグラン」のMV撮影を学生にお願いしたんですよ。当日19歳の子たちが何人か来てくれて、その中に男の子のリーダーがいたんですけど、彼が趣味で作っている映像作品を観てもらったらすごく面白かったんです！映像を引き立てるための音楽も作っていて、ただ自分が走ってるところとか、金網に激突してるシーンとか、焼き鳥を食べるシーンがテクノみたいな音楽と融合してて（笑）。意味は分からないけど、何か訴えかけるものがありましたね。中毒性があるし、その熱意に惹かれて、今、すごく興味があります」

GOD & SIZUKU

曲のコンセプトというのは 昔から変わっていない

都市伝説系の作家であり、「神憑りなプロデューサー」こと GOD と
シーター波の歌声を持つ SIZUKU のユニットが初となるアルバム
『闇に負けるな光を取り戻せ！』を完成させた。その気になるタイトル
や怪しげなジャケ写のことも含め、同作について語ってもらった。



L → R GOD, SIZUKU

— アルバムのタイトルといい、6 曲中
3 曲が“PEACE”をタイトルに掲げている
ことや、天使と悪魔をコラージュした写
真の中に着物姿のふたりというジャケ写
と、どこから質問を切り出せばいいのか迷
うんですけど…。そもそもどんなビジョン
があって作った作品になるのですか？
GOD: そうなりますよね(笑)。もともと僕
らふたりは 20 年以上前から一緒にやっ
てて、CD は出していなかったんですけど、
昔は“KAZUKI&SIZUKU”という名
前で活動してたんです。で、このキャラ
クター(アーティスト写真で SIZUKU が
持っているぬいぐるみ)の歌で、「いじけ
むしのうた 〜アメ・ウメ・マンマ〜」と
いう曲を歌ってたんですよ。レイ・パー
カー Jr に言われて“Mars Baby”になっ
たんんですけど、前は“いじけむし”という名
前だったんです。その曲がテレ朝の「銭形
金太郎」という番組の「GOD 貧乏」とい
うコーナーに知り合いのボクサーが出た
時に、全国放送で流れたんです。それで

ちょっと話題になり、いろいろなレコード
会社から話が来て CD を出すことになっ
たんんですけど、結局はお蔵入りになってし
まったんですね。その後、僕は作家活動を
メインにするようになり、都市伝説系の連
載作家になったんです。SIZUKU はソコ
だったり、徳川家公式ユニット『徳川姫殿
劇団』の座長で「徳川静華」としても活動し
たり…
SIZUKU: どんな質問をされたか分かっ
て？
GOD: 分からない(笑)。
— (笑)。アルバムが出るまでの背景で
もあるんで、そのまま語ってください。
GOD: あははは。でね、都市伝説系の連載
が好調ってこともあり、レコード会社と相
談した結果、話題作りをしたいので GOD
と SIZUKU で新ユニットを組んで CD 出
しませんかと打診があったんです。この
CD が売れない時代にそう言ってもらえ
るのってありがたいことじゃないですか。
なので、「GOD & SIZUKU」というユニッ

トを組んで、CD を出すことになったん
です。しかも、テーマは都市伝説で。でも、一
番のきっかけはラジオ関西の番組かな？
SIZUKU: 昨年の 10 月から「GOD の
都市伝説 RADIO」という番組をやって
るんですけど、それがすごい人気なん
ですよ。で、私が“こういうラジオ番組が始ま
りますよ”みたいなことをツイートしたら、私
の Twitter の名前が“SIZUKU(徳川静
華)”になってることもあって、なぜか「大
阪のラジオ局で徳川様が世の中の闇を
話すぞ！」という感じで都市伝説好きの
中でいろんな人にリツイートされて、世界
緊急放送システムが流れるってことでた
くさん拡散されたんです(笑)。でも、番
組で主にしゃべってるのは GOD だし、話
すと面白いんで、徐々に“GOD 説”とい
うことで都市伝説好きに支持されるよう
になったんです。
GOD: 最初 1,000 人しかいなかった
Twitter のフォロワーが 5,000 人増え
ました(笑)。
SIZUKU: みなさん、闇の時代が終わっ
て光の時代が来ることを願っているん
ですよ。GOD って基本的に前向きなこ
とを話してるし、はっきりと“そのためにはこ
うしないとイケない！”ってことを言い
るんで、それもあって都市伝説好きの心
を掴んだんでしょうね。なので、レコー
ド会社の人が私だけじゃなくて、「GOD &
SIZUKU」として CD を出してみないか
と言ってきたんです。うまくいけば都市
伝説好きの人にも届くようにと。それでリー
ド曲の「PEACE OF WINNER」がで
きたんです。他の4曲…「アルトマンの世界」
「It's a Future Land」「PEACE OF
EARTH」「PEACE OF THE WORLD」
は KAZUKI&SIZUKU の頃からあった
もので、「愛するプレアデス」は以前に取
材してもらった「第二回世界環境サミッ
ト」のテーマ曲として作ったものなん
ですけど、曲のコンセプトというのは私が
GOD と知り合った頃から変わってな
くて、ずっと“平和”なんですよ。「PEACE
OF WINNER」も都市伝説ソングみたい
な歌詞になってますけど、願っていること
は平和だし。だから、「闇に負けるな光を
取り戻せ！」ということと、それをひとつの
パッケージにしようとして。——なるほど。6 曲中 3 曲が“PEACE”
をタイトルに掲げていることや、アルバム
のタイトルが指すものが理解できました。
GOD: 「闇に負けるな光を取り戻せ！」と

いうタイトルもありそうでないというか。
——ここまでストレートに言いける歌は
なかなか珍しいですからね。
GOD: 「PEACE OF WINNER」の歌詞
には絶対に放送できないであろうフレー
ズがあったりしますからね。(君のイメ
ージは B そこから先は T になれ)とあるん
ですけど、“B”はジョー・バイデンで“T”は
ドナルド・トランプのことなんですよ。分
からない人にとっては…
SIZUKU: “B”は“Bad”で、“T”は“Truth”
ととらえてると思うんですよ。
——まさに！ その質問も用意してい
たし、自分もそう思っていました。
GOD: あと、アメリカでは子供の誘拐が
問題になってるから“アドレノクロム”とい
う言葉が出てきたり。そういう際どいワ
ードを意識して、ふんだんに盛り込んであ
るんですよ。でも、それらは僕の心の中だ
けのことであって、歌詞としては意識しな
いでもいいようになっているというか。“ア
ドレノクロム”は薬品の名前でもあるし。
——“B”は“Bad”で、“T”は“Truth”、(君
のイメージは F 未来と共に輝いて)の
“F”は“Future”と解釈して歌詞を読ん
でも意味が通るんですよ。
SIZUKU: だから、都市伝説好きの人が
いろいろ勘ぐりながら聴いたら“ああ、こ
ういうことか！”となるかもしれないですね。
GOD: まあ、“B”がバイデンで“T”はト
ランプのことだと思って聴く人はまずいな
いと思うし、それはそれで大丈夫です。フ
ジテレビ系「魔女に言われたい夜〜正直
過ぎる品定め〜」の 5 月度エンディング
テーマにもなりますね。
——ということは、テレビでこの曲の MV
が流れるわけですね。あの『機動戦士ガ
ンダム』のような SF チックな。
GOD: MV は真面目に作りましたよ。
SIZUKU: でも、あまり他にない感じがす
よね。
GOD: 虎が出てくるんですけど、トランプ

の赤い帽子を被ってますからね(笑)。
SIZUKU: そこがテレビで流れるんですよ
(笑)。
GOD: そういうのがテレビ的に面白いか
らってことなんですよけど。初回限定盤
の DVD に収録されるので、チェックし
てもらえればと思います。あとは、なぜジャ
ケ写が着物姿かってことですよ。
SIZUKU: レコード会社の人からインパ
クトのあるものにしてほしいと言われてた
んですよ。滑稽なものにしてほしいって。ど
うも私たちの存在が面白いらして…自
分たちは普通だと思ってるのに(笑)。だか
ら、着物だったり、『機動戦士ガンダム』に
出てきそうな格好してたりするんです。
GOD: そういう面白さを望まれるん
ですよ。オンラインでアルバムのリリースイ
ベントを 3 回ほどやったんですけど、アル
バムを宣伝するイベントなのに歌も歌わな
いで、“GOD と言えば都市伝説、パソナ
リティーは SIZUKU”という感じのパラ
エティートクイベントになってしまった
んですね(笑)。なのに、レコード会社は喜
んでましたから(笑)。

——これは今作を聴いて思ったのが
、サウンドやメロディーには憂いがある
というか、どこかウエットなところがあ
って、そういう部分が聴く者を惹きつける
んだろうなと。で、実は GOD さんってロ
マンチストなのかなと思ったのですが。
SIZUKU: あっ、そうなんですよ！
GOD: …。
SIZUKU: 滅多に褒められへんから照れ
てる(笑)。
GOD: このタイトルと、このジャケ写を見
て、この音楽が想像できます？
——だから、最初の質問に戻るんですよ。
“どこから質問を切り出せばいいんや？”って
(笑)。
GOD: 確かに(笑)。でも、思うのは“音楽
が好き”ってことですね。歌うよりも作
るのが好きだし。よくは知らないですよ

ど、クラシックも好きだし。
SIZUKU: うんうん。クラシックや映画音
楽を聴いて育ったって言ってますね。
——それが下地にあるんですね。納得で
す。では、どんなアルバムになった実感が
ありますか？ SIZUKU さんは初のアル
バムですよ。
SIZUKU: サンプル盤をもらって CD プ
レイヤーで聴いた時、すごい満足があっ
て…それこそ 20 年前のことを思い返
したりもして。やっぱりアルバムを出すこ
とって夢だったんですよ。SIZUKU 名義
のアルバムを出したいというのもあるけ
ど、私が今ここにいるのは GOD のおか
げなんで、GOD & SIZUKU として出せ
たというのがとても嬉しいですね。
GOD: 今の時代だからこそ、タイトル通
りのものになったって。光のある時代に
“闇に負けるな光を取り戻せ！”というア
ルバムを出しても意味がないですからね。

取材: 土内 昇

okmusic

このインタビューの全文を公開中!! ▶



『闇に負けるな光を取り戻せ！』



Album 5/11 Release
A-force NEXT
/ 徳間ジャパンコミュニケーションズ
【初回限定盤】(CD+DVD)
YZWG-044
¥2,000(税込)



【通常盤】(CD)
YZWG-043
¥1,500(税込)

music UP's Q!

今月のお題: 「今、気になっている人」

■ GOD…ドナルド・トランプ

「個人的に面識があるんで、僕はトランプを応援してるんですよ。もうすごい
昔のことになるんですけど、彼は僕が携ったハリウッド映画のスポン
サーだったんですよ。今回のデビューアルバムのタイトルの「闇に負けるな光
を取り戻せ！」という言葉は、彼が大統領選で勝利することを想定して考えた
ものだし、リード曲の「PEACE OF WINNER」は勝利宣言の曲なので、選挙に
勝利した際にはプレゼントしようと思ってたんですよ。だから、「今、気になっ
ている人」ってなると、ドナルド・トランプです！」

■ SIZUKU…藤村晃児

「昔からお世話になってるんですけど、非営利一般社団法人「日本動物虐待防
止協会」の代表理事をやられてて、正義感がめちゃくちゃ強い方なんです。
それこそ多頭飼育で崩壊している人のところに乗り込んで行ったり。あと、単
身でアメリカに渡ってアニマルボリスのことを勉強して、帰国後は自身でア
ニマルボリスを立ち上げたり。そういうことをされてたんですけど、いきなり
横浜市長選に立候補されて、政治経験もなく、しかも無所属で！ そんな中、
私たちの「PEACE OF WINNER」が選挙応援歌に決まったこともあり、まさ
に今、気になっている人ですよ。YouTube で自分の意見を的確に発信されて
る姿を観るとバイタリティーも感じますし、尊敬してます！」



大柴広己

新世界と旧世界、ふたつの世界を
ちゃんとつなぎ止めるピースがあるべき

“旅するシンガーソングライター”として全国のライブハウスを回りながら、もじゃ名義でポカロPとして、またフェスの主催、楽曲提供などマルチに活躍する大柴広己が、まさに現在地を表明する2ndフルアルバム『光失えどその先へ』を届けてくれた。コロナ禍にこそ生まれ落ちた意味を示す本作を、彼のストーリーとともに紐解く。

——大柴さんはシンガーソングライターとして長いキャリアを経てこられましたね。「そうですね。音楽活動自体は2000年の1月1日から始めているので、昨年の1月で20年。デビューが06年なので、今年で15周年になりますね。でも、キャリアの長さだとかアニバーサリーとか、ほんとに興味ないんですよ。だから、ビジネスマンには向いてないし、ずっと“プロ”じゃなく“プロっぽい人”でいいかなとまで思ってますね(笑)」

——その20年に渡る活動をもっとも表現するキーワードが“旅するシンガーソングライター”ですが、ストリーミング系アーティストとしての活動やフェスの主

宰、レーベル運営など、本当にマルチですね。「本当はひとつのことで飯を食えるのが一番いいんですけどね(笑)。“旅するシンガーソングライター”と言われていろいろ、レコード会社をクビになって給料がもらえなくなったので師匠のリクオさんにくっついて全国を旅していたら、いつの間にか自分もツアーを回るようになったからで。地方に大事な人がたくさんできて、気づけば年間200本ほどのライブをやるようになったんですね。レコードレーベルを作ったのもレコード会社に入りたいと言っていた今のマネージャーと出会って、どうせなら自分たちでレーベルを作ったほうがいいと、直接行動する考えに至った

だけなんです」

——気がつけば、すごくシンプルな発想に立ち返っていたと。「そうそう。やっぱり自分たちの責任でやるのが一番いい。自分の言葉に責任が取れますからね。レコード会社からお給料をもらってた時は、それをすっかり忘れちゃってた。自分が何を世の中に言いたいのかを思い出したら、二本の足でちゃんと立てようやく一人前になれたし、どんどん原点に戻ってこられた。結局、遠回りが一番の近道だったのかなと思いますね」

——そんな精力的な活動を長く続けられるモチベーションはどこから？「常に最新型の自分でありたいからです。常にもっといい自分を感じていられるから、

20年間も音楽を続けてこられている」

——昨年、今年とコロナ禍が続く。旅にも出られない状況ですが、その間はどのような活動を？「配信ライブばかりですね。でも、地方のライブハウスも大変じゃないですか。なので、自分がTwitCastingでやっている配信ライブをライブハウスのスクリーンでも上映したりしました。10年以上前からやっているYouTubeチャンネルの更新も活発でしたが、コロナ禍だから何か変わったかと言えば、実は何も変わってなくて。ただ、コロナ禍前と比べて思うことはありました」

——そんな中、リリースされるのが約2年半振りのアルバム『光失えどその先へ』で、そのタイトルからしてコロナ禍での想いを強く感じました。「いや、それがね、2018年に前のアルバム『人間関係』を出した時から、次のアルバムタイトルは“光失えどその先へ”にするとマネージャーにも言っていて」

——コロナ禍は関係なく？「そうそう。俺のアルバムって実は全部が連なってるんですよ。14年にレコード会社を立ち上げた時から“L”をキーワードにしたテーマがあるんです。14年の『それを愛と呼べる日』が来るとは思わなかった」はテーマが“LOVE”。愛を持ってどう生きるのかが大事だと。だから、“LOVE”の先には“LIFE”があるということで、『Mr. LIFE』というアルバムを16年に出したんです。で、愛を持ってどう生きたいか分かってきたと。俺はやっぱ過去にすぎるんじゃない、今とこれからを“LIVE”=生きてきたい」と。そう確信して、次にライブアルバム『MOJA MOJA LIVE COLLECTION VOL.2』(2017年発表)を出し、生活において一番大切な人間関係だということとを3つの“L”から気づいて、18年のアルバムを『人間関係』にしたんです。今回はその次になります」

——なぜ、ネガティブさも感じる“光失えどその先へ”というイメージが降りてきたんですか？「構築された豊かな人間関係と生活は、いずれ絶対になくなると思ったんですよ。

楽しい時間はいつか終わるけど、その現実にはなかなか向き合わない。光が強ければ強いほど、影は生まれるんです。そこから逃げたくないと思ったら、次に来るのは“LOST”じゃないかと。結局は失うことになるけど、俺はその先の“光=LIGHT”を求めたい。気持ちを楽に、“軽く=LIGHT”。その3つの“L”から“光失えどその先へ”というタイトルが生まれたんです。そうこうするうちにコロナ禍になって…本当に世の中のほとんどが“LOST”されてしまった。その中でどうやっていいのかわからなくて書いて書いた曲が、11曲目の『LIFE GOES ON』なんです」

——歌詞は世の中に訴えたいことが自然に湧いてくる感じですか？「そう。自分の想いのままの言葉がね。『光失えどその先へ』なら“逃げることも選択肢のひとつだよ”。先に光があるんだから今は逃げるのが正しいの。で、戦え!”じゃなく“ESCAPE”と叫びたかったんです。『エビデンスステイホームレガシー 2020～2021』もそういう作り方をしていたら、日々ライラしてることが全部出てきたんです。サビだって『他人の話はちゃんと聞いて／自分の欲望はちよいと置いて／とか(新しい価値大事にしとけ／何かが終わるまでは黙っとけ)』と言っていて、そのすぐあとには『もういいわ どーでもいいわ／ってゆーなゆーな ほんま コロナか?』と歌ってるから“どっちゃねん!”ってなるんじゃないですか。何も言ってないんですよ、このサビ。面白くないですか? (笑)」

——大柴さんは大阪出身ですが、大阪の人ってズバズバ言いたいことを言っても、最後は“知らんけど”で締めるって言いますよね(笑)。「あはは。ほんま“知らんけど”ですよ! 結局、俺が言いたいことの本音は“ほんま寂しいぞ”と“ほんま会いたいぞ”のふた言だけ。部屋飲み、飽きたよなと(笑)」

——そして、アルバムラストは『明日には明日の風が吹くから／後悔するな 進め進め』とポジティブなメッセージを伝える『LIFE GOES ON』で締め括られるわけですが。

「それは僕がそう言ってもらいたい言葉なんですよ。真っ暗な中、クソボロになって、それでも光を探しながら歌ってる俺。こんなアホみたいな人生なのに、それでも人生は美しいと思いたい俺って何やろう? …みたいなね。俺が主催している『SSW』というフェスも昨年は恒例の大阪野外音楽堂から無観客配信で実現しましたけど、こんな状況下で何を歌ったらいいのかわからなくて、開催を迷ってたんです。でも、この曲ができたことで、俺の伝えたいこと、大柴広己が大柴広己に歌ってやりたい曲はこれだと、ステージに立つ勇気が出ました」

——本作には昨年2月に新宿で行なわれた弾き語りワンマンを音源化したライブアルバム『THE PREVIOUS WORLD』が急速ダウンロード封入されたという。「このライブは旧世界…コロナ禍前にやった最後のワンマンなんです。そして、アルバム『光失えどその先へ』はコロナ禍以降の新世界を歌っている。そのふたつの世界をここでちゃんとつなぎ止めるピースが必要だと思ったんです。“旧世界はこうだったけど、ここからはこういよ”という自分の姿を、今こそ両方残しておきたかった。ライブ盤なので『さよならミッドナイト』などの代表曲も入っていますしね。“大柴広己って何者?”という方にも、ぜひ聞いてもらえたら嬉しいですね」

取材:阿部美香



このインタビューの全文を公開中!!▶



『光失えどその先へ』



Album 5/26 Release
ZOOLOCATION
ZLCT-1006
¥3,300(税込)
※ライブアルバム『THE PREVIOUS WORLD』ダウンロード封入

music UP's a!

今月のお題:「今、気になっている人」

■マネージャーの大大中

「彼はビジネスの達人なんですよ。俺のファンからも“ダイチュウさん”の愛称で呼ばれるほどにいい人だし。ビジネスに関する洞察力に優れてて、肌で感じる先読みスキルも高いから、常に“面白い!”と思わせてくれるんです。“今、気になる”というか、ずっと気になっているし、彼みたいな人が身近にいることが嬉しいですね」



Baby Blue

バーチャルであってもリアルであっても、
“心を込めて歌う”ということに変わりはない



L → R AMY, JAN, COLEEN

AKB48グループとして、今やフィリピンで国民的人気を誇るまでに成長した MNL48。そこから抜擢を受けて誕生したのがトリオユニットの Baby Blue だ。3rd シングル「Stuck On You」を配信リリースした 3 人に、フィリピンとリモートでつないで話を訊いた。

——本誌初登場ということで、他己紹介をお願いします。

AMY: ユニットリーダーの JAN はいつも準備万端で、仕事も常に一生懸命取り組む頑張り屋さんですね。もし私たちを三姉妹に例えたら、彼女は間違いなく長女です。

JAN: COLEEN はあどけないキュートなルックスとは裏腹に、とても大人びた女の子です。実際の年齢よりもずっとしゃかりいているし、仕事に関してはとてもプロフェッショナルで意識が高くて、私は彼女の仕事に優先順位をつけられる才能をとても尊敬しています。

COLEEN: AMY はとても才能にあふ

れるヴォーカリストで、素晴らしい歌声を持っています。性格はちょっとシャイだけど、ファニーな部分も持ち合わせている魅力的な女の子ですね。

——そんな Baby Blue は MNL48 のサブユニットとして誕生したわけですが、それぞれどんな経緯で MNL48 のオーディションを受けることになったのでしょうか？

JAN: 私はいろいろな J-POP グループのファンだったから、MNL48 のオーディションがあると聞いて絶対に受けたいと思ったんです。日本にも行きたかったし。ただ、その夢はまだ実現していないんですけど。

COLEEN: 私は JAN とは違って J-POP グループには詳しくなかったし、自分がアイドルという仕事に就くなんて想像もしてませんでした。でも、実際に始めてみたらとても楽しくて！今は全てにおいてベストを尽くしています。

AMY: 私が MNL48 のオーディションを受けたのは、新しいことに挑戦してみたかったからです。R&B やヒップホップばかり聴いていたから、自分にとってはまったく未知でフレッシュなジャンルだった J-POP を体験してみたいと思ったんです。

——なるほど。2020 年 9 月に Baby Blue として活動を開始したわけですが、

この 3 人でユニットを組むと聞かされた時、どんなことを思いました？

COLEEN: ハッピーでワクワクしたのはもちろんだけど、同時にとても驚きました。MNL48 にとって初のサブユニットですからね。

JAN: 私は AMY や COLEEN とまったく違う性格だから、彼女たちと同じグループになったことにとても驚きました。アクティブでハイパーな性格のふたりと異なり、私は内向的な性格だから、正直言って少し不安だったんです。“この 3 人でうまくいくのかな？”って。

COLEEN: 確かに、性格は三人三様ですからね(笑)。

JAN: そう。それが Baby Blue の持ち味だと分かったので、今はすごくハッピーです！(笑)

——これまで Baby Blue としてリリースしてきた楽曲はいずれも本格的な R&B、ヒップホップ、EDM の要素がふんだんに盛り込まれたものですが、デビューするにあたってグループの方向性についてどんな話し合いがされたのですか？

JAN: Baby Blue には“インターナショナルマーケットに売り出していけるグループにしたい”という明確なビジョンがあるんです。なので、日本やフィリピンはもちろん、アジア各国に進出していきたいと考えています。

COLEEN: 音楽的な方向性については、私たち 3 人のキャラクターを反映したものにしていこうと。さまざまなタイプの楽曲をやるのが許されるのは、さっき言ったみたいに 3 人の性格がバラバラだからなんだと思いますね(笑)。

——2020 年 9 月にシングル「Sweet Talking Sugar」でデビューした時は、すでに世界的なパンデミックの真っ只中でしたよね。逆に言えば、平時での活動を行っていないので、これまでどんなことを考えながら活動を続けてきたのか気になるのですが。

COLEEN: 活動が制限され、ミーティン

グは今回のようにリモートだし、リハーサルも自由にできないし、ファンを前にしてパフォーマンスすることすらできないって。あらゆることがリモートやバーチャルに置き換わって、確かに厳しい部分はあったけど、そこはうまくこなしてきたと思います。

AMY: うん。バーチャルであってもリアルであっても、“心を込めて歌う”ということに変わりはないですからね。

JAN: 心の底から想いを込めて歌うことは、自分の限界に挑戦するというでもありましたね。だからこそ、その想いがみんなに伝わったんだと思います。もしパンデミックがなかったら、これまでのものはできなかったかもしれない…とまで思えるので。

COLEEN: そうだね。いつか生のステージを披露できるようになったら日本に行きたいですね。

AMY: 本当に早く日本に行って、みんなに生で私たちのパフォーマンスを観てもらいたいし、ファンの人々と交流したい！

JAN: うんうん。どんなことでも良い面と悪い面があるというか、パンデミックだからこそできたことや発見もあるけど、“音楽を届けたい”という想いはどちらでも一緒だから。なので、どんな時もポジティブでいられるように意識を高く持ってます！

——分かりました。そして、配信リリースされた 3rd シングル「Stuck On You」ですが、本格的な R&B サウンドの「Sweet Talking Sugar」やヒップホップ色あふれる 2nd シングル「NEGASTAR」(2021 年 11 月配信)とは打って変わってメロウなラブソングですね。

JAN: これは 3 人全員の意見が一致していると思うけど、これまで一番のお気に入りの曲ですね！

COLEEN: うん。歌っていると恋している気持ちになれるんです。ティーンエイジャーの子たちは特に分かってくれるんじゃないかな？

JAN: 実際に恋人がいなくても聴いてい

るだけで、恋をしている気持ちになれる曲ですね。

AMY: ただ、この曲は 3 人の声をうまくブレンドさせるのが、これまで一番大変でした。

COLEEN: ハーモニーをうまく聴かせるのがとても難しく、あと、ラップパートを AMY が担当したのですが、そこは特にしっかりと聴いてほしいです！

——そんな「Stuck On You」をワンワードで表現するとしたら？

COLEEN: “inspired(触発された)”かな？

JAN: 私は曲名にもある通り、“stuck(夢中になる)”ですね。丸一日ずっと聴いてられるので。あるいは“favorite(お気に入り)”かな？

AMY: 私は“Love”！恋愛感情を肌で感じられる曲なので。

——では、最後に Baby Blue として目指している目標は？

COLEEN: グループとしての目標は、可能な限り多くの人を元気にすることです！

AMY: 目標は音楽シーンのトップに登り詰めることです！もちろん世界中の。

JAN: 世界中の誰もが私たちのことを知ってくれるようになるまで頑張ります！

取材：金澤隆志

©HHE



このインタビューの全文を公開中!!▶



「Stuck On You」



Digital Single
4/21 Release
BABY BLUE

music UP's Q!

今月のお題：「今、気になっている人」

■ COLEEN…BLACKPINK

「特にジェニーとリサかな？ 4 人全員好きだけど、ダンスと歌唱力が別格なこのふたりは、私にとってかなり特別な存在です。心から尊敬しています。15 歳の頃からずっとファンです！」

■ AMY…中丸雄一

「彼はアイドルであると同時に、バラエティ番組の司会者としても才能を発揮しているの。いつか彼と一緒にテレビ番組の司会をやってみたいと思っています！」

■ JAN…BLACKPINK、アリアナ・グランデ、ビリー・アイリッシュ

「あ〜、ひとりには絞れない…BLACKPINK、アリアナ・グランデ、ビリー・アイリッシュかな？ 特にビリーの「bad guy」はお気に入りです！」



← R 白浜あや、高井千帆、内藤るな、青山菜花

ひとりの行動が周りに影響を与えて世界が変わっていく

昨年7月にメジャーデビューしたアイドルグループ、B.O.L.T が2nd シングル「スマイルフラワー」をリリース！ Special Thanks の Misaki が作詞作曲をした今作は、今のご時世にぴったりのポジティブなメッセージが込められている。

——メジャーデビューして約10カ月が経ちますが、グループとしてはどんな変化、成長を感じていますか？

高井：バンドサウンドが中心というのがB.O.L.Tの大きな特徴でもあり、毎回豪華なバンドのみなさんに曲を作ってもらえているのが嬉しいです。そのバンドサウンドの中でも、さまざまな曲調があることをB.O.L.Tの活動を通して学びました。今は年下組（青山と白浜）ががっつき踊って、私とるんばん（内藤の愛称）がフリースタイルで踊るという新しいパフォーマンススタイルに挑戦しているんですけど、いろんな曲調があるので、みんなで踊る部分があったりとか、曲ごとの魅せ方ができるんじゃないかと思っています。でも、がっつき踊る組とフリースタイル組がいるというのも珍しいので、それがB.O.L.Tの大きな長所だと思ってもらえるように、

ライブでもしっかりと観せていきたいいなという気持ちはありますね。

内藤：楽曲に関しては、いつも素敵な曲をいただけて嬉しく思っています。女の子のグループだと可愛い曲が多かったりしますが、B.O.L.Tの楽曲は等身大ではありながらも「本当にこの4人が歌ってるの？」みたいな曲が多いんです（笑）。曲をいただいた時も、仮歌が女性の方じゃなくて、バンドのヴォーカルの方が歌ってる男性の歌声で届いたりして、そういうのって前のユニットの時にはなかったの。レコーディングでは自分たちの楽曲として歌いこなせるように食らいつくという気持ちで臨んでいます。

——青山さんと白浜さんはこの春、中学生になったというのも大きな変化だと思いますが、

青山：はい。小学生でこれができるのは

すごいね」と言われたことが、「中学生だからこれでもできるよね」という感じになると思うんです。なので、私も意識を変えるようにして、逆に「中学生なのにこんなこともできるの!？」と言われるぐらいのパフォーマンスを魅せられるようになることが今の目標のひとつです。

白浜：私も少し意識が変わりました。頑張ることはもちろんですけど、ただ頑張るだけじゃなくて、どんなふう頑張ればいいのかを考えるようになったり、るなちゃんとかいちゃん（高井千帆の愛称）が踊っているフリースタイルを家で映像を観て勉強したり、もっといろんな感じで踊れるようになりたいと思っています。

——そんな中、ニューシングル「スマイルフラワー」が完成しましたが、最初に楽曲を聴いた時の印象は？

高井：ポジティブになれるワードが多い曲

だなって思いました。歌詞を読み解いていくと、「ひとりの行動が周りに影響を与えて世界が変わっていく」と受け取れたりして素敵になって。《想像一つで世界は変わる》とか《運命もカラフル》とかは人生を色に例えたりしていますし、《命の水は／あなたのスマイル》というフレーズは「お花は水がないと生きていけないけど、人も笑顔がないと生きていけないから、あなたの笑顔が必要なんだよ」と、聴いてくれる人に向けてのメッセージが全て素敵なんです！

青山：《風になる 新しい／時代のエネルギー感じて》というブロックの最後の《笑って YEAH》は♪ YEAH へって伸ばすんですけど、すごく歌っていて気持ちいいんですよ。レコーディングでもみなさんへの想いを込めて笑顔で歌っていたので、それが伝わるのかなと思っています。

白浜：私もなのちゃん（青山の愛称）と同じところが好きです！ 私はメンバーの自然な笑顔が好きで、みんなと自撮りする時も笑わせて撮ったりしてるので、すごく共感できるなって（笑）。《涙が降りそそぐ》っていう言葉が入ってるんですけど、前後をつなげて読んでみると「悲しいことがあっても笑って!」みたいな意味だと分かってグッときこえます。

——歌声にもしっかりと感情が込められていますね。

内藤：この曲を作ってくださった Special Thanks の Misaki さんの仮歌を聴いた時、すごく温かみがあって素敵になって思っただ。作った方がそういう感じに歌っているんだから、それがベストだと思ったので、私のソロパートや2番の頭のところとかは、ヴォイストレーニングの先生

生とも話し合っ 100 パーセントじゃなく、あえて 80 パーセントぐらいの力で歌うことにしました。これまでの B.O.L.T の曲では 100 パーセント出してる感じでしたが、ちょっと力を抜くことで雰囲気を出して、明るい曲だけどチルな歌い方にこだわってみました。

——そして、カップリング曲の「OUR COLOR」は「スマイルフラワー」とはまた違ったタイプの楽曲で。

高井：エモい曲です（笑）。この曲のエモさを出すには、私たちの歌にかかっている最初に聴いた時に思ったので、最初は「難しそうだな。歌えるかな？」っていう不安がありました。でも、曲を作っていただいた SonoSheet の渡辺裕貴さんにレコーディングに立ち会っていただいたんですけど、「いいね〜」ってたくさん言ってもらえて自信ができましたし、「この曲、好きです!」という気持ちを歌で渡辺さんに伝えたいと思って歌いました。

白浜：「スマイルフラワー」もキーが高かったんですけど、この曲はさらに高くて。今はなんとかが歌えるようになりましたが、最初は頑張っ てる出ないかぐらいの感じでした。高い声が出るように、無意識のうちに膝を使って歌っていたら、「すごく膝を使っ てる、お腹から声を出してるね」と言われたので、この歌い方で良かったんだって気づきました。サビの部分のコーラスも担当しているんですけど、そこもかなり高くて。でも、そこがエモエモポイントなので、レコーディングでは真っ直ぐ伸ばすイメージで歌いました。ライブでもこれを歌う機会が増えると思うから、そんなエモエモポイントを聴いてほしいと思います（笑）。

青山：私も声が出るかどうか不安でしたけど、「自信を持って堂々と歌ってみて」と言ってもらったら出たんです。気持ちって大事になってくることが学べたレコーディングでしたし、最後に渡辺さんに「エモいね〜」って言ってもらったのがすごく嬉しかったので、ライブでもエモく歌いたいです！

内藤：みんなが言ってるように、私もレコーディングでこんなに緊張するのは久しぶり！ってぐらい緊張しました。レコーディングでは私がトップバッターだったから、余計に緊張しちゃって（笑）。でも「〜」とどんだ後半に向けて良くなってきたよ」と言ってもらえました。緊張していたことが分かっていたみたいですよ（笑）。

取材：田中隆信



このインタビューの全文を公開中!!▶



「スマイルフラワー」



Single 5/19 Release
KING RECORDS
【初回限定盤】
(CD+Blu-ray)
KICM-92086
¥2,000 (税込)



【通常盤】(CD)
KICM-2086
¥1,200 (税込)

music UP's a!

今月のお題：「今、気になっている人」

■内藤るな…プリンス

「お母さんが昔大好きだったように、「聴いてみな」とか「映画も観てみな」って勧められてハマりました。「スーパーボウル」のハーフタイムショーのパフォーマンスだった、MV もめちゃくちゃカッコ良くて！ カラフルで可愛いところもあるし、でも、どこか聴き覚えがあるんですよ。きっとお母さんが家でかけてたからだと思うんですけど、この年齢になって改めて聴くと良さが分かるという。今、すごく気になっているので、ずっと聴いています」

■高井千帆…SHISHAMO

「まだまだ練習中なのですが、私、ドラムを習ってるんですね。基礎を学ぶことも大事なんですけど、自分の好きなバンドの曲で練習すると気持ちが入るからといって先生に教えてもらったので、いわゆる課題曲以外で練習したのが SHISHAMO さんの曲なんです。あと、特徴的なところではあるんですけど、歌の面でも勉強になってますね。ただ、まだライブに行ったことがないんですよ。コロナ禍が収まったら、ライブに行っ てる、グッズを買っ てる、タオルを首に巻いて、イエー! ってやりたいです（笑）」

■青山菜花…Official 髭男dismとBLACKPINK

「ふた組あるんですけど、ひと組は Official 髭男dism さん。カッコ良い楽曲から楽しい楽曲まで揃っていて、最初に好きになったバンドなんです。誕生日にお姉ちゃんから CD をプレゼントしてもらったという思い出も詰まっています。もうひと組が BLACKPINK さん。すごく可愛い人たちのに踊るとめっちゃカッコ良くて、「私もカッコ良く踊りたい!」という憧れもあって気になってます」

■白浜あや…BLACKPINK

「B.O.L.T に入る前に、ダンスを習っていたところで課題としてやってたのが BLACKPINK さんの「BOOMBAYAH」という曲で。その時にすごくカッコ良い曲だなと思ったし、勉強のために YouTube で動画を観たりしてたんですけど、ダンスがキレキレで表現力がすごくて！ もちろん憧れもあるし、「BOOMBAYAH」を何回も何回も聴いてたという思い出があります。今、K-POP にハマってるのもあって、また BLACKPINK さんが気になってます」

元気を届けられるような曲をやってきたい

2019年に始動したニューフェイスでいながら、TVドラマ『結婚できないにはワケがある。』の主題歌とエンディング曲をオファーされた she9。大役を担う「最強★ピース」と「BPM」は等身大の感性を活かした瑞々しさに加えて、“コンパクトかつ凝縮感のあるもの”という今のリスナーのニーズを突いていることも見逃せない。そんな彼女たちの素顔に迫るべく、全員インタビューを行なった。

—まず「最強★ピース」はTVドラマ『結婚できないにはワケがある。』の主題歌ですが、曲を作るにあたってドラマサイドから曲調や歌詞などの要望はありましたか？

じゅり：なかったです。“お任せします”ということだったので、ドラマの原作の漫画を読ませていただいたんですね。そうしたら個性が爆発しているところが多かったので、“全部曝け出していこうよ”という歌詞を書こうと決めました。曲調に関してはコミカルな感じの作品だから“楽しい曲になる”という話をみんなですて、私がそれを持ち帰ってメロディーと歌詞を書いて、ピアノでコードをつけたものを、メンバーに投げてアレンジしてもらいました。苑：じゅりが作ったデモを聴いた時、疾走感だったり盛り上がる感じのリズムがいいと思ったんです。なので、8ビートじゃないっていろいろやってみた結果、4つ

打ちでいくことにしました。

yuzu：ベースは最初にみんなで“こんな感じかな？”と話し合った時から、こういうベースにしようというイメージがありました。この曲は絶対にスラップを入れようと思ったんです。なので、ベースのフレーズ作りはスムーズでしたね。間奏はみんなワチャワチャしているので、私もスラップでグイグイいっ…みたいな(笑)。楽しい感じのベースにしたかったので、そういうものにはできなかったと思います。

AMI：昨年からずっとコロナ禍が続いていて、不安とか閉塞感とかに覆われた世の中になっていますよね。そういう中でドラマの主題歌というお話をいただいて、私たちにできるのは she9 の音楽でみんなに楽しい気持ちになってもらうことだと思ったんです。なので、「最強★ピース」は本当にワチャワチャやろうと思って取り組みました。ギターはどんどん重ねていったんで

す。それも“ここはギターを重ねると勢いが増すな”と思ったところに入れていった結果、ずっとフレーズが入っているみたいなギターになったという(笑)。

じゅり：歌は悪戯っぽさみたいなものを出したくて、ニヤニヤしながら歌った感じです。あと、Bメロの《SA SA 最強 SA SA SA 最強 ★ピース》というところは3回歌うので、それぞれニュアンスを変えたいと思って、違うキャラクターを演じる感覚で歌いました。この曲は歌の表情に命を懸けましたね。みんなと同じように私もこの曲を歌うのは楽しかったです。

—「最強★ピース」はみなさんが目指した通り、聴くと明るい気持ちになりますし、2分31秒というコンパクトなサイズでいながら凝縮感があるのも最高です。続いて、「BPM」にいきましょう。この曲は『結婚できないにはワケがある。』のエンディング曲なんですね。

じゅり：「BPM」はTikTokでバズっていたのをドラマを作っている方に見つけていただいて、“この曲をドラマで使わせてもらえませんか？”というお話をいただいたんです。だから、「BPM」は書き下ろしではなくて、一年以上前に作った曲なんですよ。もともとは私が帰り道で坂道を下っている時に、サビのメロディーと歌詞が出てきて、それを膨らませてメロディーと歌詞を考えて、ピアノでコードをつけてかたちにしたんですけど、ちょっと可愛すぎる気がしたんです。でも、みんなに投げたらバンドっぽいものに仕上げてくれたので、“私はこれかかった！”と思いました(笑)。苑：「BPM」は今回改めて録り直したんですけど、私はちゃんとしたレコーディングをするのは、実はこの曲が初めてだったんで、何日か前からめちゃ緊張して“大丈夫かな？”とずっと言っていました(笑)。全員：言ってたね(笑)。

苑：なので、OK テイクが録れた時は本当にホッとしました(笑)。「BPM」のドラムはメリハリを大事にしていって…この曲はドラム始まりなんで、そこは“来るぞ、来るぞ、来るぞ！”という感じが一気に炸裂するというイメージでした。

yuzu：ベースも抑揚を意識してフレーズを考えました。私もちゃんとしたレコーディングは初めてだったんですけど、私はワクワクしてましたね。ベース録りの時も弾いていたらめっちゃ楽しくなっちゃって、「BPM」はすごく楽しい曲なので、“この気持ちかぐわれ！”と思いながら弾きました。AMI：「BPM」は“キラッと感”をギターで出せたいいなというのがありましたね。レコーディングにフエンダー・ジャズマスターとギブソンの ES-339 を持参して、イメージをかたちにするにはどちらのギターがいいかめっちゃ悩んだんですけど、そういうことも楽しかったです。両方とも

弾いてみて、この曲は疾走感とか勢いを大事にしたほうがいいと思ったので、バッキングはソリッドな音にするジャズマスターでギョイッ！とやりました(笑)。で、ギターソロは艶がある音が合うと思って、セミアコの 339 を使うことにしました。

じゅり：私は A メロとかは夏の気怠い感じをイメージして歌いました。夏の湿っぽさみたいなものを歌で感じ取ってもらえるといいなと思ったので。でも、サビは弾ける感じで歌って、女の子のキュンキュンしている心を表現しています。だから、ちょっと二重人格っぽい歌になっていますね。

—20歳前後の女性はそのような側面を持っていることが多いので、歌い分けがリアリティーを生んでいます。「最強★ピース」と「BPM」は she9 の魅力が詰まったものに仕上がっているし、このタイミングで she9 に初めて触れる人が多いことは間違いないだけに、今後が楽しみです。

苑：今後の活動としては、今と変わらず元気を届けられるような曲をやっていききたいですね。「最強★ピース」と「BPM」の他にも何十曲とストックがあって、その中には she9 の切なさを込めた曲もあるので、そういうものも徐々に出していきけたらいいなと思っています。あと、ライブができる状況になったらガンガンやっていこうと思っているので、ぜひライブにも来てほしいです。

じゅり：自分たちの曲がドラマの主題歌になったり、配信されたりするようになって、私はようやくスタートラインに立てた感じにいるんです。とにかく「最強★ピース」と「BPM」をたくさんの人に聴いていただきたいですし、それ以外にも本当にいろんな曲があるので、どんどん届けていきたいです。曲作りに関しては、やっぱり若いうちにしか書けない曲というのがあると思うんです。背伸びしたり、取り繕ったりせずに、リアルな自分たちが伝わる曲を書いて

いって、聴いてくださったみなさんと成長したり、一緒に未来に向かって歩いて行けるといいなと思っています。

取材：村上孝之

okmusic

このインタビューの全文を公開中!!▶



「最強★ピース(TV Ver.)」



Digital Single
4/19 Release

「BPM(TV Ver.)」



Digital Single
4/19 Release

「最強★ピース」



Digital Single
5/10 Release

「BPM」



Digital Single
5/24 Release

music UP's Q!

今月のお題：『今、気になっている人』

■なみだじゅり・妹尾ユウカ

「コラムニストの方で、かなり踏み込んだ…例えば恋愛の体験談や持論だったりを書かれているんですけど、時折炎上しちゃうくらい強い言葉を使われるんですよ。でも、そのコラムがものすごく面白くて、鋭いことを言っているのに笑っちゃうんです」

■AMI…ラフレラン(現在は「コットン」に改名)

「私、お笑い好きで、コロナ禍になる前はライブによく行ったりしたんです。でも、彼らのことはそのあとに知ったので、まだライブには行ったことがなくて、Instagramとかで動画を結構出されてて、あるある系が多いんですよ。例えば、男性ふたりの組なんですよ。と、ひとりが女子高生の格好をして“こんな子いたよな”っていうようなネタを投稿されてたり。“ちょっと、男子い〜”みたいな(笑)。ずっと気になっているんで、ライブに行ってみたいです」

■yuzu…蟹ちゃん

「食べ物の動画を観るのが好きなので、よく料理動画とかを観てるんですけど、韓国の YouTuber で蟹ちゃんという方がいるんですね。ただご飯を食べるだけの映像を投稿されているんですけど、すごく美味しそうに食べるんですよ！旦那さんと一緒にやられてて、とても仲が良いので、“なんかいいな〜”と思って観てます(笑)」

■苑…ブリアナ・ギガンテ

「YouTubeとかをやられているニューハーフでショーガールの方なんですけど、とにかくメイクが凄まじくて！独特の世界観をお持ちだし、喋り方も独特ですごく面白いんですよ。今、すごく気になってます」

she9

L → R 苑(Dr), AMI(Gu), なみだじゅり(Vo.), yuzu(Ba)

Dizzy Sunfist



L → R: moAi (Dr & Cho), あやべた (Vo & Gu), いやま (Ba & Cho)

“Dizzy Sunfistってこんなじゃないの？”っていうのが出せた

大阪生まれ、ハイスタ育ち。コロナ禍においても歩みを止めることがなかった Dizzy Sunfist からシングル「ANDY」 SPECIAL SET が届いた。メロディックパンクをアップデートした表題曲をはじめ、それぞれに違う魅力を持った計4曲には、聴いた人に笑顔になってもらいたいという想いが込められているという。

——新作「ANDY」は前作「EPISODE II」(2020年7月発表のEP)のアナログ盤、トートバッグ、ステッカー3枚と一緒にパッケージした完全数量限定のスペシャルセットというかたちでのリリースなんですね。
あやべた: 普段はサブスクで音楽を聴いている人たちにもCDを手にとってもらいたいと思ったんです。
いやま: そのための工夫です。
——それもあるのではないかと考えたのですが、リリース後のツアー「Looking for “ANDY” Tour 2021」のタイトルだったり、「Cutie Honey (English Ver.)」のカバー以外のオリジナル3曲に込められたテーマから考えると、Dizzy Sunfist からファンに向けた特別なギフトという想いもあったのでは？

あやべた: ギフトになるのかな？(笑) 今回のシングルは明るい曲で始まって、楽しく終わるっていうようなイメージがあって、とにかくテンションが上がる曲を届け

たかったんです。

——表題曲の「Andy」をはじめ、今回はどの曲も友情がテーマになっているじゃないですか。それはどんなところから出てきたものなのですか？

あやべた: 今も友達にすぐ会えない状況が続いているけど、そういう時に支えてくれるのは、やっぱり友達というか。逆に、「うちらが友達としてできることって何やろう？」って考えることも多かったんですよ。
——会えない友達や、支えてくれた友達の中には Dizzy Sunfist のファンも含まれているわけですね。

あやべた: うん。それはもちろん！

moAi: それともうひとつ、コロナ禍以降、ワンマンツアーを回ってきたんですけど、その中で、それまで同年代のバンドと当たり前にやってきた対バンの良さに改めて気づかされたっていうこともありますね。ワンマンのライブも面白いんですけど、先輩や後輩も含め、友達のバンドの存在ってありがたいって思っただけです。

いやま: 5月から始まる今回のシングルのツアーは対バンを迎えてやるんですよ。もちろん予定通りにできればですけど。ツアーをやりながら、友達とか関係者とかに会える喜びを実感しそうで、今、moAi の話を聞きながら楽しみになってきました(笑)。

——そんな今回のシングルですが、それぞれに違う魅力を持った4曲が収録されています。まず表題曲の「Andy」はいろいろな曲を作った中から選んだのですか？

あやべた: そうです。他にも候補曲があって「シングルの表題曲はどれにする？」ってすごく悩んだんですけど、「Andy」が一番 Dizzy Sunfist っぽいってことで。実は18年1月にリリースした2ndフルアルバム「DREAMS NEVER END」のレコーディングのプリプロの時からあった曲なんですよ。その時はメロディーが全然違って、メロディーがしっくりこないからという理由でレコーディングしない

で取っておいたんです。で、今回のシングルの曲を作る時に生き返らせたいというか、ちゃんと自分が納得のいくかたちに作りたいと思ったんです。そこで改めて、この曲と向き合ったらバツとメロディーが出てきたんですよ。

——オケは変わってないんですか？

moAi: オケも構成もほぼ変わってないですね。

あやべた: オケはその時からめっちゃめっちゃカッコ良かったんですよ。

moAi: 『DREAMS NEVER END』から今作までの間に2ndシングルの「STRO NGER」(2019年6月発表)と1st EPの「EPISODE II」をリリースして、実は毎回「Andy」のプリプロをしてたんです。その都度、メロディーを変えてやってみたんですけど、今回やっとかたちになりました。

あやべた: みんなは「いいんちゃう？」って毎回言うてくれたんですけど、自分的には「ん〜、これでいいのかな？」っていうのがずっとあって、「このメロディーでは出したくないな」って思ってたから、やっとみんなに聴いてほしいと思えるメロディーが降りてきてくれて。

——待った甲斐がありましたね。

いやま: これまでのメロディーも良かったと思うんですよ。でも、確かに今回、やっとハマった感がありました。すごくキャッチーになったと思います。

——2曲目の「Inspire」は現金強奪バトルゲーム「A.I.M.\$」の水樹奈々さんが声優を担当するキャラクターで、ありあのテーマソングだそうです。

あやべた: 『EPISODE II』のレコーディングの時に録ってあって、もともとあった曲だったんですけど、ゲームのお話をいただいた時、「あ、この曲ならぴったりや！」と思いました。

——「Andy」から一転、ハードでヘヴィな印象のある曲ですね。

あやべた: moAi がスタジオに持ってきたリフから作ったんです。リフを聴いた時、「めっちゃカッコいい！」って。ライブでやったら絶対にテンションが上がると思ったから、リフに負けないメロディーを作りました。

——Dizzy Sunfist のシングルと言え、カバーはもはや恒例ですが、今回の「Cutie Honey (English Ver.)」はどんなところからの選曲だったのですか？

あやべた: レーベルの社長の提案です(笑)。
moAi: 何の脈絡もなかったですね(笑)。で、「やりましょう！」ってなったんですけど、どうしても世代的に倅田来未さんっぽい曲になっちゃって、自分らしさを出すのはムズいってなり、オリジナルのアニメのバージョンを Dizzy Sunfist らしくリメイクしようってことになったんです。ギターソロもオリジナルのホーンのソロの音符をしっかりとそっているんですよ。なので、アレンジして面白かったです。

——4曲目の「Gimme Gimme Pizza!」はトランペットも鳴るスカパンクナンバーで、こういう楽しい曲も Dizzy Sunfist の作品には欠かせません。

あやべた: ただただピザが食べたいって曲なんですよ(笑)。

——そうなんですか？ 歌詞を聴いていると、それだけじゃないように思えるのですが。

あやべた: そうですね。ピザが食べたいし、みんなと遊びたいけど、今ってそういう機会が減っているじゃないですか。

——やはりそこが大事なわけですね。そんな4曲が収録された今回のシングルですが、どんな作品になったという手応えがありますか？

あやべた: 聴いてくれた人を笑顔にできる

と思ってます。これを聴いてライブに来てもらえれば、もっと笑顔になってもらえると思います。

いやま: 1曲目と最後の曲がすごく明るい曲になったので、こんな不安が続くご時世ですけど、これを聴いて元気になってくれる人がひとりでも、ふたりでもいたらと思ってます。

moAi: 原点復帰までとは言わないまでも、自分の中の Dizzy Sunfist 節というか、「Dizzy Sunfist ってこうなんじゃないの？」っていうのが出せたという気持ちがあります。ずっと聴き続けてきてくれた人はもちろん、ちょっと離れちゃった人、これから聴いてくれる人みんなに届けたいと思えるシングルになりました。

取材: 山口智男

okmusic

このインタビューの全文を公開中!!



「ANDY」 SPECIAL SET



Single 5/5 Release
CAFFEINE BOMB RECORDS
CBO-9
¥5,500(税込)
※完全数量限定盤
※「EPISODE II」12inch
レコード、トートバック、
ステッカー3枚付
* Dizzy Sunfist
ニューシングル
「ANDY」SPECIAL SET
取り扱い通販サイト
<http://squidarmy.com>

music UP's a!

今月のお題: 「今、気になっている人」

■あやべた…GIRLI

「外国人のラッパーの女の子で、髪も眉毛もピンクなんです。好きなブランドの Instagram を通して知ったんで、最初は容姿から入ったんですけど、彼女の曲を聴いたらすごく良くて！ 自分で曲も作って歌って、めちゃくちゃカッコ良くて可愛い最強の子なんです。お酒落し、服もピンクで…ピンクをまっとうしてるんですよ、同じピンクの髪の人として「負けたなあ」って思いました(笑)。みんなは彼女のことを知ってほしいですね」

■いやま…Pictured Resort

「先日、大滝詠一さんのサブスクが解禁になったじゃないですか。シティポップっていうか、ああいうジャンルをやっている現役の若いバンドを探してたら、誰かがコメント欄に「Pictured Resort がいいよ」と書き込んでるのを見て、実際に聴いてみたらずごく好きになって、シティポップだけじゃない、いろんな要素を持ってるし、オススメですね。調べてみたら大阪のバンドみたいだったんで、共通の知り合いがいいたら会ってみたいなあと思ってます」

■moAi…サツマカワ RPG

「最初は YouTube で「面白いな〜」と思って観てて、そこから単独ライブにも行くようになったんですよ。で、調べたら同い年だったんですよ。大喜利が得意だし、場の空気を作るのもうまいし、すごい頭が柔らかいんです。音楽をやってる人で同年代だと刺激になることがあるんですけど、独創的なお笑いを作る人が同い年にいるってことが、ここ一年間で一番の衝撃でした。テレビのゴールデンタイムとかに出ると「あ、頑張ってるな」と思うし、ずっと気になってます」

ネクライトーキー

ネクライトーキーをやっていくうちに“これがバンドだ”と思った

今まで主流だった楽曲のイメージをPCで作る方法ではなく、朝日(Gu)のギターと鼻歌から作ることが多かったという3rdアルバム『FREAK』。そんな楽曲制作の原点に立ち返って完成させた本作は、よりアグレッシブなサウンドに振りきりつつ、これまでのバンドの歩みも感じられる一枚となっている。

——昨年1月にリリースされたメジャーデビューアルバムのタイトルは“ZOO!!”でしたが、今作『FREAK』のジャケットには動物園にもいないような生き物が描かれていますね。
もっさ：こいつが頭の中に出てきたんです(笑)。“FREAK”という言葉より、ネクライトーキーとして生まれたというか。まず、バンドをひとつのキャラクターみたいにしたくて、もともとネクライトーキーのロゴに目がデザインされているので、ひとつ目の子がいいかなと。バンドってひとつの核があって、それにペタペタといろんなものがくっついて、まったく知らないかたちになっていくと思うんです。ネクライトーキーも変な人たちが集まってできたものだから、キメラみたいなものを想像して産まれ落ちました。
——今のネクライトーキーは5人の気持ち

ちが重なって、ひとつの生物のようなバンドになっている？
もっさ：そうですね。個々の意思がぶつかり合って固まっている、ちょっと歪なものみたいな。そういう得体の知れない気持ちをジャケットにしたかったんです。
——今作の楽曲にも少し似たような印象がありました。ネクライトーキーが今まで積み重ねてきたものを感じられる音楽になっていて、個々のパートの音が際立った歪さもあります。
藤田：今作は朝日のリフから作ることが多かったんです。バンド人生も長いので、以前はそういう作り方をすることのほうが多かったんですけど、ネクライトーキーではあまりなかったで、みんなで“いっせーの!”で鳴らして作り上げていくのが新鮮でしたな。
朝日：ネクライトーキーを始めてからは

PCを開いて作曲している時間が長かったんですけど、今回はそれをやめて、改めて和声とメロディーで曲を作ろうと思ったんです。だから、新鮮というよりか、遊ってるんですよね。ネクライトーキーで曲を作る時にギターと鼻歌だけで始めることをすっ飛ばしたので、逆にそこに戻り、やってなかったことをちゃんとやろうと。
タケイ：今までは僕以外のメンバーが関西に住んでいて、コンスタントに集まれる環境ではなかったのもあり、朝日がPCで作った曲をもとにするのはやりやすさもありました。でも、仕方なくそうしていた部分もあるのかな？
朝日：1stアルバム『ONE!』(2018年12月発表)では、あえて“俺はこういうバンドがいい”っていうのをはっきり示すためにやってたところもありますね。そのあと、ミニア

ルバム『MEMORIES』(2019年7月発表)では僕が石風呂名義で作った曲をカバーするという、出来上がっている曲をみんなで崩していく作業をやって、それがあったのちに『ZOO!!』で一緒に編曲をやっていたことが増えていきました。それでも最初のイメージをPCで作ることがあったんですけど、『FREAK』では俺のギターと鼻歌をスタジオで聴いてもらって作ってます。
——昨今はコロナ禍の影響もあってPCやネットを使ってアルバムを作るアーティストも多いですが、『FREAK』はコロナ禍以前からのバンドの流れで、逆にアナログ化していったと。以前から“朝日さんは石風呂の曲を誰かに歌ってほしかったのかな？”と感じていた、ネクライトーキーの結成時は“朝日さんのバンド”というイメージも強かったで、今のお話はすごく大きな変化に思えます。
朝日：誰かに歌ってもらいたいとは思っていました。石風呂としてひとり作っていた曲を自分で歌う気持ちにはなれなくて、単純に自分が持っていない声の欲しいというのが始まりました。それからもっさの声を知って、ライブを観てカッコ良いバンドマンだなと思って…きっかけこそ声だったんですけど、ネクライトーキーをやっていくうちに、みんな面白いくらいに言うことを聞かないけど、“これがバンドだ”って思ったんですよ。だから、もう全部壊してもいいから手綱を手放そうと。
中村：放し飼いですか？
タケイ：諦め？
——あははは、放し飼いはちょっと近いかもしれませんね(笑)。
朝日：“もう俺の知らないところで暴れてもらおう”みたいな感じです。そこでちゃんとやり合うのがバンドなんだって思えたし、すでにネクライトーキーがそうになっていて、“こういうバンドが一番好きだ”って気づ

きました。結成時は中心にいたのが自分なので、最初は“こういうヴォーカリストがいて、こういうアレンジで、こんなライブをして〜”って細かく考えてたんですけど、今は何も考えてないです(笑)。メンバーが面白くて、みんな俺の知らない音楽をやっているから、その中でギターを弾けるだけで楽しい。メンバーに負けないくらい面白い曲を作って、面白いギターを弾きたいです。
——ネクライトーキーっていつも怒ったり、嘆いていたり、“今”の気持ちが表現されている印象だったんですけど、『FREAK』ではやさしさが滲み出ているように感じたのが新鮮でした。今までのことを思いながら、今だからこそできる表現で感情を表しているというか。
朝日：本当は怒っていたんですけどね(笑)。でも、前作の『ZOO!!』で最後のほうにできた「朝焼けの中で」の歌詞を書いた時に、“もっとこういう気持ちで歌詞を書きたい”って思ったんですよ。怒ったり嘆いたりする曲は結構書いたけど、せっかくひとつの曲に対して3分くらいかけてボエムを詰め込むんだから、ひとりで説明できることを3分に引き延ばすんじゃなくて、ひとりで説明できないことを歌詞にしていきたいと思うようになりましたね。「朝焼けの中で」は自分の中でちゃんと名前がついてない気持ちを歌詞にしているから、怒る前に“なぜそうなったんだろう？”ってことにも向き合いたいなと。分かんないんですけど、今作はそこから始めようと思ってたかもしれないです。
藤田：歌詞って楽曲を作る中で最後にできることが多くて、“そんな歌詞が乗るんだ!?”って意外に思う時もあるんですけど、「大事なことは大事にできたら」はアレンジの時から何となくこういう歌詞がきそうって想像しながら作ったので、気持ちの変化は感じていたし、そこに寄せることも

できた気がします。
——今までの時間を愛おしく思うようなアルバムですね。
朝日：作れて良かったって思ってます。
タケイ：僕も同じ気持ちで、プレイヤーとして新しい気づきだったり、トライしてみたこともいくつかあって、出しきった満足感もありつつ、もっと考えたなら良くなりそうな部分もあったので今後が楽しみです。
藤田：今までやってこなかったアレンジや表現をやった、この範囲まで踏み込んでもネクライトーキーでいられるんだから、次はもっといろんなことをしたいですね。
中村：私も満足っていう気持ちがあります。それに、こういう不思議なアルバムが作れたのは、私生活では友達にならないような人とバンドを組めたからなのかなって。悪い意味じゃなく、音楽をやったからこそ出会えたっていうことで(笑)。5人の個性を見たり混ぜたりできて、面白いアルバムになったと思います。
もっさ：よりバンドらしくなったので、逆にこれが一歩目かもしれないです。このスタンズで作る2枚目も楽しみですな。

取材：千々和香苗



このインタビューの全文を公開中!!▶



『FREAK』



Album 5/19 Release
Sony Music Associated Records
【初回生産限定盤】
(CD+Blu-ray)
AICL-4053
¥5,280(税込)
【通常盤】(CD)
AICL-4055
¥3,080(税込)

music UP's α!

今月のお題：「今、気になっている人」

■もっさ…井上 銘

「ジャズギタリストの方で、めっちゃ気になってます。ギターを紹介する試奏動画を観たんですけど、もう呼吸が乱れるくらいにすごくて…それまでジャズギタリストの方をあまり知らなかったで、こんなに自由に弾けるんだ!」って初めてズッキンときました(笑)」

■朝日…Louie Zong

「知り合いの方がディスクレビューを書いてたのをきっかけに知ったんですけど、ギタリストで音楽をやって、絵も描いている多彩な方なんです。例えば音楽講座の動画も投稿してるとんですけど、アニメーションも自分で作っていて、いいな〜と思っていつも見てます」

■藤田…夢咲刻夜

「主にゲームの配信をしている方で、TRPGっていうロールプレイングをしながら進めていくゲームのプレイがめちゃくちゃまかっただんです。刻夜さんがやってる他のロールプレイングも気になるんですけど、一本の動画で5時間くらいあるから、それを観るために時間を作りたいです」

■カズマ・タケイ…アンジャッシュ 児嶋一哉

「今まで詳しく知らなかったんですけど、昨年から始められたYouTubeを観始めて、すごく人柄が魅力的な方なんだなって。内容よりも児嶋さん目当てで観ていて、何をやっても楽しくて、周りの人にも愛されているし、“何でこんなに素敵なんだろう?”って思ってます」

■中村郁香…『Among Us』の配信者

「人狼系ゲーム『Among Us』を配信してる方たちが、『Among Us』がなくなったら次に何を配信していくのが気になってます。グループでやっていくのか、個人のゲームに戻るのかな? みなさん他の人に分かりやすくするまでゲームのことを突き詰めているから、たぶん次のことも考えてると思うので知りたいです」

【左から】中村郁香(Key)、もっさ(Vo&Gu)、藤田(Ba)、朝日(Gu)、カズマ・タケイ(Dr)

バンドじゃないもん！ MAXX NAKAYOSHI

“こんなに自由に生きていいんだよ”ということを伝えたい

バンドじゃないもん！ MAXX NAKAYOSHI(以下、バンもん！)初のベストアルバム『バンもん！ BEST- 極仲良の世界』がリリースされた。華やかな楽曲や前向きな歌詞、固定概念を打ち砕く独自のアイドル像など、バンもん！の魅力が満喫することができる。強い光を放つ彼女たちの最新の声をお届けしよう。



— R — ななせくみ、甘夏ゆず、恋夕りんこ、鈴姫みさこ、望月みゆ、大桃子サンライズ

——バンもん！初のベストアルバムはどんな流れでリリースが決まったんですか？

みさこ：昨年デビュー 8 周年を迎えて、「末広がり」というテーマでツアーや音源製作とか、いろんなことをやろうと思っていたんですけど、コロナ禍の影響で思うようにレコーディングができなかったので、このタイミングでベストアルバムを作ることに決めました。今作をきっかけにもっとたくさんの人にバンもん！を聴いてもらいたくて、初めて触れる人にオススメできる“これぞ、バンもん！”という曲とか、“これを聴くとバンもん！が気になるでしょ？”という曲を揃えたいと思ったんです。それを一番分かっているのはファンのみなさんなので、楽曲を投票してもらいました。

——ファンのみなさんと深い絆を感じます。バンもん！らしさとクオリティの高さを併せ持った良質な楽曲が揃っていることも注目ですね。

みさこ：音楽面は普段からすごくこだわっていて、好きじゃない曲は絶対に出したくないと思っているんです。もちろん聴いてくださる方のごことを考えて、誰かに届けるということを考えて楽曲を作っていたり、私は歌詞を書かせてもらって

ますけど、自分たちがやりたいことをやらないと後悔すると思うんですよ。“これは喜んでもらえるだろう”と思って作ったのにうまくいかなかったこともいっぱいあるけど、自分たちが好きでやっていることだったら納得できるので。

——いいですね。そういうスタンスにはロック／パンク系のバンドに通じるものを感じます。

みさこ：私たちはかなりバンド感がありますね。バンもん！はプロデューサーがいなくて、今のメンバーになる前からずっと“女の子は好きなことをしている時が一番可愛い。だから、その姿を見せる”というのが根本のコンセプトとしてあるんです。それが、今までのアイドルからはみ出しているけど、ポストアイドルとして好きなことをやっている時の一番輝いている姿を見せて、“こんなに自由に生きていいんだよ”ということを伝えたい。そういうスタンスなので、誰かに作り込まれたアイドルとは全然違うし、バンドに近いと思います。

——本当に好きなことを追求していて、なおかつクオリティが高いものを提示しているアーティストはアツい支持を得やすいね。では、今作でのそれぞれの推し曲を

教えていただけますか？

大桃子：私は 1 曲目の「ゴッドソング」です。これはメンバーも本当に好きな曲で、今回の投票でも 1 位だったんですよ。私たちのテーマとして“いかに自分の人生を素晴らしいものに創造していくか”というのがある、人類に対して肯定していくのがバンもん！のあり方だと思っているんですけど、「ゴッドソング」にはそれが全部詰まっているんです。

ゆず：今のものの話にちょっと近いところがあって、私の推し曲は「Q. 人生それでいいのかい？」です。みさこが歌詞を書いてくれていて、サビに《きみが愛して愛されないま／生きていくなで許さない》という言葉があるんですね。私はそれ肯定の気持ちにあられた言葉だと思えます。“君の人生は君が主役だし、自由に生きて君が愛されないまま生きていくなで許さない”ということをファンのみんなにも伝えたいんですよ。“どん底から這い上がってやる！”という泥臭さからだけではなく、あくまでもハッピーな中から生まれる言葉がすごくバンもん！らしくて、それをたくさんの人に届けたいと思います。

恋夕：しおがベストアルバムに入って良

かったと思うのは「6 RESPECT」です。それぞれのキャラが濃くて、各々のペクトルで好きなことをやっているメンバーの“他己紹介ソング”なんですけど、実はもうひとつ“たご”が隠れているんですよ。

みさこ：えっ、どこ？

恋夕：サビに“多幸感”があります！（笑）

全員：おおー！（拍手）

恋夕：歌詞をみーちゃん（みさこの愛称）が書いてくれたんですけど、“楽しもうよ！”とか“愛し合おうよ！”というのを、サビでやかましくぶつけてくるみたい（笑）。そういう感じが「バンもん！らしいな」と思って、しおはこの曲が大好きなんです。

くみ：くみの推し曲は「君の笑顔で世界がやばい」です。これは結構前の曲ですけど、バンもん！はいつも同じメッセージを発信していると思うんですよ。みんなも話してくれたけど、押しつけがましい愛だったとか（笑）。“愛されなきゃダメ”というメッセージだったり、ラブ&ピースを「君の笑顔で世界がやばい」の頃から歌っているんですよ。昨年作った「ゴッドソング」も、くみの中では「君の笑顔で世界がやばい II」みたいな感覚があったんです。今作には変わりがながらも変わらないバンもん！の姿が、詰まっているんじゃないかなと思います。

みゆ：私は「レジェンドあいらぶゆー」です。自主レーベルを立ち上げて、コロナ禍になり、その中で「6 RESPECT」とか「ゴッドソング」をリリースして…その上で、バンもん！が昨年 10 月に出したこの「レジェンドあいらぶゆー」というふざけた曲で（笑）。これは本当に「バカやろうぜ！」とみんな話して作った曲で、バンもん！は遊

んでいる曲がいっぱいあるけど、そんな中でもこれは抜群に遊びました。久しぶりにお客さんの前でライブをした時に初披露できた曲だから、いろんな感情があるんですよ。バカな曲だけど、“やっとみんなの前でライブができたよ！”という嬉しい気持ち、ずっとこの曲には残っているんです。

——みさこさんの推し曲はどれでしょう？

みさこ：個人的にこれを語らずしてというのは「ショコラ・ラブ」です。他のアイドルさんや後輩ちゃんたちがカバーしてくださっていて、大きめのアイドルイベントに出させていざと、バンもん！じゃないステージから聴こえてくるんですよ。独り歩きしてくれるくらい曲になってすごく嬉しいし、ありがたいことだと思っています。——ハッピーかつアッパーな曲が詰まっているながらエモーションな曲も入っていることは、このアルバムの大きな魅力になっています。さらに新曲「O（オー）」が収録されていることも見逃せません。

みさこ：「O」はもともと 10 曲目に入っている「White Youth」みたいな曲が欲しいと話していたんです。ライブでも盛り上がり、心に響くような曲が。だから、「White Youth」を作ってくださった奥脇達也さんに曲をお願いして、歌詞は私が書きました。歌詞のテーマは“ものすごく巨大な愛”で…私は永遠とか諸行無常ということを日々意識していて、いつか必ず終わるものの中で変わらないものはすごく輝いていると思うんですよ。一瞬しか残らないものだからこそ美しいんだと。「O」はそんな想いが詰まった曲です。

——「O」も代表曲のひとつとして根づいて

いく予感します。それぞれが強い想いを抱いて「バンもん！」に取り組んでいることを改めて感じるだけに、今後の活動も楽しみます。**みさこ**：バンもん！はできる限り長く続けていって、純烈さんみたいにになれるといいなと思っています。アイドル的な存在でありながら、自分の人生やプライベートなところも謳歌できるようなところに行きたい。最近、みんなとそうい話をしているんです。“アイドルだからしゃいけなない”というようなことは取っ払っていきたいですね。それが誰かに夢や希望を与えることになると思うから。これからもバンもん！のメンバーみんなの幸せな姿をたくさんお届けしたいと思います。

取材：村上孝之



このインタビューの全文を公開中！！▶



『バンもん！ BEST- 極仲良の世界』



Album 5/19 Release
NAKAYOSHI RECORDS
【初回限定盤】
（CD+DVD+エムカード）
NKYR-1001
¥5,500（税込）



【通常盤】（CD）
NKYR-003
¥2,500（税込）

music UP's

今月のお題：「今、気になっている人」

■鈴姫みさこ…ファイルズあい

「ジョジョの奇妙な冒険」シリーズの第 6 部「ジョジョの奇妙な冒険 ストーンオーシャン」で、主人公の空条徐倫役を演じられた声優さんなんですけど、特別配信で“この役が決まって嬉しい”と泣いてらして、お父さまがエジプト人で、エジプトの学校に通っていた時期があったから、帰国して日本の学校に馴染めなかった時に「ジョジョ」に出会って人生が救われたそうなんです。しかも「ジョジョ」にも邪悪院仄仄で参加されて、その時の悪役ぶりがも素晴らしかったんで、ずっと気になっている声優さんです」

■恋夕りんこ…兎田べこら

「しおがバンもん！に入る前からオリジナル曲を作ってくださっている IOSYS のまるさんや Twitter でフォローしているんですけど、最近タイムラインにバーチャル YouTuber の話がたくさん流れてくるようになって知りました（笑）。兎田べこらさんはビジュアルがすごく可愛くてしおの好みです♡ 水色の髪を三つ編みにして、ニンジンが刺さっているんですよ。最初の自己紹介動画では恥ずかしがり屋さんだったのに、途中で全然恥ずかしがらなくなって元気で可愛い、いじられキャラになったところも可愛いです」

■ななせくみ…以前住んでいた家の管理人さん、近所のビルの清掃員さん「もうっ！越してしまっただけなんですけど、前に住んでいた家の管理人だったおじさんと仲が良かった。たまに“元気かな？”って気になってます。あと、隣のビルの清掃員だったおばさんと仲良くさせてもらって、“俺たちはくみちゃんのファンクラブだから”って言ってくれてたんですけど、今も続いているのかって（笑）」

■望月みゆ…ゆっくり不動産

「バンもん！チャンネル」を始めてから YouTube で関連動画を観るようになって、最近は空き物件を内見していく「ゆっくり不動産」が気になってます。語りの人が機械的な声なんですけど、九州の言葉を使っている、私も九州出身なので同じ方の人かなと思うけど、毎回変わった物件が出てくるから、よくお風呂に入りながらずっと観ちゃってます」

■甘夏ゆず…加藤清史郎

「ももはいつも推しちゃんがいって幸せそうだから羨ましかったんですけど、私は探しても見つからなくて…そしたら最近、加藤清史郎くんにビビッときたんです！ 以前は CM で子供店長をやったけど、今は大人になって、テレビに出ているのをたまに覗けたから、観れば観るほど可愛くて、“これが推しへの第一歩の感情なのか！”と思いました。まだ確信が持ててないけど、いつか清史郎くんが写真集を出してサイン会をすることがあったら行きたいです」

■大桃子サンライズ…矢花 黎（7 MEN 侍）

「7 MEN 侍はアイドルだけどバンドをやってて、全編楽器の演奏による曲もあれば、全員で歌う曲もあるので、バンもん！と構成が似てるんです。私が好きな矢花くんは現役音楽生で、ファンにフレーズの弾き方を教える動画もあるし、音楽に対するこだわりが強いから自分たちの楽曲のことも真剣に考えていて、尊敬してます。いつか「関ジャム 完全燃 SHOW」で 7 MEN 侍とバンもん！が同じ回で紹介してもらえたらいいなって思ってます」



バンドじゃないもん! MAXX NAKAYOSHI

Interview ... 宮野真守 ヒトリエ angela 小松未可子 ネクライトーキー PERSONZ
Editor's Talk Session ... 『姫路Beta出身のバンドたちによる支援コンビ盤「VERSUS FATE」』
music UP's Q! ... 『今、気になっている人』